



# *WebLight* **QUTE**



ウェブライトキュート  
タッチパネル情報端末「WebLightQute」

QDT107WLGD シリーズ

ソフトウェアマニュアル

Version 1.0.0

---

このたびは、タッチパネル情報端末「WebLightQute」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、本装置の機能、取り扱い方法などを十分ご理解の上、正しくご使用くださるようお願い致します。

また、ご不明な点につきましては、販売代理店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

---

## はじめに

このたびは、弊社の WebLightQute をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、「クオリカ」情報端末 WebLightQute のソフトウェアマニュアルです。

本書では本製品にインストール済みのオペレーティングシステム Windows XP Embedded の基本的な機能紹介と操作方法、また、出荷時オプションで搭載されている FeliCa モジュールの基本的な使用方法について説明しています。

本製品をご使用になるには、必ず本書およびハードウェアマニュアルに記載された正しい手順でお使い下さい。

### 【お願い】





- 本ソフトウェアマニュアルは、必要に応じていつでも読めるように大切に保管ください。
- 本書の内容および本装置の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、お手数ですが弊社営業またはサポートセンター窓口までご連絡ください。
- 本書の適用の結果生じた間接障害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容の一部または全ての無断転載、無断複写は禁止されております。
- 本装置は外国為替および外国貿易管理法の規定により、日本国外に輸出する場合には日本国政府の許可が必要です。

### 【保証について】

- 本書の注意書きに基づく正常な使用状態のもとで、保証期間内に万一故障し弊社がそれを認めた場合、無償にて故障個所の修理または交換を致します。
- 本製品の故障またはその使用により誘発される二次的な災害については、弊社はその責任を負わないものとします。
- 情報端末「WebLightQute」を正しく安全にご使用いただくため、下記の安全注意事項を必ずお守りください。これらの注意事項に反した取り扱いにより生じた損害について、当社は責任と保証を致しかねます。

## 【表記記号について】

本書では、本装置のソフトウェアを正しくご使用頂く為に、以下のような表記記号を使用しています。

 <b>警告</b>	取り扱いを誤った場合に、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合の注意事項です。
 <b>注意</b>	取り扱いを誤った場合に、本装置を含む物的損害の発生が想定される場合の注意事項です。
 <b>重要</b>	装置の使用上の詳しい説明や、具体的手順についての解説及び注意事項です。
	知っておくと有益な情報についての解説及び注意事項です。

## 【登録商標について】

WebLight は、クオリカ株式会社の登録商標です。

ActiveDirectory, ClearType, DirectX, DirectDraw, DirectPlay, Microsoft, MS-DOS, MSDN, NetMeeting, Outlook, Visual C++, Visual Studio, Win32, Windows, Windows Media, Windows NT, Windows スタートロゴ, Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

## ソフトウェア使用許諾契約書

本使用許諾契約書は、本システムに含まれるソフトウェアに関してお客様（個人または法人の何れであるかを問いません）とクオリカ株式会社との間に締結される法的な契約書です。

本ソフトウェアは、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は、本使用許諾契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本使用許諾契約書の条項に同意されない場合、お客様は、本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

### 【ソフトウェアライセンス】

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

本契約書はお客様に対し、以下の非独占的かつ制限のある権利を許諾します。

#### A. バイナリコード

本ソフトウェアを含むバイナリコードは本ソフトウェアと対であるハードウェア上でのみにインストールや使用を許諾します。

#### B. 再頒布の禁止

本ソフトウェアを含むバイナリコードを第三者に配布することを禁止します。

#### C. その他の権利

本契約書にとくに規定されていない権利はすべてクオリカ株式会社によって留保されます。

### 【著作権】

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、クオリカ株式会社が有するものです。本ソフトウェアを使ってアクセスできるコンテンツについての権限および無体財産権はコンテンツの所有者の所有物で、適用される著作権法および著作権に関する条約の規定によって保護されています。本契約書は、お客様にかかるコンテンツの使用権を許諾するものではありません。本契約書に特に規定されていない権利はすべてクオリカ株式会社によって留保されます。したがって、お客様は本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。

また、お客様は、クオリカより提供されるコピーデータを本ソフトウェアと対となるハードウェアに復元する以外の目的で使用することはできません。

お客様は、本ソフトウェア付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。

## 【その他の権利と制限】

### A. リバース エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

### B. サポート

クオリカ株式会社は本ソフトウェアを用いたお客様のアプリケーション開発について原則としてサポートを提供していません。

### C. レンタル

お客様は本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

### D. ソフトウェアの譲渡

本契約に基づいたお客様の権利を譲渡することはできません。

### E. 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、クオリカ株式会社は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアの複製物およびその構成部分をすべて破棄しなければなりません。

その他本契約は、日本国法に準拠するものとします。

## 【保証】

本ソフトウェアを変更なしに対となるハードウェアで使用した場合のみ動作を保証します。

本ソフトウェアにお客様のアプリケーションを追加した場合の動作の保証はできません。

また、変更あるなしにかかわらずお客様による本ソフトウェアのいかなる使用についても、そのリスクはお客様が負うもので、クオリカ株式会社は責任を負うものではありません。

## 【責任の制限】

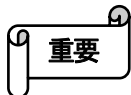
クオリカ株式会社は、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じる一切の損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません）に関して一切責任を負いません。

たとえ、クオリカ株式会社がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

# マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

お客さまが Windows XP Embedded を搭載した本装置をご利用いただくには、マイクロソフト社のソフトウェア再使用許諾契約書である「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項」への同意が必要です。

ご利用の前に必ず下記文章をお読みになり、内容に同意した上で本装置をご使用ください。



この契約内容に違反した場合、ライセンスを破棄される場合があります。

## マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項：

### Windows® XP Embedded Runtime

本ライセンス条項は、お客様と クオリカ株式会社 との契約を構成します。以下のライセンス条項を注意してお読みください。これらのライセンス条項は本デバイスに含まれる本ソフトウェアに適用されます。本ソフトウェアには、本ソフトウェアが記録された別の媒体も含まれます。

本デバイスのソフトウェアには、マイクロソフトまたはその子会社からライセンス許諾されたソフトウェアが含まれています。

また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

更新プログラム

追加ソフトウェア

インターネットベースのサービス

サポート サービス

ただし、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合は、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様がマイクロソフトから更新プログラムまたは追加ソフトウェアを直接入手された場合、クオリカ株式会社 ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアを許諾します。

以下に説明するように、一部の機能を使用することにより、インターネットベースのサービスのために特定のコンピュータ情報を送信することにお客様が同意されたものとします。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用または複製することはできません。この場合、クオリカ株式会社 に問い合わせ、お支払いいただいた金額の払戻しに関する方針を確認してください。

お客様が本ライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には以下が許諾されます。

#### 1. 使用に関する権利。

お客様は、本ソフトウェアを取得したデバイスで本ソフトウェアを使用できます。

#### 2. 追加のライセンス条件および追加の使用権。

- a. **固有の使用。** クオリカ株式会社 は、本デバイスを特定の目的で使用するよう設計しています。お客様は当該使用目的に限り本ソフトウェアを使用できます。
- b. **その他のソフトウェア。** お客様は、他のプログラムが以下の条件を満たす場合に限り、本ソフトウェアで他のプログラムを使用できます。

- ・ 製造業者の固有のデバイス使用目的を直接サポートする。
- ・ システム ユーティリティ、リソース管理、またはウイルス対策や類似する保護対策を提供する。

コンシューマまたはビジネス タスクやプロセスを提供するソフトウェアを本デバイスで実行することはできません。該当するソフトウェアには、電子メール、ワード プロセッサ、表計算、データベース、スケジュール作成、および家計簿ソフトウェアが含まれています。本デバイスは、ターミナル サービス プロトコルを使用して、サーバーで実行されるこれらのソフトウェアにアクセスできます。

### c. デバイス接続。

- ・ お客様は、ターミナル サービス プロトコルを使用して、電子メール、ワード プロセッサ、スケジュール作成や表計算などのビジネス タスクやプロセス ソフトウェアを実行する別のデバイスに本デバイスを接続することができます。
- ・ お客様は、最大 10 台のデバイスに本ソフトウェアへのアクセスを許可し、以下を利用することができます。
- ・ ファイル サービス
- ・ プリント サービス
- ・ インターネットの情報サービス
- ・ インターネット接続共有サービスおよびテレフォニー サービス

この 10 台という制限は、「マルチプレキシング」または接続数をプールするその他のソフトウェアもしくはハードウェアを介し本ソフトウェアに間接的にアクセスするデバイスにも適用されます。お客様は TCP/IP を介していつでも無制限に受信できます。

**3. 使用許諾の適用範囲。** 本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本契約は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。クオリカ株式会社 およびマイクロソフトはその他の権利をすべて留保します。適用法によりこの権利を超越した権利が与えられる場合を除き、お客様は本契約書で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、本ソフトウェアに組み込まれた使用方法を制限する技術的制限に従うものとします。詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、クオリカ株式会社 にお問い合わせください。上記の制限にもかかわらず、法律上許容される範囲において、以下の行為は一切禁止されています。

- ・ 本ソフトウェアの技術的な制限を回避する方法で利用すること
- ・ 本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること
- ・ 本契約書に指定される数を超えて本ソフトウェアの複製を作成すること
- ・ 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること
- ・ 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること
- ・ 本ソフトウェアを商用ホスティング サービスで利用すること

本契約書で定められている場合を除き、任意のデバイス上で本ソフトウェアにアクセスする権利は、当該デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスに関するマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利をお客様に付与するものではありません。

お客様は、リモート デスクトップなどのリモート アクセス技術を使用して、別のデバイスから本ソフトウェアにリモート アクセスすることができます。他のソフトウェアにアクセスするプロトコルの使用に必要なライセンスの取得にはお客様が責任を負うものとします。

- ・ リモート ブート機能。クオリカ株式会社 がデバイスにおいて本ソフトウェアのリモート ブート機能を有効にしている場合、お客様は以下の操作ができます。
  - (i) 本ソフトウェアの複製 1 部をお客様のサーバーにインストールして、ライセンス取得済みデバイスにリモート ブート プロセスの一環として展開するためのみに Remote Boot Installation Service (RBIS) ツールを使用する。

- (ii) リモート ブート プロセスの一環として本ソフトウェアをデバイスに展開するためのみに Remote Boot Installation Service を使用する。
- (iii) 本ソフトウェアをライセンス取得済みデバイスにダウンロードして、ライセンス取得済みデバイスで使用する。

詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、クオリカ株式会社 にお問い合わせください。

- インターネットベースのサービス。マイクロソフトは、本ソフトウェアと共にインターネットベースのサービスを提供します。マイクロソフトは随時このサービスを変更または中止できるものとします。

- a. **インターネットベースのサービスに関する同意。** 本ソフトウェアには、以下に説明するインターネットを経由してマイクロソフトのコンピュータ システムに接続する機能が含まれます。接続が行われる際、通知が行われない場合があります。これらの機能を解除したり、使用しないことも選択できます。これらの機能に関する詳細については、以下の Web サイトをご参照ください。

<http://www.microsoft.com/windowsxp/downloads/updates/sp2/docs/privacy.msp>

これらの機能を利用することで、お客様はマイクロソフトがこれらの情報を収集することに同意されたものとし、マイクロソフトはこれらの情報を利用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。

- b. **コンピュータ情報。** 以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ならびに本ソフトウェアをインストールしたデバイスの言語コードなどのコンピュータ情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネットベースの複数のサービスを提供するためにこれらの情報を利用します。

- **Web コンテンツ機能。** 本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。コンテンツを提供するために、これらの機能は、お客様が使用しているオペレーティング システムの種類、本ソフトウェアの名称およびバージョン、本ソフトウェアをインストールしたデバイスのブラウザの種類および言語コードをマイクロソフトに送信します。この機能の例として、クリップ アート、テンプレート、オンライン トレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が含まれます。これらの機能は、起動しない限り動作せず、お客様は、これらの機能を解除することも、使用しないことも選択できます。

- **電子認証。** 本ソフトウェアはデジタル証明書を使用します。これらの電子認証は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネット ユーザーを特定します。本ソフトウェアは証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。このセキュリティ機能は、お客様がインターネットに接続した場合にのみ作動します。

- **Auto Root Update。** Auto Root Update 機能は信頼できる認証機関のリストを更新します。Auto Root Update 機能は解除することができます。

- **Windows Media Player。** お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して以下が確認されます。

- お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
- Windows Media Player の最新バージョン
- Codec (コンテンツの再生に必要な Codec がデバイスにない場合)。お客様は、この機能を解除することができます。詳細については、<http://microsoft.com/windows/windowsmedia/mp10/privacy.aspx> をご参照ください。

- **Windows Media Digital Rights Management。** コンテンツ所有者は、著作権を含む知的財産権を保護する目的で、Windows Media Digital Rights Management (WMDRM) 技術を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM で保護されたコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ所有者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM を使用して再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要請することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードする際、お客様はマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ所有者は、お客様がこれらのコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウ



ウェアは、アップグレードに先立ってお客様の同意を求めます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。インターネットに接続する WMDRM 機能は解除することができます。この機能が解除されている場合、正規のライセンスを取得している限り、コンテンツを再生することは可能です。

c. インターネットベース サービスの不正使用。お客様は、これらのサービスにダメージを及ぼす可能性のある方法、または第三者によるサービスの使用を妨げる方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへの不当なアクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。

4. Windows Update Agent (Software Update Services と呼ばれます)。デバイスにインストールされた本ソフトウェアには、必要なサーバー コンポーネントがインストールされたサーバーにデバイスを接続して更新プログラム (「Windows Update」) にアクセスできるようにした Windows Update Agent (「WUA」) 機能が含まれています。Windows Update が付属するこのマイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項または他の EULA の免責に限らず、お客様は、デバイスにインストールする Windows Update について、マイクロソフトおよびその子会社は保証を行わないことを認め、同意するものとします。

5. 製品サポート。サポート方法については、クオリカ株式会社 にお問い合わせください。サポートの連絡先については本デバイス付属の文書をご参照ください。

6. バックアップ用の複製。お客様は、本ソフトウェアのバックアップ用の複製を 1 部作成することができます。バックアップ用の複製は、お客様が本ソフトウェアを本デバイスに再インストールする場合に限り使用することができます。

7. ライセンス証明書 (「Proof of License」または「POL」)。お客様が本ソフトウェアを本デバイスにインストールされた状態、CD-ROM またはその他の媒体で入手された場合、本ソフトウェアが正当に許諾されたものであることは、正規のマイクロソフト「Certificate of Authenticity」ラベルが正規の本ソフトウェアに付属していることをもって識別することができます。正規のラベルはデバイス上もしくは クオリカ株式会社の ソフトウェア梱包に貼付されている必要があります。ラベルが別途付属する場合は、無効とみなされます。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルが貼付されたデバイスもしくは梱包材を保管してください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、<http://www.howtotell.com> をご参照ください。

8. 第三者への譲渡。お客様は、本ソフトウェアを、本デバイス、Certificate of Authenticity ラベル、および本契約書と一緒にのみ、第三者に直接譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受人は本ライセンス条項が、譲渡および本ソフトウェアの使用に適用されることに同意しなければなりません。お客様は、バックアップ用の複製を含む本ソフトウェアの複製を一切保持することができません。

9. 非フォールトトレラント。本ソフトウェアは、フォールトトレラントではありません。クオリカ株式会社 は、本ソフトウェアを本デバイスにインストールし、本デバイスでの本ソフトウェアの実行に責任を負います。

10. 使用の制限。マイクロソフト ソフトウェアは不具合に対して自動的に対応できる機能または性能を持たないシステムを対象にしています。お客様は、万一誤作動した場合に人身傷害もしくは死亡につながる可能性のあるデバイスまたはシステムでマイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。使用の制限には、原子力施設の操業、航空機の航行、通信システム、および航空管制が含まれます。

11. 本ソフトウェアの保証なし。本ソフトウェアは、何ら保証のない現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用から生じるリスクは、お客様が負うものとします。他の明示的な保証または条件は規定いたしません。本デバイスもしくは本ソフトウェアに関する保証は、マイクロソフトまたはその子会社が負うことはなく拘束されるものではありません。法律上許容される最大限において、商品性、特定目的に対する適合性、非侵害性に関する黙示の保証について クオリカ株式会社 およびマイクロソフトは一切責任を負いません。

12. 責任の制限。マイクロソフトおよびその子会社の責任は、250 米ドル (US\$250.00) を上限とする直接損害に限定されます。その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。

- 本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます) または第三者のプログラムに関連した事項
- 契約違反、保証違反、無過失責任、または該当法で許可されている範囲の過失に関する主張

マイクロソフトがこのような損害の可能性について知らされていた場合も制限が適用されるものとします。上記の制限は、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または責任の制限が認められないため、適用されない場合があります。

13. **輸出規制。** 本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法を遵守することに同意されたものとします。これらの法律には、輸出対象国、エンドユーザーおよびエンドユーザーによる使用に関する制限が含まれます。詳細については [www.microsoft.com/japan/exporting](http://www.microsoft.com/japan/exporting) をご参照ください。

## 本マニュアルの手引き

本書は、WebLightQute に付属しているソフトウェアを正しくお使い頂くためのマニュアルです。ハードウェアに関してはハードウェアマニュアルをご参照ください。

### ○必ず最初にお読みください

項目	内容	記載ページ
序章	本装置を使用する際のお願い、保証、本書で使用されている表記記号、登録商標、ソフトウェア使用許諾契約書などについて記載しています。 <u>本装置使用前には必ずお読みください。</u>	ii

### ○必要に応じてお読み下さい

項目	内容	記載ページ
本製品の概要	本装置の特徴・製品ラインナップ、製品ごとの搭載ソフトウェアの構成について説明しています。	1
起動と終了	主に本装置の電源投入方法や、電源管理モード、緊急時の端末の終了方法について説明しています。	5
システムドライブプロテクト	システムドライブを書き込みからプロテクトする方法、またその運用方法について説明しています。	10
タッチパネル	主にタッチパネルを使用した入力方法及び、タッチパネルユーティリティの設定、運用方法について説明しています。	20
ネットワークの設定	ネットワーク(有線 LAN、無線 LAN)の設定方法について説明しています。	31
ディスプレイの設定	ディスプレイの表示等に関する設定方法について説明しています。	45
アプリケーションの自動起動	OS 起動時に、自動的に起動するアプリケーション、バッチを登録する方法について説明しています。	51
ソフトウェアキーボード	本装置付属のオリジナルソフトウェアキーボードを使用した文字入力の方法について説明しています。	59
ブラウザ	本装置付属のオリジナルブラウザの使用方法・運用方法について説明しています。	81
ラウンチャ	他のアプリケーションを簡単に起動するためのツールの使用方法・運用方法について説明しています。	102

リカバリ	本装置のシステムを工場出荷時状態へ戻すための方法について説明しています。	112
アプリケーション の追加	本装置に付属していないソフトウェアをインストールする方法及びその注意事項について説明しています。	113
QFE インストーラ	Microsoft 社より提供されるセキュリティパッチのインストールに方法について説明しています。	114
FeliCa	出荷時オプションの FeliCa カードリーダー/ライタの使用方法について説明しています。	115

## 目次

はじめに.....	ii
【お願い】.....	ii
【保証について】.....	ii
【表記記号について】.....	iii
【登録商標について】.....	iii
ソフトウェア使用許諾契約書.....	iv
【ソフトウェアライセンス】.....	iv
【著作権】.....	iv
【その他の権利と制限】.....	v
【保証】.....	v
【責任の制限】.....	v
マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項.....	vi
本マニュアルの手引き.....	xi
○必ず最初にお読みください.....	xi
○必要に応じてお読み下さい.....	xi
目次.....	xiii
 1 本製品の概要.....	 1
1-1 特徴.....	1
1-2 製品ラインアップ.....	1
1-3 ソフトウェア概要.....	2
1-3-1 OS.....	2
1-3-2 ソフトウェア仕様.....	2
1-3-3 組み込まれていない主な機能.....	4
2 起動と終了.....	5
2-1 起動モード.....	5
2-2 システムドライブの保護.....	5
2-3 起動前の準備.....	6
2-4 起動.....	7
2-5 終了.....	8
2-5-1 Windowsの終了処理.....	8
2-5-2 電源ボタンによる終了.....	8
2-5-3 電源断による終了.....	8

2-6 緊急時の端末の終了.....	9
3 システムドライブプロテクト.....	10
3-1 システムドライブプロテクト.....	10
3-2 システムドライブの状態の確認.....	12
3-2-1 デスクトップ背景による確認.....	12
3-2-2 警告ダイアログによる確認.....	13
3-2-3 ドライブプロテクト設定ツールによる確認.....	13
3-3 システムドライブプロテクトの設定.....	15
3-3-1 プロテクトをOFFにする.....	15
3-3-2 プロテクトをONにする.....	17
3-3-3 警告ダイアログの設定.....	19
3-3-4 パスワードの変更.....	20
4 タッチパネル.....	20
4-1 タッチパネルの基本操作.....	21
4-2 イベントセクタ.....	22
4-3 キャリブレーション.....	23
4-4 テスト.....	26
4-5 タッチパネルの設定.....	27
4-5-1 タッチパネルの詳細設定.....	28
5 ネットワークの設定.....	31
5-1 ネットワーク接続の設定.....	31
5-1-1 ローカルエリア(有線LAN)接続の設定.....	31
5-1-2 無線LANの設定.....	32
5-1-3 ダイアルアップ接続の設定.....	37
5-2 インターネット接続の設定.....	38
5-3 ネットワーク共有フォルダの設定.....	39
5-3-1 ネットワークアクセス用ユーザーカウントの登録.....	39
5-3-2 共有フォルダの設定.....	43
6 ディスプレイの設定.....	45
6-1 ディスプレイの設定方法.....	45
6-1-1 ディスプレイの詳細設定.....	46
6-1-2 右クリックメニューからのディスプレイの設定.....	50
7 アプリケーションの自動起動.....	51
8 Wake Up On LAN.....	53
8-1 Wake Up On LAN.....	53

8-2 Wake Up On LANの設定.....	54
9 ソフトウェアキーボード.....	59
9-1 ソフトウェアキーボード.....	59
9-2 ソフトキーボード.....	60
9-2-1 ソフトキーボードの実行.....	60
9-2-2 ソフトキーボードの表示.....	60
9-2-3 ソフトキーボードのキーマップ.....	61
9-2-4 ソフトキーボードの基本操作.....	62
9-2-5 「簡単キーボード」を使用した文字の入力.....	63
9-2-6 「87 キーボード」を使用した文字の入力.....	67
9-2-7 ソフトキーボードの終了.....	68
9-2-8 ソフトキーボードの設定.....	69
9-3 テンキーボード.....	72
9-3-1 テンキーボードの実行.....	72
9-3-2 テンキーボードの表示.....	72
9-3-3 テンキーボードの操作.....	72
9-3-4 テンキーボードの終了.....	73
9-3-5 テンキーボードの設定.....	74
9-4 キーボード呼出ボタン.....	76
9-4-1 キーボード呼出ボタンの起動.....	76
9-4-2 キーボード呼出ボタンでのソフトウェアキーボードの表示.....	77
9-4-3 キーボード呼出ボタンの終了.....	77
9-4-4 キーボード呼出ボタンの設定.....	78
9-5 設定ファイルの参照.....	79
9-6 KTLブラウザとの連携.....	80
9-6-1 「キーボード呼び出し」ボタンの取り込み.....	80
9-6-2 <INPUT>タグを使用したコンテンツ上でソフトウェアキーボードの自動起動.....	80
10 ブラウザ.....	81
10-1 KTLブラウザの起動.....	81
10-2 KTLブラウザの画面構成.....	82
10-2-1 ツールバー.....	83
10-2-2 アドレスバー.....	85
10-2-3 ビューエリア.....	85
10-3 KTLブラウザの終了.....	85
10-4 ブラウザのバージョンの確認.....	86

10-5 ページの閲覧.....	86
10-6 KTLブラウザ上の文字の入力.....	87
10-7 「お気に入り」の利用.....	87
10-7-1 お気に入りの登録.....	88
10-7-2 お気に入りの変更.....	88
10-7-3 お気に入りの削除.....	89
10-7-4 お気に入りの呼び出し.....	89
10-7-5 お気に入り情報の参照.....	89
10-8 KTLブラウザの設定.....	90
10-8-1 KTLブラウザ設定の起動.....	90
10-8-2 全体の設定.....	90
10-8-3 メインブラウザの設定.....	95
10-8-4 サブブラウザの設定.....	97
10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定.....	98
10-8-6 設定ファイルの参照.....	100
10-9 コマンドラインからの実行.....	100
10-10 サポートしているブラウザ機能.....	101
10-11 使用上の制限事項.....	101
11 ラウンチャ.....	102
11-1 基本的な使用方法.....	102
11-1-1 起動.....	102
11-1-2 画面の説明.....	103
11-1-3 ボタンをタッチする.....	104
11-1-4 ボタンからのアプリケーションの起動.....	105
11-1-5 サイクル画像.....	106
11-1-6 終了.....	106
11-2 KTLラウンチャの設定.....	106
11-2-1 使用できる画像形式.....	107
11-2-2 設定ファイル.....	107
11-2-3 設定ファイルの参照.....	111
12 リカバリ(再セットアップ).....	112
13 アプリケーションの追加.....	113
13-1 インストール前の準備.....	113
13-2 インストール時の注意事項.....	113
14 QFEインストーラ.....	114



15 FeliCa .....	115
15-1 FeliCaとは.....	115
15-2 FeliCa利用上の注意.....	115
15-3 FeliCaサンプルアプリケーション.....	115
15-4 FeliCaサンプルアプリケーションの使用 .....	116
15-4-1 UF_S920B_Sample_RW.exe.....	118
15-5 FeliCa機能使用のために .....	124

# 1 本製品の概要

## 1-1 特徴

本製品はパソコン本体とLCD モニタが一体となったネットワーク端末です。

ポインティングデバイスとしてモニタ前面にタッチパネルを装備しており、画面に触れるだけで操作を行うことができます。

また OS に Windows XP Embedded (SP2 対応) を採用することにより、Windows テクノロジーに柔軟な対応が可能であり、NT 系 OS ならではの安定性も兼ね備えています。

- パソコン本体とLCD モニタが一体となったコンパクトボディ
- 標準装備されたタッチパネルによる簡単な操作
- ファンレス構造による静粛性
- ディスククラッシュの心配がないディスクレス構造
- 動画再生にも使用できる高パフォーマンス
- 突然電源が切れてもシステムが壊れない、システム保護機能を搭載
- OS に Windows XP Embedded を採用。普段の使い慣れた操作感で作業が可能
- ソフトウェアキーボード、オリジナルブラウザ、ラウンチャ等のタッチパネル操作に最適化された各種ソフトウェアツールにより、簡単操作が可能

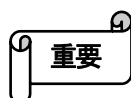
## 1-2 製品ラインアップ

本製品では筐体色、バッテリーパック有無、FeliCa モジュールの組み合わせにより、以下の8つのモデルを用意しております。

ご使用の条件に合わせて最適なモデルをお選びください。

表: WebLightQuote ラインナップ

型番	筐体色	バッテリーパック	Felica
QDT107WLGDW-1	パールホワイト	×	×
QDT107WLGDW-1B	パールホワイト	○	×
QDT107WLGDW-1F	パールホワイト	×	○
QDT107WLGDW-1BF	パールホワイト	○	○
QDT107WLGDB-1	パールブラック	×	×
QDT107WLGDB-1B	パールブラック	○	×
QDT107WLGDB-1F	パールブラック	×	○
QDT107WLGDB-1BF	パールブラック	○	○



- 各モデルのハードウェアに関する仕様は別冊のハードウェアマニュアルをご参照ください。

## 1-3 ソフトウェア概要

### 1-3-1 OS

本製品は Microsoft Windows XP Embedded (SP2 対応)の必要な機能のみを選択して、システムドライブ(オンボードの CF カード)にインストールしています。

Windows XP Embedded についての詳細は

<http://www.microsoft.com/windowsembedded/ja-jp/default.mspix>

をご参照ください。



- Windows XP Embedded は英語版が基本になります。本製品では日本語サポートパッケージを適応して OS を構築しておりますが、一部日本語に対応していないリソースが存在します。

### 1-3-2 ソフトウェア仕様

本製品に組み込まれているソフトウェア/機能の対応を以下に示します。

分類	アプリケーション / 機能	説明
OS	Windows XP Embedded SP2	日本語サポートパッケージ適応
Shell	Explorer Shell	デスクトップ等
セキュリティ	Windows ファイアウォール	WebLightQute のセキュリティ向上
システム保護	システムドライブプロテクト	内蔵 CF を書き込み禁止にし、保護します。
	FBWF(File Base Write Filter)	フォルダ/ファイル単位で書き込み禁止にし、保護します。
タッチパネル制御	PenMount 6000 USB	タッチパネルドライバおよびユーティリティアプリケーション
文字入力	ソフトウェアキーボード※	タッチパネルによる文字入力
	ソフトウェアテンキーボード※	タッチパネルによる文字入力
	キーボード呼び出しボタン※	ソフトウェアキーボード表示/非表示制御
	Microsoft 日本語 IME	辞書は標準のみ対応
文字表示	韓国語 Language support	—
	中国語(簡体字) Language support	—
	中国語(繁体字) Language support	—
	日本語 Language support	—
	英語 Language support	—
インターネット	Internet Explorer 6.0	Windows 標準ブラウザ
	KTL ブラウザ※	タッチパネルによる簡単操作ブラウザ
アプリケーション制御	KTL ラウンチャ※	デザインを自由に編集できるアプリケーション起動用ツール
マルチメディア	Windows Media Player 10	動画再生
	DirectX9.0c	マルチメディア用ミドルウェア
画像処理	Windows Image Acquisition (WIA)	USB カメラやスキャナを扱うためのツール
	Windows Picture and Fax Viewer	Explorer 上から簡単に画像ファイルを表示する機能

	Image Color Management (ICM)	カラー制御
データベース	Jet Database Engine	Microsoft Access 用データベース
	Jet Database 拡張機能	
	MDAC	ADO,OLEDB,ODBC のサポート
印刷	Local Printing	ローカルプリンタでの印刷サポート
	Server Printing	ローカルプリンタをネットワーク上に共有リソースとして公開
	Client Printing	ターミナルサービス時の印刷サポート
ネットワーク	TCP/IP 接続	LAN への接続
	ダイアルアップ接続	
	QOS	Quality of Service.
	DHCP Client	
	Microsoft Network Client	マイクロソフトネットワーク
	File Sharing for Microsoft Network	ファイルの共有
	Wireless Zero Configuration サービス	無線 LAN の設定
	インターネット接続ファイアウォール	Windows XP 簡易ファイアウォール
ユーティリティ / ツール	エクスプローラ	ファイル閲覧
	コマンドプロンプト	
	ペイント	イメージ編集ツール
	ワードパッド	ドキュメントエディタ
	メモ帳	テキストエディタ
	Terminal Service Client	サーバーに対しリモートデスクトップ接続を行う
	ボリュームコントロール	音量調整
	Net.exe	Net コマンド
	IIS	インターネットサーバソフトウェア
	Dr Watson	障害自動診断ソフト
	ユーザアカウント	ユーザー管理ツール
	リモートデスクトップ	他 PC から WebLightQute にリモートデスクトップ接続できます。
	Windows Software Update Services (WSUS)	Windows XP Embedded ベース クライアントの Windows アップデートの配布を管理できるようになります。
	Regedit	レジストリエディタ
Windows XP Embedded 標準 USB ドライバ	以下の標準ドライバは組み込まれています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>•Generic USB Composite Device</li> <li>•Generic/ Standard USB Hub</li> <li>•USB Human Interface Device</li> <li>•HID Keyboard Device</li> <li>•Japanese USB Keyboard</li> <li>•HID-compliant Mouse</li> <li>•USB Audio Device</li> <li>•USB Speakers</li> <li>•USB Floppy Disk Drive</li> <li>•USB Storage Device</li> <li>•USB Mass Storage Device</li> </ul>	—

※ クオリカ株式会社 オリジナルアプリケーション



- Windows XP の機能は非常に多く複雑であるためここでは代表的なものを示しています。  
上記表に記述されている機能でも条件によっては通常の Windows XP と異なる動作をする可能性があります。必ず事前に動作確認を必ず行ってください。

- 上記対応機能でも各機能のヘルプは削除されています。
- 上記以外の機能の対応については弊社営業部までお問い合わせください。

### 1-3-3 組み込まれていない主な機能

- システムの復元機能
- Windows Update
- ヘルプとサポートおよび各ヘルプファイル
- リモートアシスタンス
- Microsoft .NET Framework
- サーバ機能（ IFTP, Telnet 等 ）
- Outlook Express
- MSN Explorer
- Windows .NET Messenger
- ユーザー補助ユーティリティ（ Windows Narrator、スピーチ、拡大鏡等 ）
- MSMQ
- SMS

等



- Windows XP の機能は非常に多く複雑であるためここでは代表的なものを示しています。  
上記以外にも対応していない機能、通常の Windows XP と異なる点がありますので、システム上で使用する  
場合や、外部アプリケーション・周辺機器を使用する場合には必ず事前に動作確認等を行ってください。



- Microsoft .NET Framework 等マイクロソフトからインストーラが提供されている機能についてはインストール  
することで使用できるものもあります。

## 2 起動と終了

### 2-1 起動モード

本端末ではご使用状況により2つの起動モードを用意しています。

電源モード切替スイッチについての詳細は別冊の「ハードウェアマニュアル」をご参照ください。

起動モード	電源モード切替スイッチ	説明
通常モード	右側	一般の PC と同様に前面の電源ボタンを用いて起動する方法です。電源ボタンを押すと端末が起動します。起動後に電源ボタンを押すとスタンバイ、電源を切る、再起動の選択ができる「コンピュータの電源を切る」ダイアログが表示されます。(起動中の電源ボタンの機能は Windows により設定可能です。)
自動起動モード	左側	AC アダプタへの電源投入がそのまま端末の起動になります。電源ボタンは無効になります。キオスク端末や装置に組み込んで使用する場合など、別に電源スイッチを用意する場合に使用します。

### 2-2 システムドライブの保護

本製品にはシステムドライブ(Cドライブ)を保護する機能(システムドライブプロテクト)があります。

この機能の状態により、端末の起動・終了時の注意事項が変わりますのでご注意ください。

実際の操作は【3. システムドライブプロテクト】で説明しておりますのでこちらをご参照ください。

プロテクト	説明
ON	<p>システムドライブ(Cドライブ)が保護された状態です。この状態でシステムドライブへの書き込み(設定変更含む)を行うと、実際には RAM に用意された仮想領域に行われ、Cドライブへの書き込みは行われません。</p> <p>プロテクトがONの場合、電源切断による端末の終了が可能です。またRAM上に書き込まれたデータはシステムに保存されないため、次回起動時には元の状態で起動します。</p>
OFF	<p>システムドライブに書き込みが許可された状態です。この状態でシステムドライブへ行われた操作は次回起動時にも反映されます。</p> <p>この場合は必ずシャットダウン処理を行って端末を終了してください。</p> <p>端末の設定変更やアプリケーションのインストール等はこの状態で行う必要があります。</p>



- 出荷時はシステムドライブプロテクト ON の状態になっています。

## 2-3 起動前の準備

本端末を起動する前に、周辺機器の接続等を行います。各接続は以下の注意を守って行ってください。

### AC アダプタ

AC アダプタは必ず電源コンセントに差し込まない状態で端末に接続してください。



- AC アダプタに電気が供給されている状態で AC アダプタを端末に接続すると、端末が故障する恐れがあります。

### USB 機器

機器によってはあらかじめドライバのインストールや設定が必要なものがあります。ドライバのインストールや設定については各機器の説明書の記述に従ってください。



- 動作確認済みの機器については弊社までお問い合わせ下さい。

## 2-4 起動

電源ボタンを押すと(自動起動モードでは電源投入)、Windows XP のロゴマークが表示され、しばらくすると Administrator アカウントで自動ログインし、デスクトップ画面が表示されます。



デスクトップ画面



- 新規ユーザーを登録した場合、自動ログインは行わず、ログインダイアログが表示されます。ログインダイアログではソフトキーボードが使用できないため、必ずキーボードの接続が必要になります。

初期ユーザー (Administrator) でログインしたい場合は出荷状態から特に変更をしていなければログインダイアログでそのままユーザー: Administrator、パスワード: 無しで [OK] ボタンをタッチすればログインできます。



## 2-5 終了

終了は以下の3種類の方法があります。

### 2-5-1 Windows の終了処理

[スタート]—[終了オプション]メニューをタッチすることにより、「コンピュータの電源を切る」ダイアログが表示されます。再起動やシステムドライブプロテクトOFFの状態でシャットダウンを行う場合はこの方法または【2-5-2 電源ボタンによる終了】で端末を終了してください。



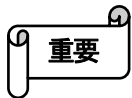
- [スタート]—[ログオフ]は実行しないでください。本端末は Administrator の自動ログインでの使用を前提にしています。新規ユーザーを登録することは可能ですが、ログインダイアログではソフトキーボードが使用できないため、必ずキーボードの接続が必要になります。

誤ってログオフした場合は、出荷状態から特に変更をしていなければそのままユーザー: Administrator、パスワード: 無しで[OK]をタッチすればログインできます。

### 2-5-2 電源ボタンによる終了

起動モードが通常モードの場合、電源ボタンを押すと「コンピュータの電源を切る」ダイアログが表示されます。

表示されるダイアログより「電源を切る」ボタンをタッチして Windows を終了することができます。



- 電源ボタンの機能は、コントロールパネルの「電源オプション」—「詳細設定」の「電源ボタン: コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定で変更することができます。

### 2-5-3 電源断による終了

本製品はハードディスクを使用していないため、システムドライブプロテクトが ON の状態であれば、直接電源を切断することで端末を終了できます。たとえば装置全体の電源を一つのスイッチで操作したい場合などに便利です。



- 電源切断による終了は必ずシステムドライブプロテクト ON の状態で行ってください。また、システムドライブ以外の拡張ドライブやデータベースへの書き込みなどを行っていないことを確認して行ってください。これらへの書き込み中に電源が切断されると、ドライブのファイルシステムやデータベース構造が破壊される恐れがあります。
- バッテリーパック搭載モデルの場合、電源を切断しても端末は終了しません。

## 2-6 緊急時の端末の終了

アプリケーションが暴走したり、端末がハングアップしたりしてしまった場合など端末をリセットする必要がある場合は、以下の方法で端末を終了してください。

- 起動モードが通常モードの場合は、前面スイッチを長押し(5 秒程度)することで、端末を強制終了できます。
- 自動起動モードの場合は、電源を切断してください。



- バッテリーパック搭載モデルの場合、電源を切断しても端末は終了しません。  
バッテリーパック搭載モデルで自動起動モードでお使いの際に端末をリセットする場合は、起動切替スイッチを通常モードに切り替えてから前面スイッチを長押し(5 秒程度)して、端末を強制終了させてください。

## 3 システムドライブプロテクト

### 3-1 システムドライブプロテクト

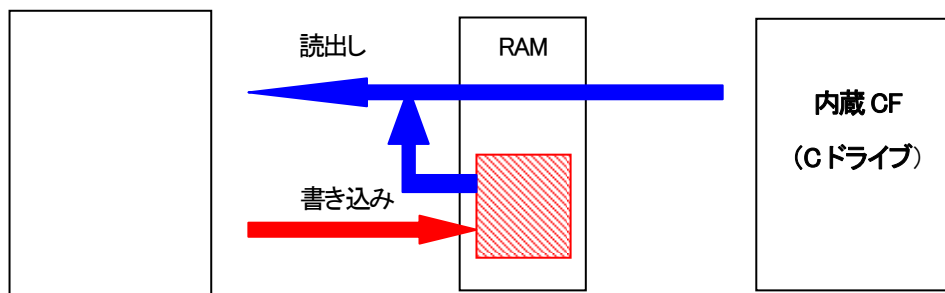
本端末はシステムドライブとしてボード上に CF カードを内蔵しており、Windows XP Embedded 上では C ドライブとして認識されています。

システムドライブプロテクトはこのシステムドライブを書き込み禁止にし、システムの保護を行います。

システムドライブプロテクトが有効(ON)の場合、システムドライブ上の変更(レジストリ等の操作を含む)はすべて RAM 上に用意された領域に行われます。このため OS はシステムドライブに対し通常と同様に書き込みを含むアクセスを実行しながら動作しますが、内蔵 CF カードへの書き込みは実際には行われず、CF カードの内容が保護されます。

端末を終了または電源が切断されると、RAM 上に書き込まれた内容はすべて消去されるため、次回起動時には前回と同様の状態から起動開始されます。これにより端末運用時の不特定なトラブル(突然の電源切断、いたずらや意図しない設定変更や、使用上の失敗など)からシステムを守り、書き込み回数に制限がある内蔵の CF カードの寿命を延ばすことが可能です。

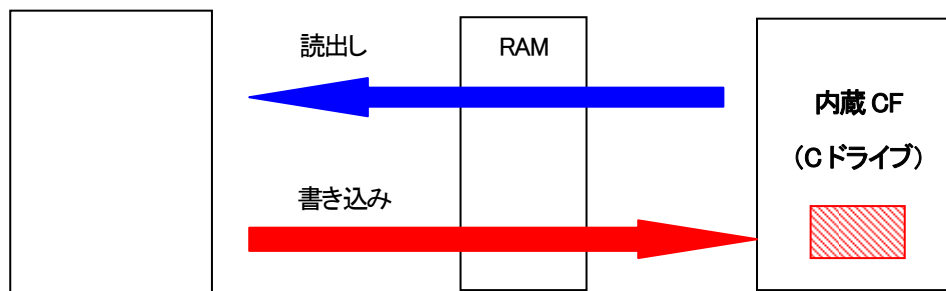
システムプロテクト ON 時の C ドライブへのアクセスイメージ



注意

- システムドライブプロテクト ON の状態では、通常より RAM を余分に消費します。大量に RAM 領域を使用するアプリケーションを実行する場合はご注意ください。
- システムドライブプロテクト機能の設定の確認、ON、OFF の設定の切り替えは Administrators 権限を持ったユーザーのみが行うことができます。新たにユーザーを作成してそのユーザーでシステムドライブプロテクト機能の設定の確認、ON、OFF の設定の切り替えを行う際はユーザーに Administrator 権限を追加してください。

システムドライブプロテクトが無効(OFF)になっていると、システムドライブへの書き込みがすべて許可され、レジストリ、ファイル構造の変更がすべて内蔵 CF カードに反映されます。  
C ドライブへのアプリケーション・ドライバ等のインストールやレジストリの保存を伴うシステムの変更はこの状態で行います。



ドライブプロテクト OFF 時の C ドライブへのアクセスイメージ



- システムドライブプロテクト OFF の状態でネットワークを接続して作業する必要がある場合は、必ずセキュリティ・ウィルス対策を行っているネットワーク環境で行ってください。
- システムドライブプロテクト OFF の状態で端末を終了するには、必ず Windows のシャットダウン処理を行ってください。システムドライブへの書き込み中に電源が切断されると、システムが破壊される恐れがあります。

## 3-2 システムドライブの状態の確認

システムドライブプロテクトが現在どのような状態にあるか確認するための方法を紹介します。

### 3-2-1 デスクトップ背景による確認

システムドライブプロテクトの状態により、デスクトップ背景が変化します。

プロテクト OFF の場合は、システムが保護されていないことの注意を喚起するための背景になります。



プロテクト ON



プロテクト OFF

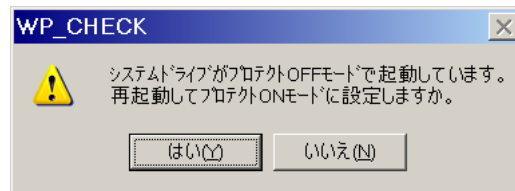
システムドライブの状態によるデスクトップ背景



- 「画像のプロパティ」でデスクトップ背景を指定している場合、そちらが優先されるため、プロテクト OFF の状態でも上記プロテクト OFF 背景は表示されません。この場合には別の方法で状態を確認してください。
- Administrators 権限を与えていないユーザーでログインした場合、上記のプロテクト OFF 背景は表示されません。

### 3-2-2 警告ダイアログによる確認

システムドライブプロテクトでは起動時に、プロテクト OFF であることを知らせる警告ダイアログを表示することができます。(起動時サービス)



システムドライブプロテクト OFF メッセージダイアログ

この機能を有効にしておくと、プロテクト OFF の状態の端末をすぐにプロテクト ON で再起動することができます。



- 初期状態ではこの機能は有効になっています。
- 本機能の設定は【3-3-3 警告ダイアログの設定】で説明しています。

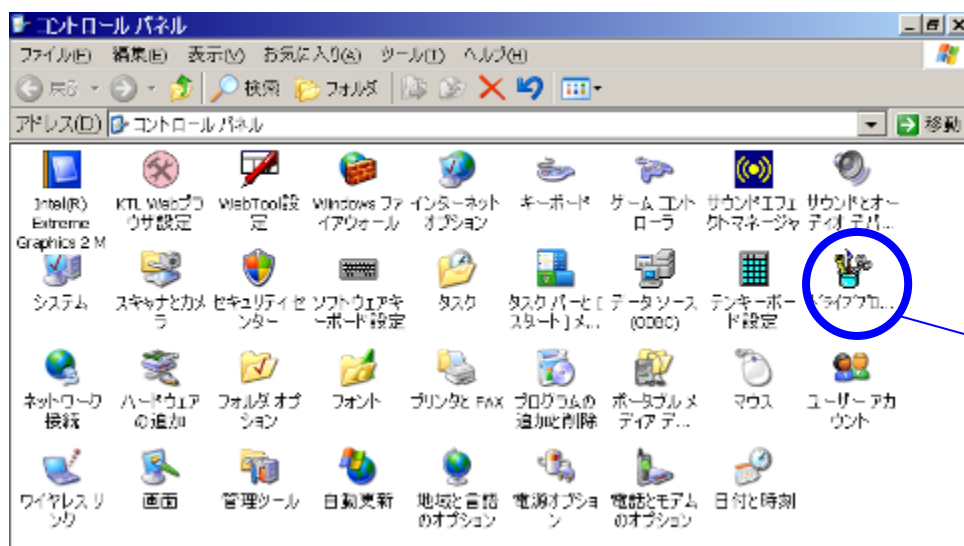
### 3-2-3 ドライブプロテクト設定ツールによる確認

コントロールパネル内のドライブプロテクト設定ツールで現在のドライブの状態を確認できます。

以下の手順に従って、確認を行ってください。

#### 【確認手順】

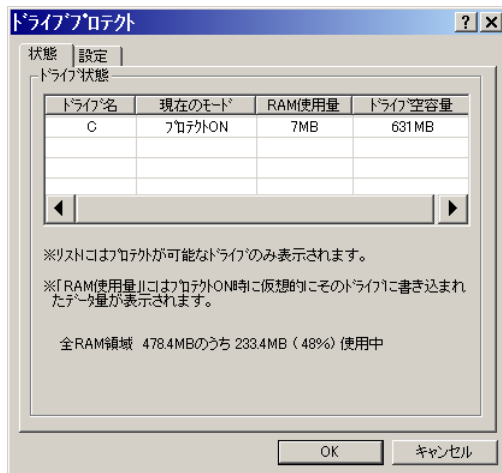
1. [スタート]-[コントロールパネル]-[ドライブプロテクト]アイコンをダブルクリックします。



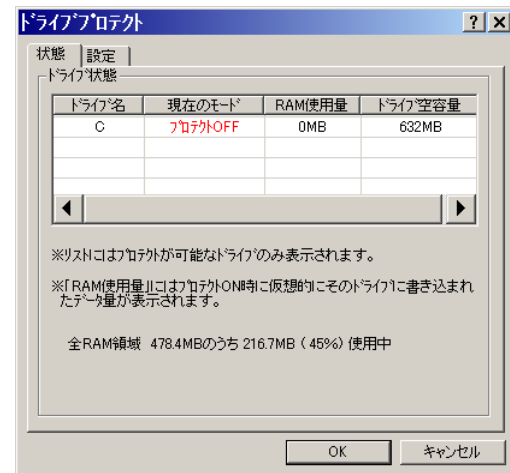
ドライブプロテクトアイコン

2. ドライブプロテクト設定ツールが起動します。

3. ドライブプロテクト設定ツール上に現在のシステムドライブ(C ドライブ)の状態が表示されていることを確認します。



プロテクト ON の場合



プロテクト OFF 場合

### ドライブプロテクト設定ツール

以上で確認手順は終了です。

### 3-3 システムドライブプロテクトの設定

システムドライブプロテクトの設定はドライブプロテクト設定ツールによって行います。

#### 3-3-1 プロテクトを OFF にする







## 3-3-2 プロテクトを ON にする





## 3-3-3 警告ダイアログの設定



#### 3-3-4 パスワードの変更



## 4 タッチパネル

### 4-1 タッチパネルの基本操作

本装置はポインティングデバイスとして表示面にタッチパネルを装備しており、画面にふれるだけで操作を行うことができます。

クリック	ボタン・メニューなど、画面上の目的の部分を 1 回タッチします。
ダブルクリック	目的の部分の続けて 2 回タッチします。このとき、タッチの位置が大きくずれるとダブルクリックとして認識しない場合があるのでご注意ください。
ドラッグ	アイコンやウィンドウタイトルバーなどをタッチし、タッチしたまま移動します。
右クリック	22 ページ「4-2 イベントセクタ」で説明するイベントセクタで右クリックを選択した場合、次のタッチが右クリックとして認識されます。また、約 2 秒程度同じ箇所を押し続けることでもタッチが右クリックとして認識されます。



- シャープペンやドライバーなど、先の鋭利なもので本装置のタッチパネルをタッチしないでください。傷や故障の原因となります。



- 発生イベントやタイミング等がマウスとすべて同じではないため、アプリケーションによってはマウスを使用した場合と異なる動作をする可能性があります。

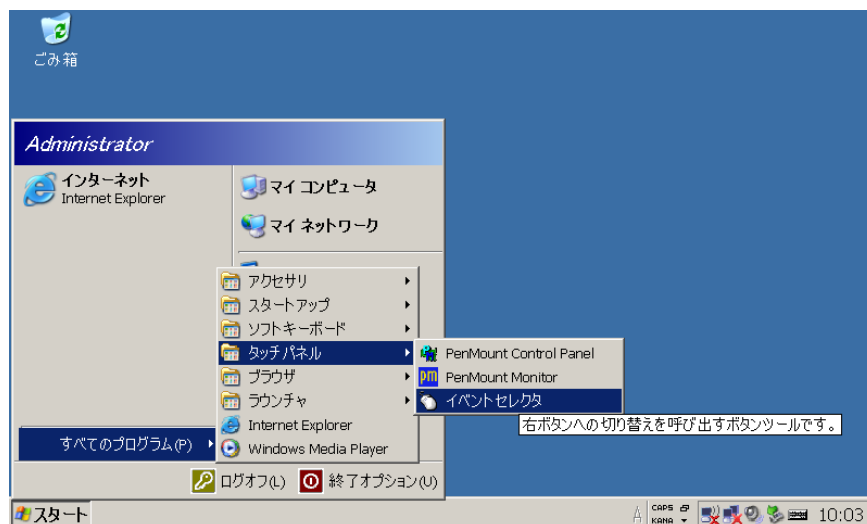
## 4-2 イベントセレクト

タッチパネルのタッチを右クリックに切り替えるアプリケーションです。

以下の手順で右クリックへの切り替えを行うことができます。

### 【設定手順】

1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[イベントセレクト]を選択します。



スタートメニューからのイベントセレクトの実行

2. 起動したイベントセレクト上のマウスをタッチすると、マウスの絵が右クリックの状態になります。



左クリック



右クリック

イベントセクタ

3. この状態でタッチを行うと、右クリックとして認識されます。



- 右クリックとして認識されるのは1回だけです。右クリックを行うと自動的にイベントセクタは左クリックの状態に戻ります。再度右クリックを行う場合はもう一度上記の手順を行ってください。

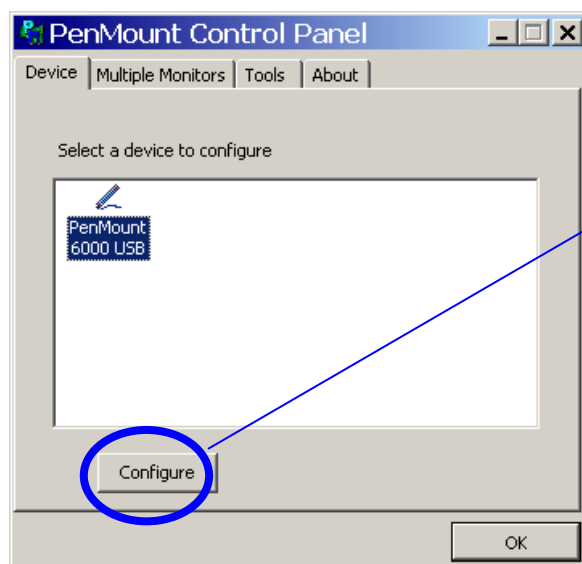
以上で設定手順は終了です。

## 4-3 キャリブレーション

キャリブレーションはタッチパネル上のポイントと Windows 上の画面の座標を一致させるための補正を行う機能です。  
タッチした点と実際にポイントされた位置がずれている場合は以下の手順でキャリブレーションを行ってください。

### 【設定手順】

1. 本製品をシステムドライブプロテクト OFF の状態で起動します。
2. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[PenMount Control Panel]を選択します。
3. 表示される[PenMount Control Panel]ウィンドウの[Device]タブの[PenMount 6000 USB]を選択し、  
[Configure]ボタンをタッチします。

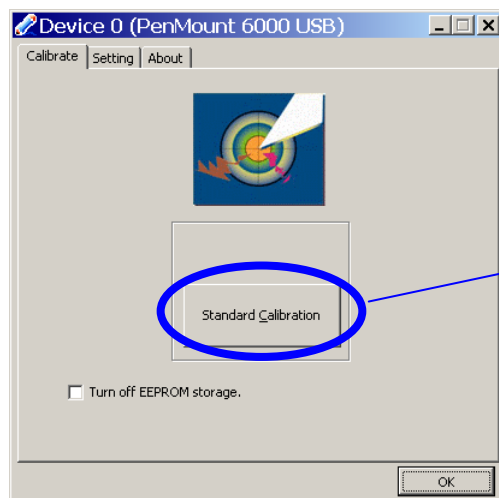


「PenMount 6000 USB」を選択して  
「Configure」ボタンをタッチします。

PenMount Control panel



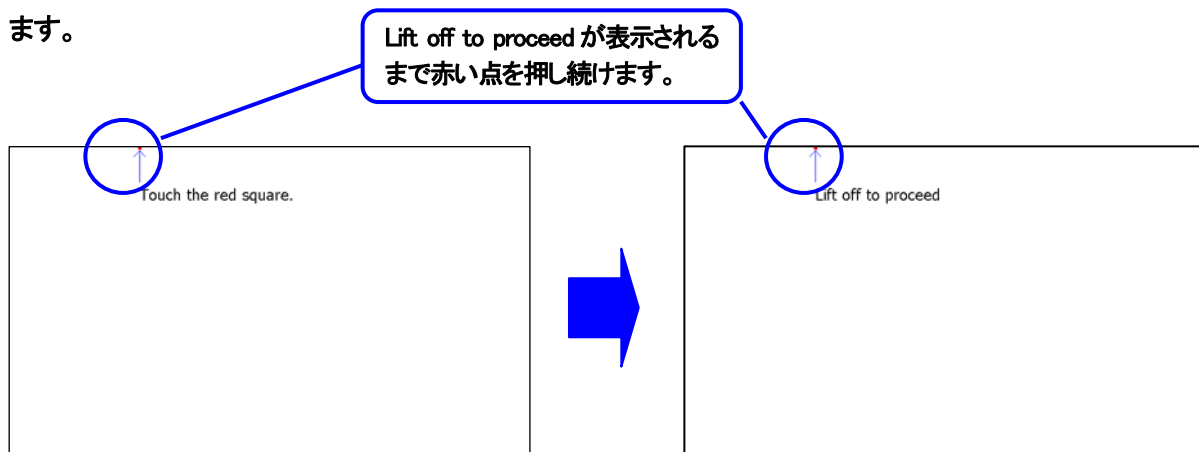
4. 表示される[Device 0(PenMount 6000 USB)]ウィンドウの[Calibrate]タブの[Standard Calibration]ボタンをタッチします。



「Standard Calibration」ボタンをタッチします。

[Device 0(PenMount 6000 USB)]

5. キャリブレーション画面が全画面に表示され、キャリブレーションポイントが矢印で表示されます。
6. キャリブレーションポイントを順番に「Lift off to Proceed」という文字が表示されるまで押し続けます。



キャリブレーション画面

7. すべてのキャリブレーションポイントのサンプリング(デフォルト 5 点)が終わると、  
キャリブレーションも終了します。

以上で設定手順は終了です。



- キャリブレーションポイントのタッチには本体付属のスタイラスペンを使用することを推奨します。先端の硬いものでタッチを行うと本体に傷がついたり、タッチパネルが破損する可能性があります。
- キャリブレーションが終了した後、データ保存・タッチパネルの初期化を行うため、しばらくの間はタッチパネルが効かない状態になります。故障ではありませんので、しばらく待ってから操作を始めてください。
- キャリブレーションデータは Windows 上に保存されます。システムドライブがプロテクト ON の状態だと次回起動時にはキャリブレーションの結果が反映されません。必ず、プロテクト OFF の状態で補正を行ってください。
- キャリブレーションに失敗すると、タッチパネル上でスタートメニューの選択などの必要な操作ができなくなる場合があります。この場合はマウス等を本体に接続し、再度キャリブレーションを実行してください。
- キャリブレーションが終了したら速やかにシステムプロテクトを ON にすることをお勧めします。

## 4-4 テスト

本アプリケーションでタッチパネルの補正が正しく実行されているかどうかを以下の手順で確認することができます。  
キャリブレーションを行った後などの確認にご使用下さい。

### 【設定手順】

---

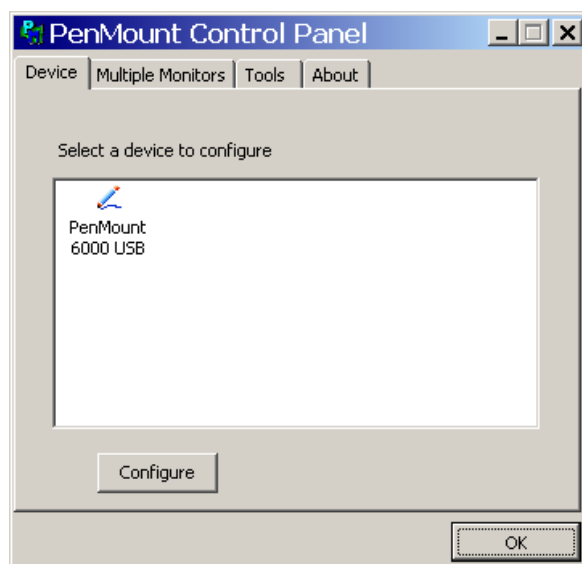
1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[PenMount Control Panel]メニューを選択します。
2. [PenMount Control Panel]ウィンドウが表示されたら[Tools]タブの[Draw]ボタンをタッチします。
3. テスト画面が全画面に表示されるので、適当な位置をタッチしてください。  
タッチすると画面右に画面をタッチしたことを示すメッセージが表示されます。

以上で設定手順は終了です。

---

## 4-5 タッチパネルの設定

タッチパネルドライバの詳細な設定は[スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[PenMount Control Panel]をタッチすることで表示される[PenMount Control Panel]で設定することができます。  
各設定項目とその設定方法については後述している各項目の説明をご確認ください。



PenMount Control Panel



- タッチパネルドライバのデフォルト設定は本製品に最適な設定となっておりますので、なるべくそのままご使用ください。設定変更により起きたトラブルは保障できない場合がありますのでご注意ください。
- タッチパネルドライバの設定変更が必要な場合は、まずシステムドライブプロテクト ON の状態で動作を確認することを強く推奨します。

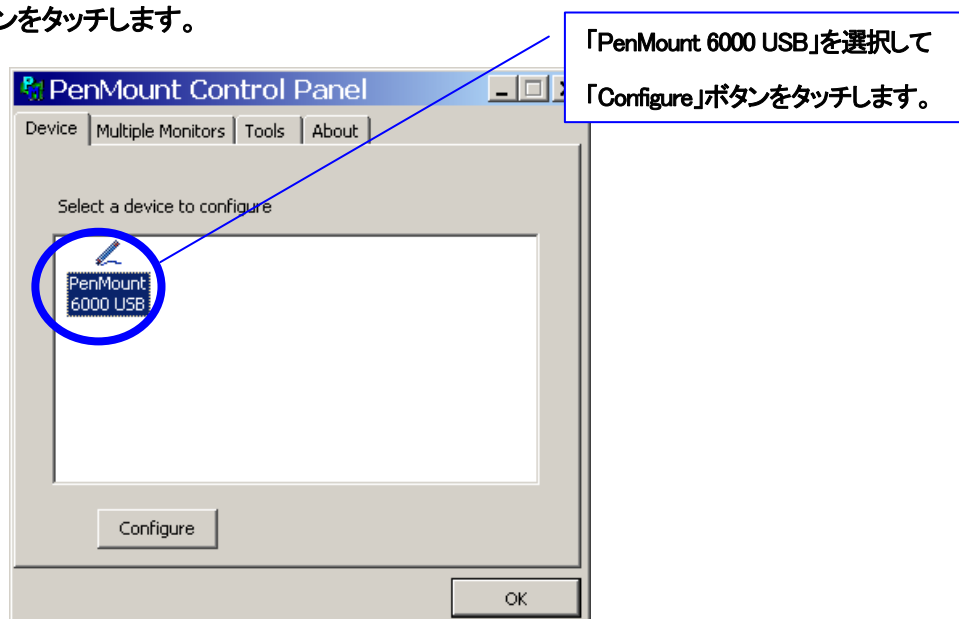
### 4-5-1 タッチパネルの詳細設定

#### ◆ Device タブ

[PenMount Control Panel]の[Device]タブでタッチパネルの詳細な設定を行うことができます。  
以下の手順にしたがって設定を変更してください。

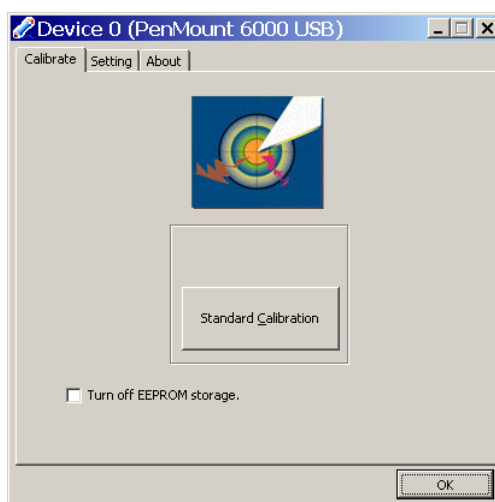
#### 【設定手順】

1. [PenMount Control Panel]の[Device]タブの[PenMount 6000 USB]を選択し、  
[Configure]ボタンをタッチします。



PenMount Control panel

2. [Device 0 (PenMount 6000 USB)]が表示されることを確認します。



Device 0 (PenMount 6000 USB)

3. [Device 0 (PenMount 6000 USB)]の各項目の設定を変更した後に[OK]ボタンをタッチして設定を反映します。

<b>Calibrate タブ</b>	<p>キャリブレーションを実行できます。 実行方法の詳細については「4-3 キャリブレーション」をご参照下さい。</p>
<b>Setting タブ</b>	<p>画面をタッチした時の挙動について設定できます。 設定できる項目については以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Touch Mode タッチしたときの OS 上の処理について変更できます。</li> <li>●Beep Sound 画面にタッチした時に音を鳴らすかどうかを設定します。</li> <li>●Kind of Sound 音を鳴らす設定の場合の音の種類を設定します。</li> <li>●Beep Mode 音を鳴らす場合の音の出すタイミングを設定します。</li> <li>●Beep Frequency 音を鳴らす場合の音の高さについて設定します。</li> <li>●Beep Duration 音を鳴らす場合の音の持続時間を設定します。</li> <li>●Cursor Stabilizer カーソルの手ブレ防止機能を有効にするかどうかを設定します。</li> <li>●Use press and hold as right click 画面の長押しをした時に右クリックになるかどうかを設定します。</li> </ul>
<b>About タブ</b>	<p>タッチパネルドライバのバージョン情報等を表示します。</p>

以上で設定手順は終了です。

---

#### ◆ Multiple Monitor Support タブ

[PenMount Control Panel]の[Multiple Monitor Support]タブの設定は複数台のタッチパネルスクリーンを使用する場合の設定です。本設定は変更しないでください。

## ◆ Tools タブ

[PenMount Control Panel]の[Tool]タブの設定はタッチパネルを利用するための便利なツールの設定に関する項目です。各項目を変更してご使用ください。

Draw	タッチパネルの補正が正しく実行されているかどうかを確認することができます。詳細に関しては【4-4 テスト】をご参照ください。
Advanced Calibration	設定をONにすることによりキャリブレーションポイント数を変更してキャリブレーションを実行できるようになります。
Right Button Icon	<p>イベントセレクトの表示/非表示を切り替えることができます。 またイベントセレクトの表示形式を変更することができます。</p> <p>●Desktop</p> <p>デスクトップ上にイベントセレクトを表示します。</p> <p>●System Tray</p> <p>システムトレイ上にイベントセレクトを表示します。</p>
Screen Rotation Monitor	この項目は変更しないで下さい。

## ◆ About

タッチパネルドライバのバージョン情報等を表示します。



- キャリブレーションポイントのタッチには本体付属のスタイラスペンを使用することを推奨します。先端の硬いものでタッチを行うと本体に傷がついたり、タッチパネルが破損する可能性があります。

## 5 ネットワークの設定

### 5-1 ネットワーク接続の設定

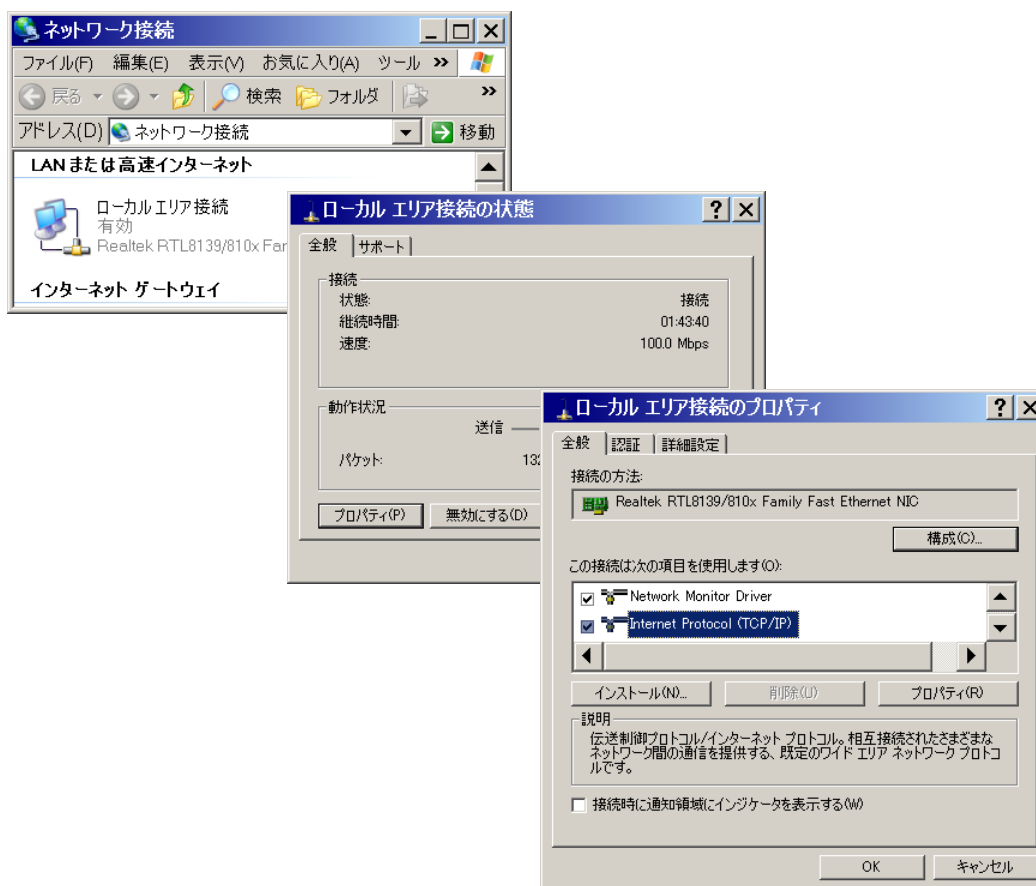
本製品は OS に Windows XP Embedded SP2 を採用しているため、ネットワーク接続の設定も基本的に Windows XP と同様の手順で行うことができます。

#### 5-1-1 ローカルエリア（有線 LAN）接続の設定

本製品で標準装備の LAN ポートを使用したネットワーク接続の設定は、

[コントロールパネル]—[ネットワーク接続]の「ローカルエリア接続」で行います。

実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



ローカルエリア接続の設定

#### 注意

- ネットワーク設定はシステムドライブプロテクトを OFF にした状態で行う必要があります。ネットワークに接続する前に設定を終了して、ドライブプロテクトを ON の状態にしてからネットワークに接続することを推奨します。
- ネットワークに接続しながら設定を行う場合には、ネットワークがウィルス等に十分に対策されていることを確認の上行ってください。



## 5-1-2 無線 LAN の設定

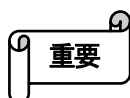
### 5-1-2-1 無線 LAN とは

無線 LAN とは、LAN ケーブルを使う代わりに電波を使用して通信を行えるようにしたものです。

本製品では無線 LAN カードを内蔵しており、IEEE802.11a/b/g 規格に対応しています。

それぞれの規格の概要は以下のとおりです。

規格	通信速度(公称速度)	周波数	特徴
802.11a	最大 54Mbps	5GHz	通信速度が速く、電波干渉の影響を受けにくいですが、通信速度の減衰が多い。
802.11b	最大 11Mbps	2.4GHz	免許不要で扱える周波数帯域(ISM 帯)を使用した、対応機器が多く、互換性の高い規格
802.11g	最大 54Mbps	2.4GHz	802.11b の上位互換規格で、通信速度の減衰が少ない。



- 802.11a の規格による通信は、電波法により、屋外での使用が禁じられています。(屋内のみ使用可能です)
- 各規格の通信速度は最も理想的な環境下での通信速度となります。電波状況や距離などの外部要因によって通信速度は減衰します。

### 5-1-2-2 無線 LAN 利用前の注意事項



- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。  
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす可能性があります。  
また、本機では初期状態では ON の状態で起動するように設定されています。  
電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、「無線 LAN の無効」の手順にしたがって無線 LAN の設定を事前に無効にしておいてください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
  - ・手術室・集中治療室(ICU)・冠動脈疾患監視室(CCU)には、本機を持ち込まないでください。
  - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止してください。
  - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。
  - ・自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線 LAN 機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm 以上離してください。  
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の動作に影響を及ぼす場合があります。

満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。



- 無線 LAN 機能は、自動ドア、火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しないでください。電波が影響を及ぼし、誤作動による事故の原因となる恐れがあります。
- 本機の無線 LAN 機能は、電波法に基づく省電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機の無線 LAN 機能をしようするときに無線局の免許は必要ありません。
- 無線 LAN の機能は日本国内でのみ使用できます。
- 本機の無線 LAN 機能は、技術基準適合証明を受けていますので、次の事項を行うと法律で罰せられることがあります。
  - ・本機を分解/改造する
  - ・技適マークをはがす
- IEEE802.11b/g を使用して 2.4GHz 付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください。  
(環境により電波が届かない場合があります)
- 本機の無線 LAN 機能を使用する無線チャンネルが出荷時設定以外の場合は、次の機器や無線局と電波干渉する恐れがあります。
  - ・産業・科学・医療用機器
  - ・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
    - 1 構内無線局(免許を要する無線局)
    - 2 特定小電力無線局(免許を要しない無線局)
 万一、本機の無線 LAN 機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または運用を停止(電波の停止)してください。



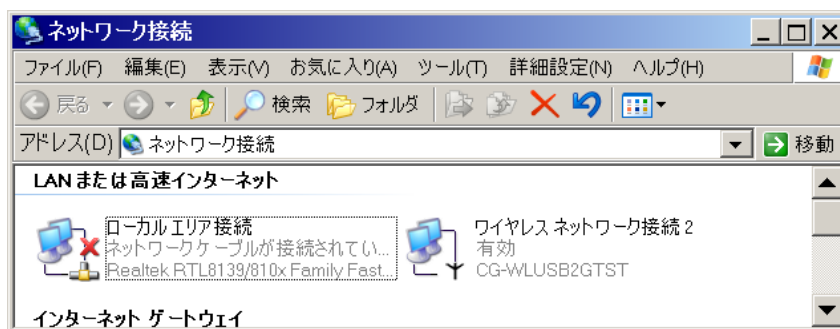
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバから切断されてしまうことがあります。
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常に復帰できない可能性があります。
- Wake Up On LAN 機能を無線 LAN で使用することはできません。
- バッテリーパックのみで本機を使用している場合、無線 LAN 機能が ON になっていると、バッテリーパック駆動時間が短くなります。無線 LAN を使用しない場合には、無線 LAN 機能を OFF にしてください。

### 5-1-2-3 無線 LAN の設定

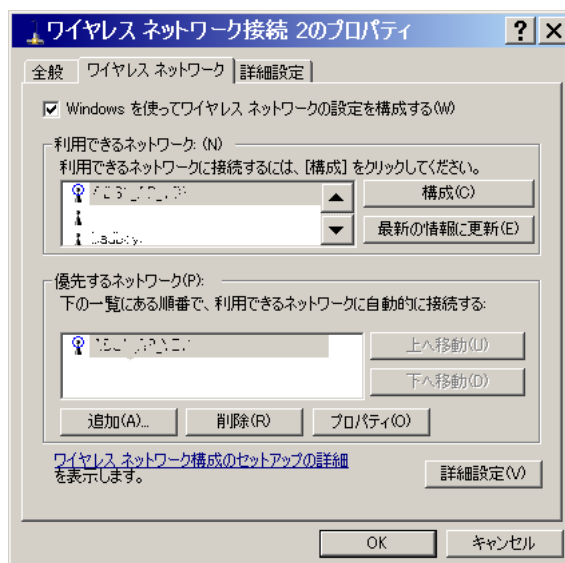
本製品では、標準装備の無線 LAN カードを使用したネットワーク接続の設定は、

[コントロールパネル]—[ネットワーク接続]の「ワイヤレスネットワーク接続」で行います。

実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



ワイヤレスネットワーク接続



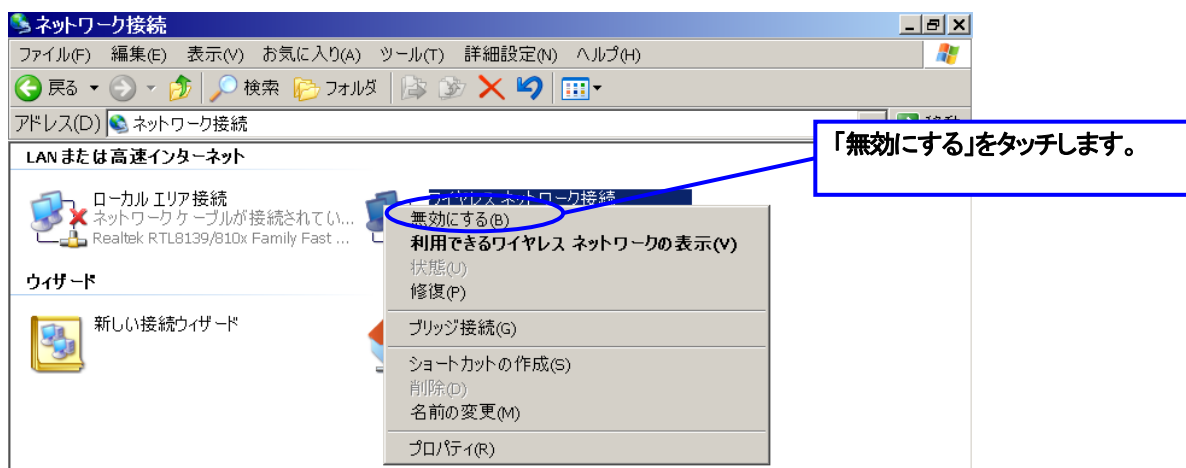
ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ

### 5-1-2-4 無線 LAN の無効

本製品の標準装備の無線 LAN カードを使用したネットワーク接続を使用したくない時は以下の手順でワイヤレスネットワーク接続を無効にしておいて下さい。

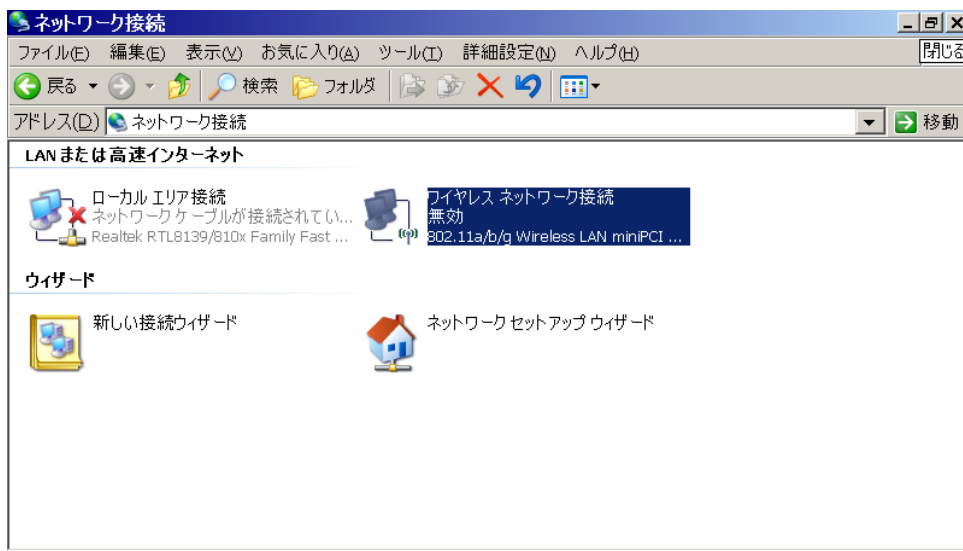
#### 【設定手順】

1. [スタート]-[コントロールパネル]-[ネットワーク接続]アイコンをダブルクリックします。
2. [ネットワーク接続]が開くので[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックしてメニューを表示して「無効にする」をタッチします。



#### ワイヤレスネットワーク接続

3. 「ワイヤレスネットワーク接続」が「無効」状態になっていることを確認します。



ワイヤレスネットワーク: 無効状態

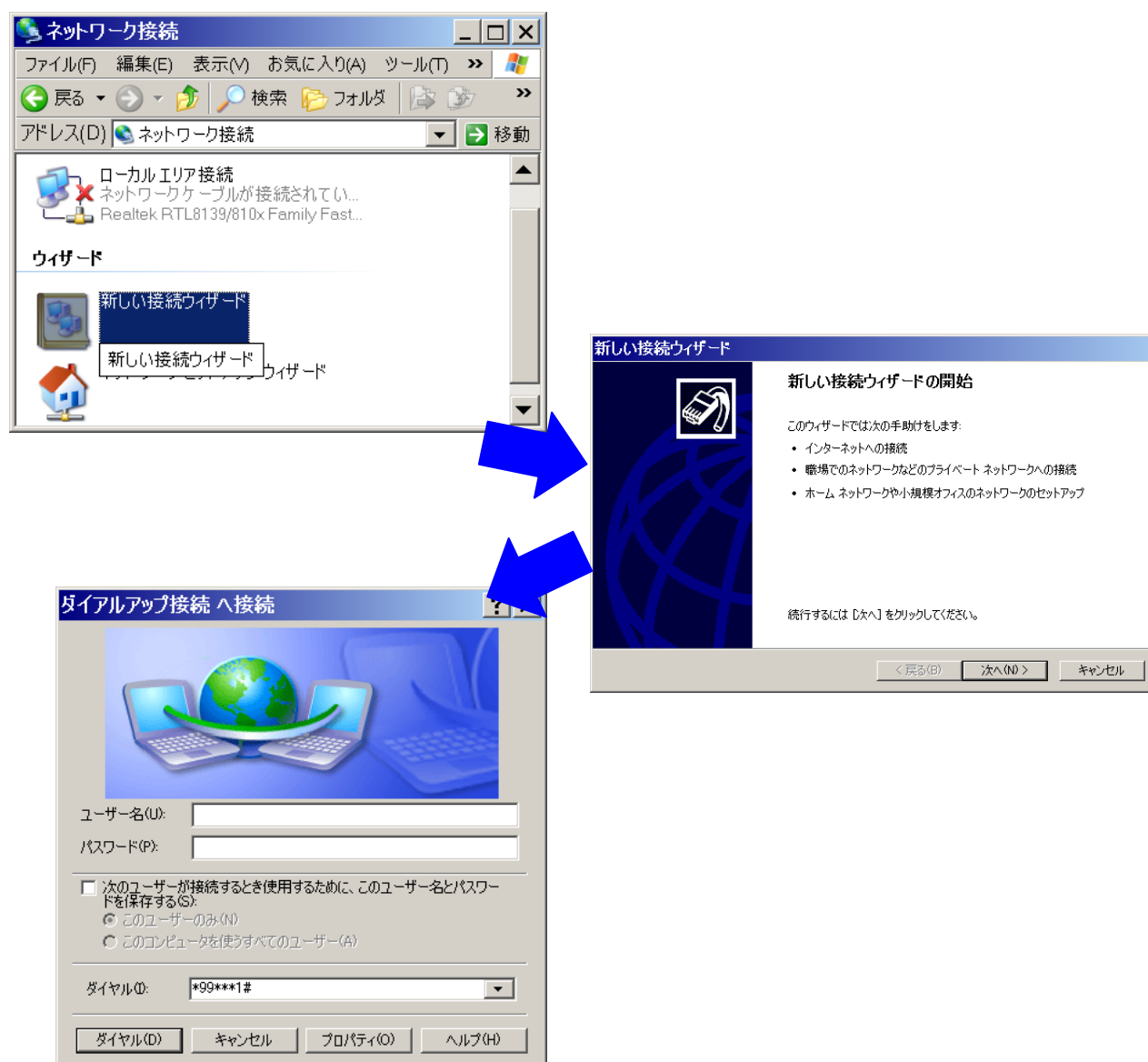
以上で設定手順は終了です。

---

### 5-1-3 ダイアルアップ接続の設定

USB ポートに USB 通信カードアダプタを接続し、携帯電話や PHS のデータ通信でインターネット等に接続する場合は、**[コントロールパネル]—[ネットワーク接続]**の「新しい接続ウィザード」でダイアルアップ接続の設定を新規に作成します。

実際の設定は Windows XP および通信機器の設定手順に従って行ってください。



#### 警告

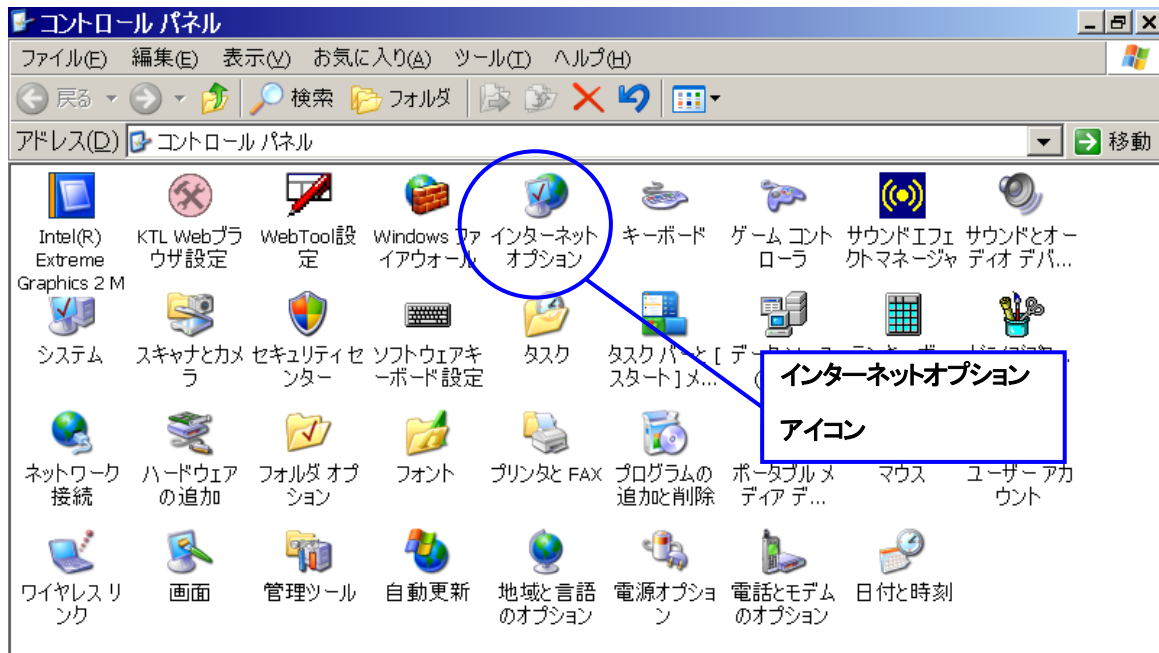
- 本製品で無線通信機器を使用する場合、医療機器に影響を与え、事故の原因になる可能性があります。医療施設等で無線通信機器を使用する場合には各施設の指示に従ってください。

## 5-2 インターネット接続の設定

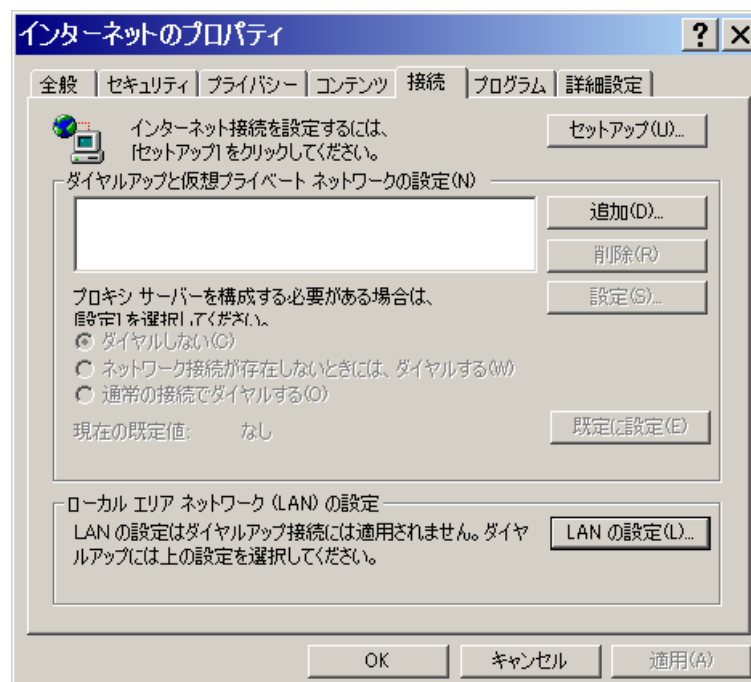
ネットワークの設定が完了したら、次にネットワーク環境に応じてインターネット接続の設定を行います。

[コントロールパネル]—[インターネットオプション]でプロキシ等の設定を行ってください。

実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



インターネットオプション



インターネットのプロパティ

## 5-3 ネットワーク共有フォルダの設定

WindowsXPのファイル共有には「簡易ファイル共有」と「従来の共有」がありますが、本端末では「従来の共有」のみサポートしています。

「従来の共有」では Guest アカウントによる簡易共有設定は許可されておらず、適切なユーザーアカウントを設定し共有アクセス許可とNTFS ファイルアクセス許可を手動で設定する必要があります。

### 5-3-1 ネットワークアクセス用ユーザーアカウントの登録

本端末は出荷時には自動ログイン用にパスワードを設定していないAdministratorアカウントのみが登録されています。

パスワード無しのアカウントはネットワーク共有アクセスには使用できないため、別途ネットワークアクセス用のアカウントを登録する必要がありますので、以下の手順でアカウントの登録を行ってください。



- 自動ログイン用の Administrator アカウントにパスワードを設定すると、自動ログインできなくなります。

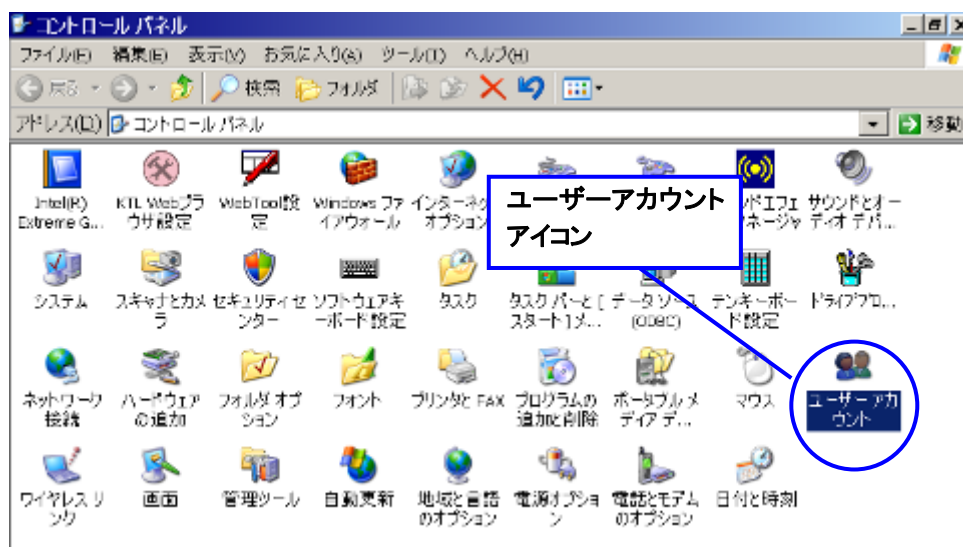
ここでは、ユーザー名:NetUser、パスワード:netでネットワークアクセス用のアカウントを作成する手順を例として説明します。

#### 【設定手順】

1. 本製品をシステムドライブプロテクトOFFの状態では起動します。

詳細な設定方法については【3-3-1プロテクトをOFFにする】を参照してください。

2. [スタート]-[コントロールパネル]-[ユーザーアカウント]アイコンをダブルクリックします。



ユーザーアカウント

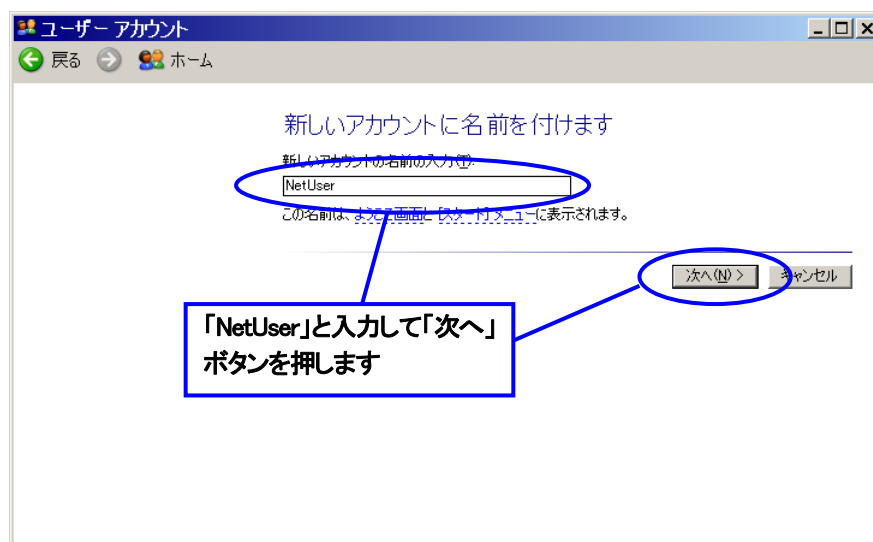


3. 「ユーザーアカウント:ホーム画面」が起動するので[新しいアカウントを作成する]をタッチします。



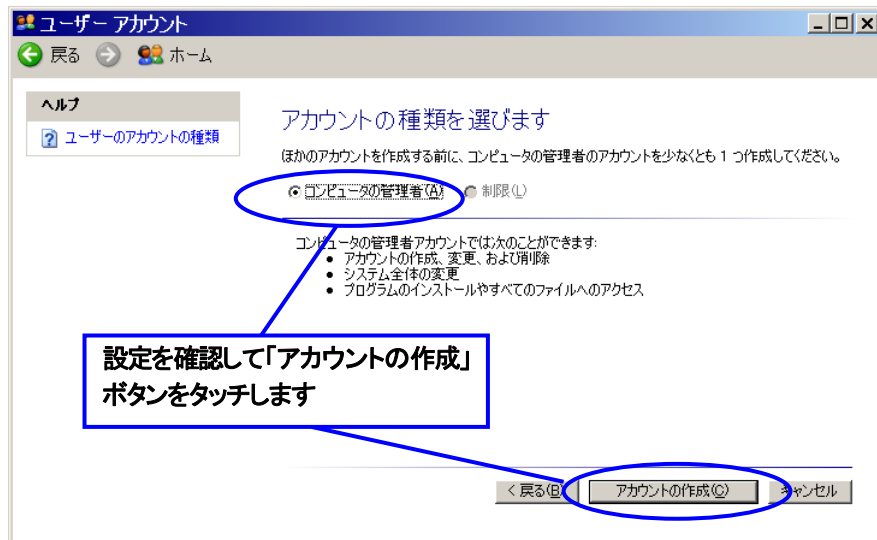
ユーザーアカウント:ホーム

4. [新しいアカウントに名前を付けます]画面が表示されるので[新しいアカウントの名前を入力(T)]の入力欄に「NetUser」と入力して[次へ]ボタンをタッチします。



ユーザーアカウント:新しいアカウントに名前を付けます

5. 「[アカウントの種類を選びます]」画面が表示されるので「コンピュータの管理者」が選択されていることを確認して[アカウントの作成]ボタンをタッチします。



ユーザーアカウント: アカウントの種類を選びます

6. 「ユーザーアカウント」画面が表示され、「NetUser」が「コンピュータの管理者」で作成されていることを確認し、「NetUser」のアイコンをタッチします。



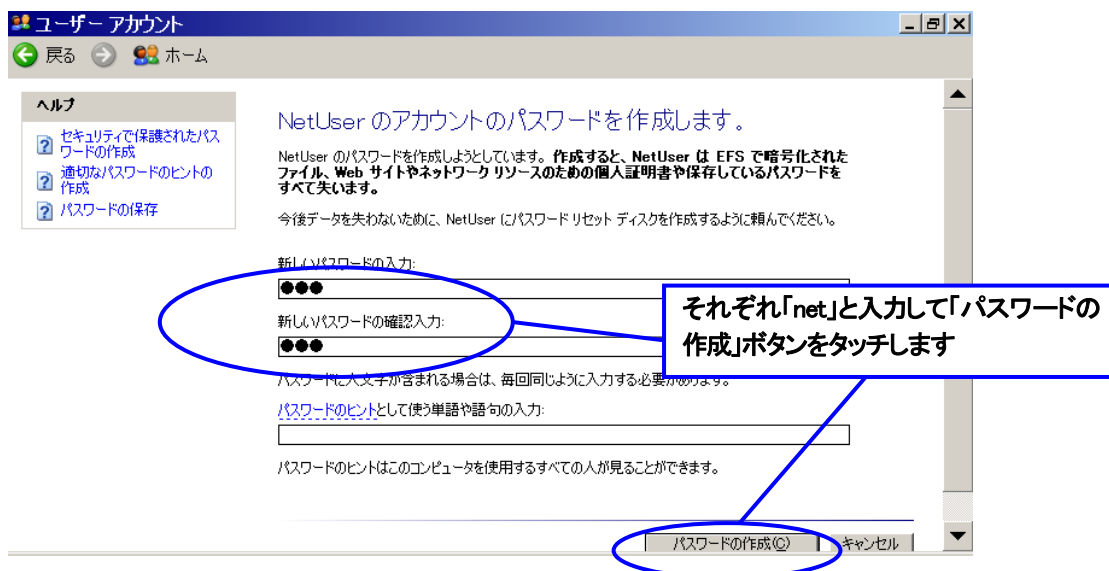
ユーザーアカウント: 作成ユーザーの確認

7. 「NetUser のアカウントの何を変更しますか？」画面が表示されるので「パスワードを作成する」をタッチします。



#### ユーザーアカウント: アカウントの何を変更しますか？

8. 「NetUser のアカウントのパスワードを作成します」画面が表示されるので「新しいパスワードの入力」、「新しいパスワードの確認入力」に「net」と入力して「パスワードの作成」ボタンをタッチします。



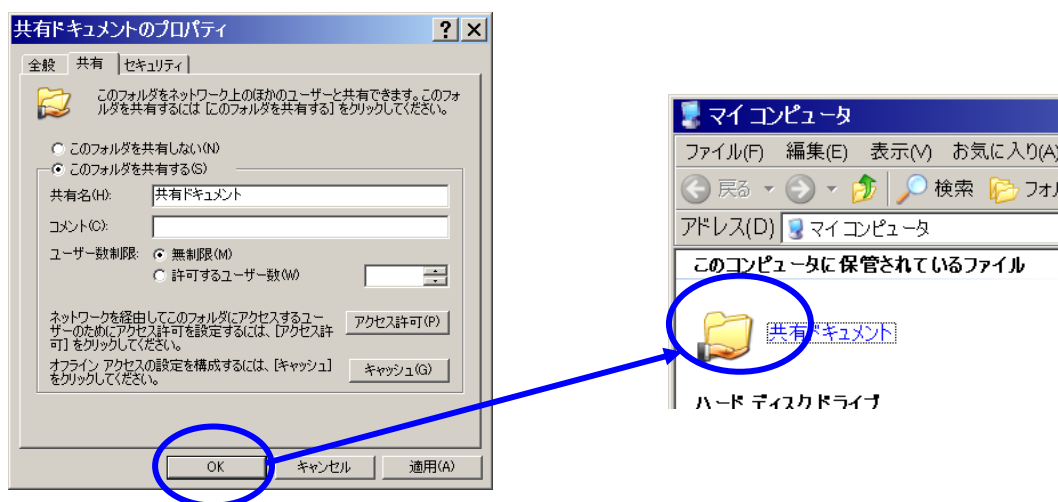
以上で設定手順は終了です。

### 5-3-2 共有フォルダの設定

次に、「共有ドキュメント」フォルダを共有フォルダに設定し、他の PC から本端末上の共有ドキュメントを参照するまでの手順を説明します。

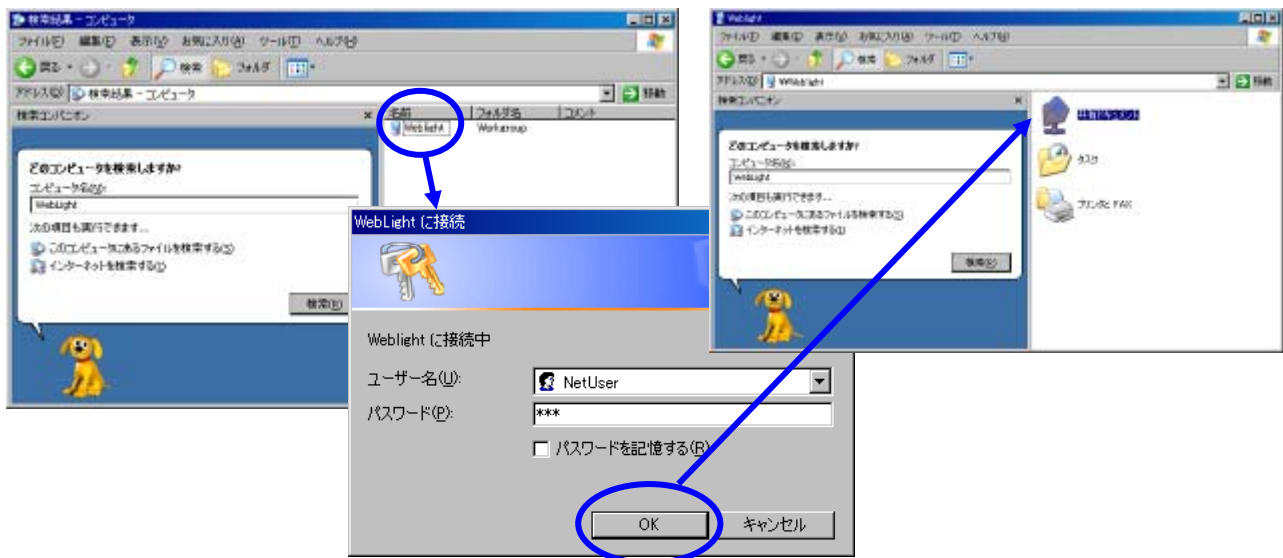
#### 【設定手順】

1. 「マイコンピュータ」を表示します。
2. [共有ドキュメント]を選択し、[ファイル]-[プロパティ]メニューで「共有ドキュメントのプロパティ」を表示します。
3. 「共有」タブでフォルダの共有設定を行い、[OK] をタッチします。
4. 「マイコンピュータ」で「共有ドキュメント」のアイコンが共有モードになっていることを確認します。



5. システムドライブプロテクトを ON にして、端末を再起動します。
6. 端末がネットワークに接続されていることを確認し、他の PC 上からコンピュータの検索を行います。
7. 検索されたコンピュータにアクセスすると、接続のためのアカウントを入力するダイアログが表示されるので、ユーザー名: NetUser、パスワード: net を入力します。

## 8. 「共有ドキュメント」フォルダが共有フォルダとして表示されていることを確認します。



以上で設定手順は終了です。

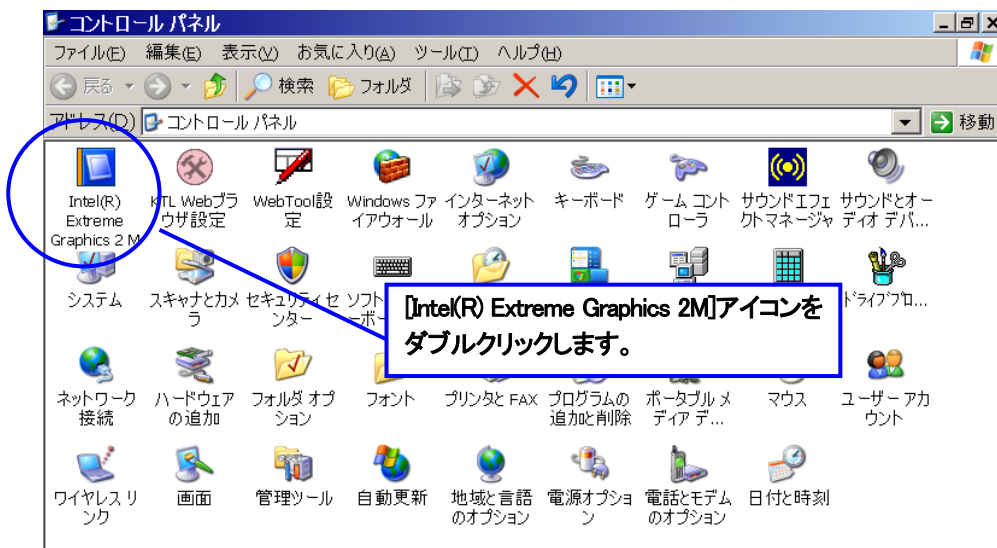
## 6 ディスプレイの設定

### 6-1 ディスプレイの設定方法

本製品のディスプレイドライバの設定を変更することで画面の調整を行うことができます。  
設定については以下の手順で実施してください。

#### 【設定手順】

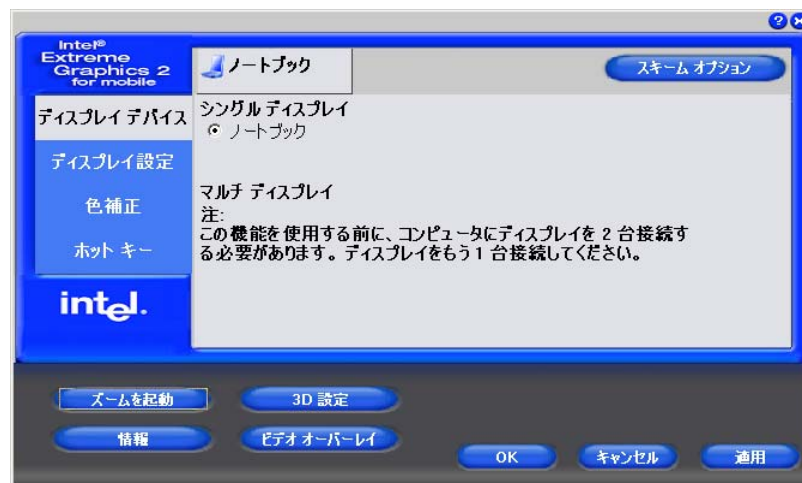
1. [スタート]-[コントロールパネル]-[Intel(R) Extreme Graphics 2M]アイコンをダブルクリックします。



Intel(R) Extreme Graphics 2M アイコン

2. [Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]が表示されることを確認します。

各項目の設定方法については【6-1-1ディスプレイの詳細設定】をご確認ください。



Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile



- ディスプレイドライバのデフォルト設定は本製品に最適な設定となっておりますので、なるべくそのままご使用ください。設定変更により起きたトラブルは保障できない場合がありますのでご注意ください。
- ディスプレイドライバの設定変更が必要な場合は、まずシステムドライブプロテクト ON の状態で動作を確認することを強く推奨します。

以上で設定手順は終了です。

### 6-1-1 ディスプレイの詳細設定

#### ◆ 「ディスプレイデバイス」タブ

[Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[ディスプレイデバイス]タブでディスプレイ出力に関する設定を行うことができます。本製品は外部出力ができませんので設定の変更は必要ありません。

#### ◆ 「ディスプレイ設定」タブ

[Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[ディスプレイ設定]タブでディスプレイ表示に関する設定を行うことができます。本製品のディスプレイドライバは本製品用にカスタマイズを行っているため、こちらで設定を変更することはできません。

## ◆ 「色補正設定」タブ

[Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[色補正]タブでディスプレイの色の調整に関する設定を行うことができます。  
以下の手順で設定を変更してください。

## 【設定手順】

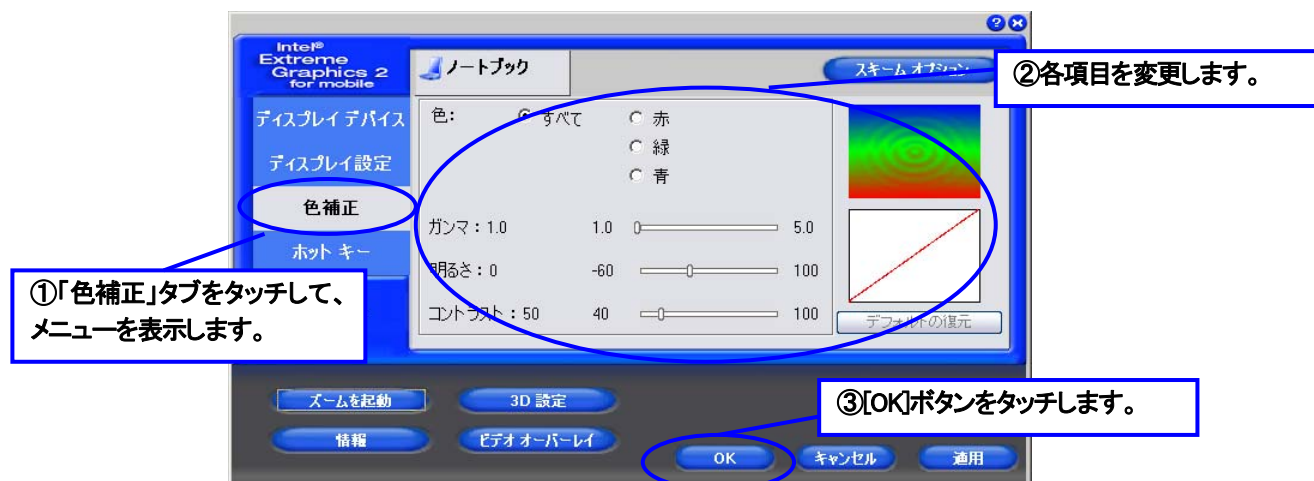
1. [Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[色補正]タブをタッチして、色補正メニューを表示します。

2. 以下の項目について設定を変更します。

色	後述する「ガンマ」、「明るさ」、「コントラスト」の変更を行う色を「すべて」、「赤」、「緑」、「青」から選択します。  「すべて」を選択している場合は「赤」、「緑」、「青」のすべての色の「ガンマ」、「明るさ」、「コントラスト」を変更します。
ガンマ	画面の色が実際に出力される際の色の強さの調整が行えます。  数値が高いほどその色が強く表示されます。  本製品では 1.0～5.0 の間で設定することができます。 (デフォルトは 1.0 で設定されています)
明るさ	画面の明るい部分を増やし、暗い部分を増やす調整が行えます。  数値が高いほど明るい部分が増えます。  本製品では-60～100 の間で設定することができます。 (デフォルトは 0 で設定されています)
コントラスト	画面の最も暗い部分と最も明るい部分の輝度の差のことで、コントラストが高くなるにつれて白い部分はより白くなり、黒い部分はより黒くなります。  本製品では 40～100 の間で設定することができます。 (デフォルトは 50 で設定されています)
[デフォルトの復元]ボタン	色補正の設定がデフォルトの設定に戻ります。



## 3. 設定変更後、[OK]ボタンをタッチします。



## 色補正

以上で設定手順は終了です。

---

## ◆「ホットキー」タブ

[Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[ホットキー]タブでディスプレイの設定を簡単なキー操作で設定できるようにショートカットキーとして登録することができます。

以下の手順で設定を変更してください。

## 【設定手順】

1. [Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]の[ホットキー]タブをタッチして、ホットキーメニューを表示します。

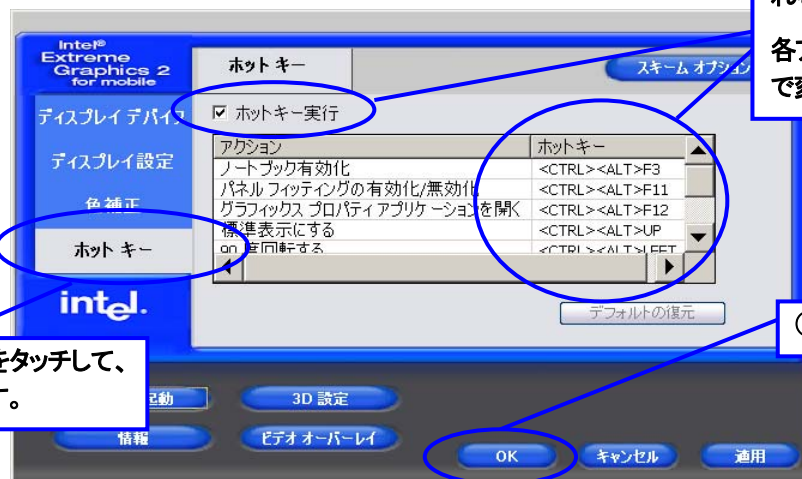
2. 設定を変更します。

ホットキー実行にチェックを入れるとホットキーを使用できるようになります。

また、各アクションのボタンの割り当てについても設定できます。

②「ホットキー実行」にチェックを入れるとホットキーが使用できます。  
各アクションの設定は「ホットキー」で変更できます。

①「ホットキー」タブをタッチして、メニューを表示します。



③「OK」ボタンをタッチします。

## ホットキーの設定

3. 設定変更後、[OK]ボタンをタッチします。

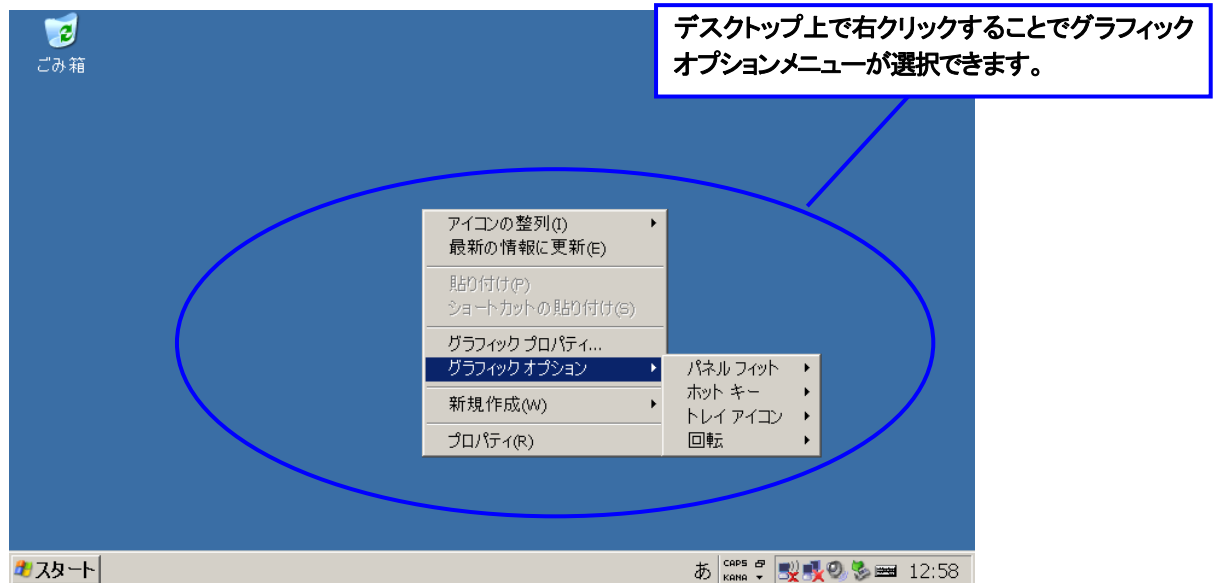
以上で設定手順は終了です。

### 6-1-2 右クリックメニューからのディスプレイの設定

デスクトップ上で右クリックをすることでも以下の手順でグラフィックの設定を行うことができます。

#### 【設定手順】

1. デスクトップ上で右クリックをして、[グラフィックオプション]メニューを表示します。



グラフィックオプションメニュー

2. 設定する項目をタッチします。設定できる項目は以下のとおりです。

パネルフィット	本設定は画面解像度を変更したときに使用する項目ですが、本製品では解像度を変更することができませんので変更する必要はありません。
ホットキー	ディスプレイ設定に関するショートカットキーを使用するか使用しないかを設定できます。 デフォルトでは「無効化」が設定されています。
トレイアイコン	[Intel(R) Extreme Graphics 2 for mobile]のアイコンをタスクトレイに登録するかどうかを設定できます。 デフォルトでは「無効化」が設定されています。
回転	ディスプレイの表示を回転することができます。 デフォルトでは「標準」が設定されています。



- 画面の回転を行うとタッチした点と実際にポイントされた位置がずれます。キャリブレーションを行ってください。

以上で設定手順は終了です。

## 7 アプリケーションの自動起動

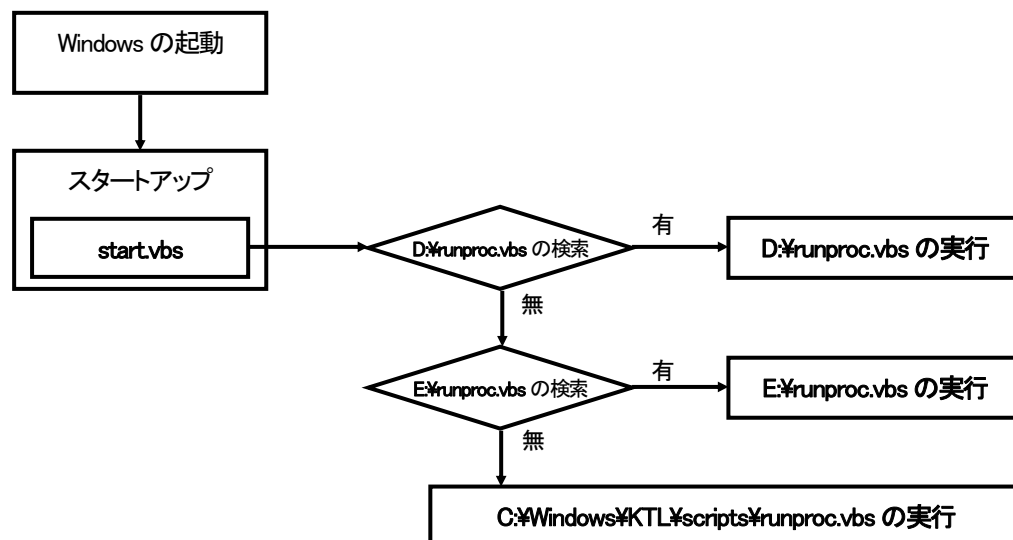
この仕組みを利用すれば、システムドライブの内容を変更しなくても、拡張ドライブ上でアプリケーションの自動起動処理を管理することができます。また、VB スクリプトを使用しているため、起動順序や条件分岐を使った制御など様々な目的に適した処理を自由に構築することが可能です。

アプリケーションの自動起動は C:\Windows\KTL\Scripts フォルダにある 2 つのスクリプトファイルの組み合わせで実行されます。

**start. vbs** Windows のスタートアップで起動され、各ドライブの指定位置の runproc.vbs の検索・実行を行います。D:\runproc. vbs, E:\runproc. vbs の順序で検索を行い、見つけたスクリプトファイルを実行します。どちらも見つからない場合は、C:\Windows\KTL\scripts\runproc.vbs を実行します。

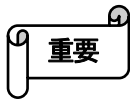
**Runproc. vbs** アプリケーションの起動処理を実際に記述する VB スクリプトファイルです。

C:\Windows\KTL\scripts\runproc.vbs はサンプルスクリプトです。いくつかのアプリケーションを自動起動する場合のスクリプト例がコメントアウト文として記述されています。スクリプトを作成するときの参考にしてください。



アプリケーションの自動起動フロー

例えば、ユーザーアプリケーションを D ドライブ上に用意し、D ドライブのルートにそのアプリケーションを起動する runproc.vbs を置けば、システムドライブを変更しなくてもユーザーアプリケーションが自動起動します。



- VB スクリプトについては、VB スクリプトの関連資料をご参照ください。
- アプリケーションによっては、システムドライブプロテクトを OFF の状態でインストールする必要があります。



- start.vbs は消去しないでください。本製品のシステムにとって必要な機能が実行されなくなる恐れがあります。
- これらの動作は start.vbs が初期状態であるときの動作となります。Start.vbs が消去、もしくは編集されている場合はアプリケーションの自動起動フローに記載されている動作と異なる場合があります。

C:\Windows\KTL\Scripts\runproc.vbs

Option Explicit

Dim objWshShell

Set objWshShell = WScript.CreateObject("WScript.Shell")

' ラウンチャの起動の例

' objWshShell.Run """"C:\Documents and Settings\All Users\スタート メニュー\プログラム\ラウンチャ\KTL ラウンチャ.lnk"""" , 1, 0

' ブラウザの起動の例

' objWshShell.Run """"C:\Documents and Settings\All Users\スタート メニュー\プログラム\ブラウザ\KTL ブラウザ.lnk"""" , 1, 0

' IE の全画面起動の例

' objWshShell.Run """"C:\Program Files\Internet Explorer\IEEXPLORE.exe"" -k"" , 1, 0

' wait の例 (5 秒待機の場合)

' WScript.Sleep 5000



- よく使うと思われるスクリプトを例として記述しています。実際のご使用時は行先頭のコメントアウト記号の ' を削除してご使用ください。
- この例では直接実行ファイルを実行するのではなくショートカットを指定しています。これは作業フォルダを画像リソースの参照位置として指定することが必要なためです。
- 直接 C:\Windows\KTL\Scripts 上の start.vbs または unproc.vbs を変更し、次回端末起動時にも反映させる場合には、システムドライブプロテクトを OFF の状態で編集する必要があります。

## 8 Wake Up On LAN

### 8-1 Wake Up On LAN

本製品に標準装備されている NIC (ネットワークカード) とマザーボードが Wake Up On LAN 機能に対応しているため、本製品では Wake Up On LAN 機能を使用することができます。

Wake Up On LAN 機能とは、LAN を通じて別の PC から WebLightQute に Magic Packet という特殊なパケットを送信することにより、PC を起動する機能です。

これにより、リモートで WebLightQute を起動することが可能です。

本製品ではスタンバイ、休止モード、電源 OFF 状態からの電源 ON の状態への復帰に対応しています。



- 別売のクレードルを接続した際には休止状態、電源 OFF の状態からの電源 ON の状態への復帰は行えません。

## 8-2 Wake Up On LAN の設定

本製品で Wake Up On LAN 機能を使用するための設定手順を説明します。

以下の手順に従って、設定を行ってください。

また、本手順では BIOS の設定の変更を行う場合があります。

BIOS とはパソコンに接続された機器の管理・制御を行うソフトウェアで、コンピュータの基本状態を設定しているソフトウェアです。

下記の注意事項を守らずに設定を行った場合、本製品が正常に起動しなくなる場合があります。



- 他社製品の BIOS を使用すると Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。
- BIOS の設定値を間違えると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行うようにしてください。

### 【設定手順】

---

1. WebLightQute に USB キーボードを接続します。
2. WebLightQute の電源ボタンを押し、USB キーボードの[Delete]キーを押し続けます。
3. WebLightQute の画面に以下のような BIOS の画面が表示されます。

4. [↓]キーを押し[Power Management Setup]にカーソルを合わせ[Enter]キーを押します。

Phonix - AwardBIOS CMOS Setup Utility	
▶ Standard CMOS Features ▶ Advanced BIOS Features ▶ Advanced Chipset Features ▶ Integrated Peripherals ▶ <b>Power Management Setup</b> ▶ PnP/PCI Configurations	▶ Frequency/Voltage Control ▶ Frequency/Voltage Control Load & Save Defaults [Power Management Setup]にカーソルを 合わせて[Enter]キーを押します。 Save & Exit Setup Exit Without Saving
Esc : Quit F10 : Save & Exit Setup	↑↓→← : Select Item
Time, Date, Hard Disk Type...	

BIOS 画面



- BIOS の画面ではマウスやタッチパネルでの操作はできません。  
必ずキーボードを接続して操作を行ってください。



5. 以下のような[Power Management Setup]画面が表示されるので[Wake Up by PCI Card]の

項目が[Enabled]であることを確認します。

[Disabled]になっていた場合は[↓]キーを押して[Wake Up by PCI Card]にカーソルを合わせて

[Enter]キーを押し、[Enabled]に切り替えます。

Phonix - AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Power Management Setup		
ACPI Function	[Enabled]	Item Help Menu Level ▶
ACPI Suspend Type	[S1 (POS)]	
Run VGABIOS if S3 Resume	Auto	
Power Management	[User Define]	
Video Off Method	[DPMS]	
Video Off In Suspend	[Yes]	
Suspend Type	[Stop Grant]	
MODEM Use IRQ	[3]	
Suspend Mode	[Disabled]	
HDD Power Down	[Disabled]	
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-OFF]	
Wake-Up by PCI card	[Enabled]	
Power On by Ring	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
× Date(of Month) Alarm	0	
× Time(hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
** Reload Global Timer Events **		
Primary IDE 0	[Disabled]	

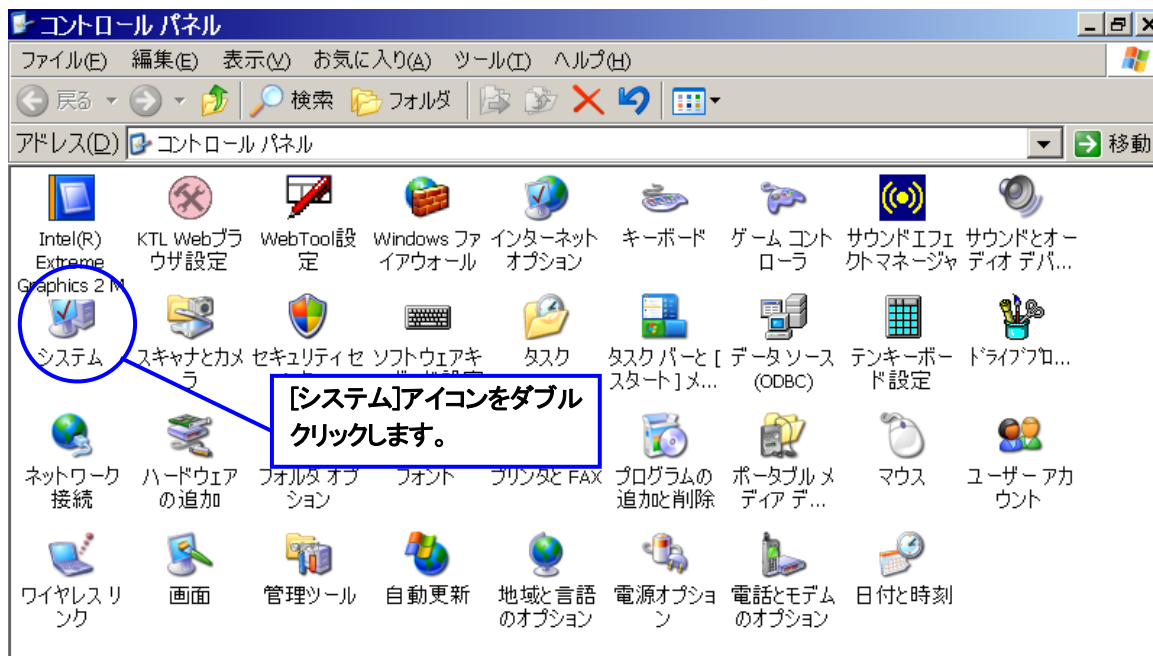
#### Wake-Up by PCI card 設定の確認

6. [F10]キーを押します。
7. 「Save to CMOS and EXIT (Y/N)?」と表示されるので、  
「Y」キーを押してから「Enter」キーを押します。
8. WebLightQute が再起動します。

9. ドライブプロテクトをOFFの状態に起動します。

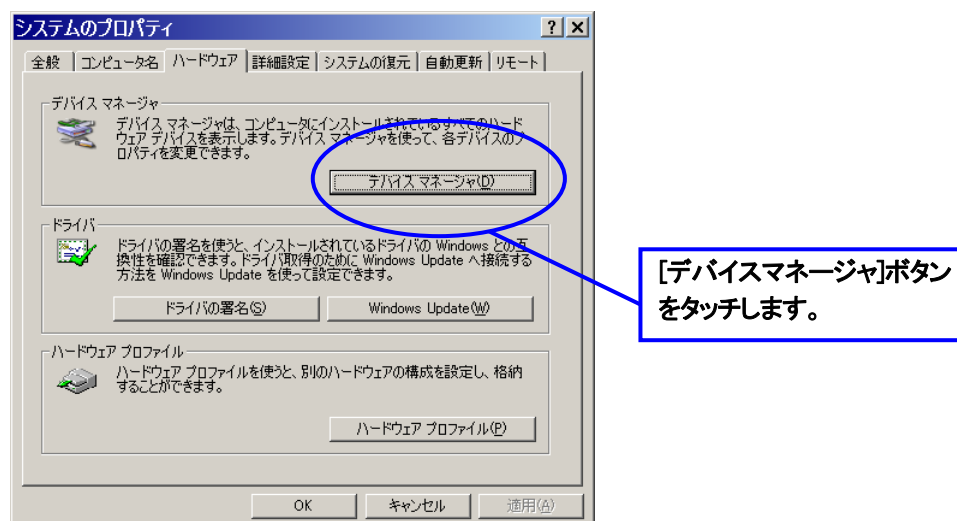
詳細な設定方法については【3-3-1プロテクトをOFFにする】を参照してください。

10. [スタート]-[コントロールパネル]-[システム]アイコンをダブルクリックします。



システムアイコン

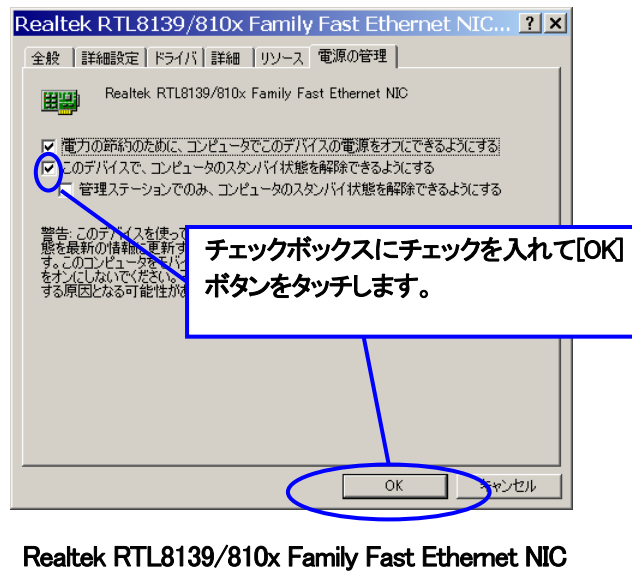
11. 「システムのプロパティ」が起動するので[ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]ボタンをタッチします。



システムのプロパティ

12. 「Device Manager」が起動するので[コンピュータ名]-[Network adapters]-[Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC]をダブルクリックします。

13. [Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC...]が起動するので[電源の管理]タブの[このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする]にチェックを入れて[OK]ボタンをタッチします。



重要

- Wake Up On LAN 機能は有線 LAN のみ利用可能です。無線 LAN では本機能は使用できませんのでご注意ください。
- 本機能を使用するためには別途 Magic Packet を WebLightQute に送信する必要があります。

以上で設定手順は終了です。

## 9 ソフトウェアキーボード

### 9-1 ソフトウェアキーボード

本製品ではタッチパネルでの文字入力のためにオリジナルソフトウェアキーボードを用意しています。

#### ソフトキーボード (VTSoftKeyboard.exe)

英数字、記号、日本語の文字入力を行うことができます。

「簡単キーボード」、「87 キーボード」の2つのキーマップがあり、状況によって簡単に切り替えてお使いになれます。



ソフトキーボード

#### テンキーボード (VT7TenKeyboard.exe)

会計処理等、数値入力のみ必要なシーンでテンキー入力を行うことができます。



テンキーボード

#### キーボード呼出ボタン (WebToolXPe.exe)

ソフトキーボードまたはテンキーボードを呼び出すためのボタンツールです。指定キーボードの表示非表示をボタンの ON/OFF で制御することができます。



キーボード呼出ボタン

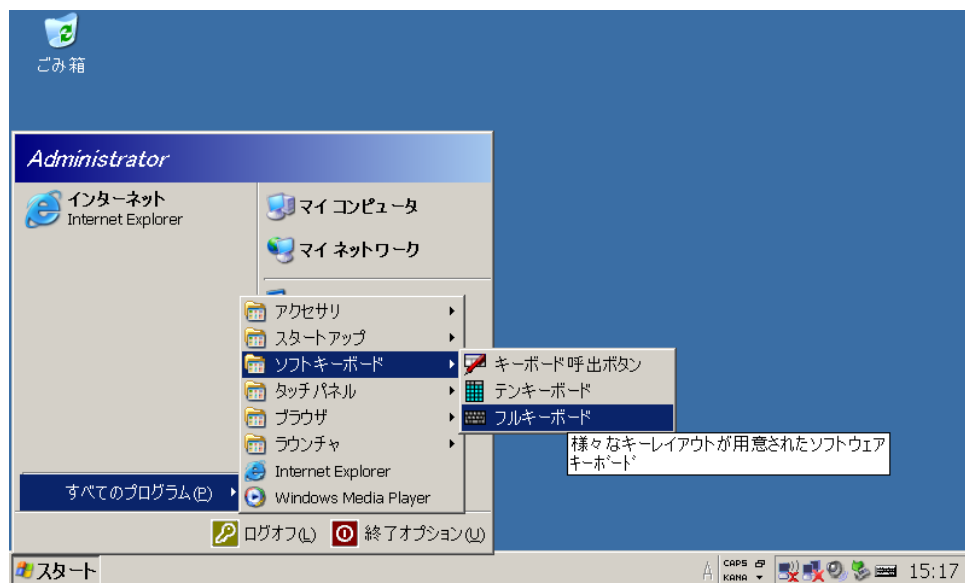
## 9-2 ソフトキーボード

### 9-2-1 ソフトキーボードの実行

ソフトキーボードは常駐型のアプリケーションです。ソフトキーボードを使用するにはあらかじめ起動しておく必要があります。工場出荷状態ではスタートアップに登録してあります。自動で起動する必要がない場合には、スタートアップからショートカットを削除してください。

ソフトキーボードを初めて起動する場合や、一度終了したものを再起動したい場合は、

**[スタート]ー[すべてのプログラム]ー[ソフトキーボード]ー[フルキーボード]メニューから実行します。**



ソフトキーボードのスタートメニューからの実行

### 9-2-2 ソフトキーボードの表示

ソフトキーボードが実行されると、タスクトレイ上にソフトキーボードアイコンが表示されます。



タスクトレイ上のソフトキーボードアイコン

このアイコンをタッチすると、ソフトキーボードが表示されます。



- ソフトキーボードを閉じる(非表示)には、ソフトキーボード上の「入力終了」ボタンをタッチしてください。

### 9-2-3 ソフトキーボードのキーマップ

ソフトキーボードでは2種類のキーマップから状況に応じて選択して文字入力を行うことができます。  
キーマップの切り替えはボタンで簡単にできます。

**簡単キーボード** 50音およびABC配列のキーマップです。  
PCのキーボードに不慣れなユーザーにも簡単に入力ができます。



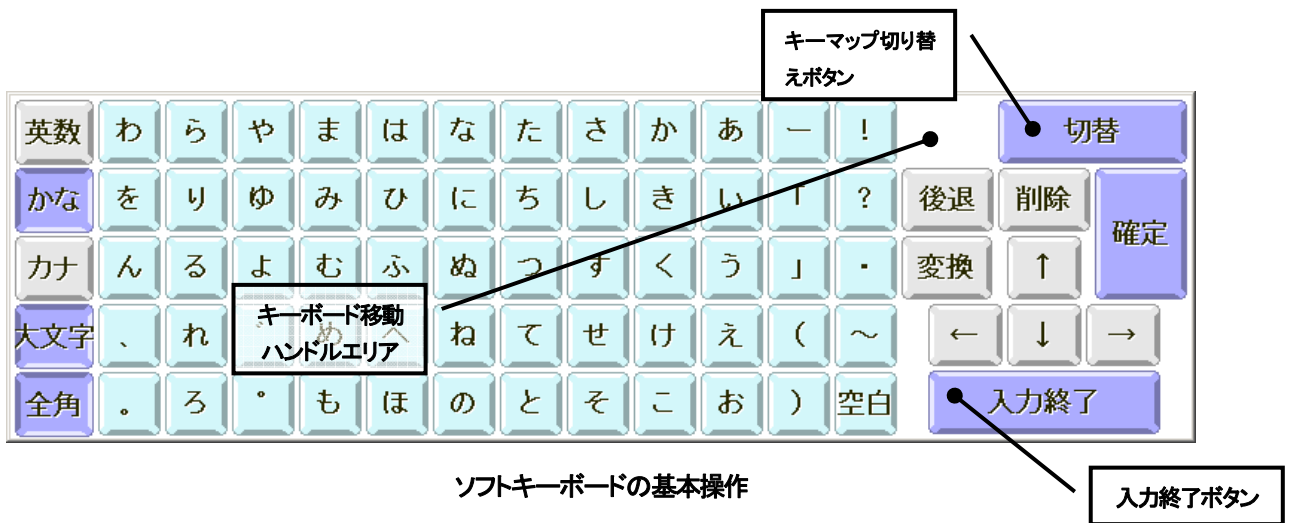
簡単キーボードのキーマップ

**87 キーボード** 市販の106キーボードからテンキー部分を削除したキーボードです。  
PCのキーボードに慣れたエンドユーザー向けです。



87 キーボードのキーマップ

## 9-2-4 ソフトキーボードの基本操作

**キーマップの切り替え**

キーボード上部のキーマップ切り替えボタンをタッチすることで「簡単キーボード」と「87 キーボード」を切り替えることができます。

**キーボードの移動**

キーボード移動ハンドルエリアを押さえながらドラッグするとキーボードを自由に移動することができます。

**キーボードの表示を終了**

キーボードの表示を終了する場合は、「入力終了」ボタンをタッチします。キーマップによってボタンのデザインが以下のようになります。

簡単キーボード:

入力終了












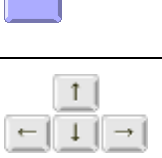
87 キーボード:

Close

### 9-2-5 「簡単キーボード」を使用した文字の入力

簡単キーボードには「英数キーマップ」、「ひらがなキーマップ」と「カタカナキーマップ」があり、キーボード左端の「英数」、「かな」、「カナ」キーをタッチすることで文字マップを切り替えて入力を行います。

#### 各キーの機能

	「英数キーマップ」に切り替えます。
	「ひらがなキーマップ」に切り替えます
	「カタカナキーマップ」に切り替えます。
 	大文字と小文字を交互に切り替えます。
 	全角と半角を交互に切り替えます。
	カーソルの左横にある文字を1文字削除します。文字を選択している場合は削除になります。
	カーソルの右横にある文字を1文字削除します。文字を選択している場合は削除になります。
	入力した文字を変換します。
	入力を確定します。
	カーソル位置を移動させます。



## 英数字の入力

簡単キーボードで、英数字・記号を入力するには、[英数]キーを選択し、キー配列を英数字モードにし、英数字・記号キーをタッチします。

大文字／小文字は、[大文字]／[小文字] キーをタッチして切り替えます。

全角／半角は、[全角]／[半角] キーをタッチして切り替えます。



簡単キーボード：英数キー配列・大文字・全角



簡単キーボード：英数キー配列・小文字・全角

### 重要

- 全角で入力した場合、入力後に [確定] キーをタッチして入力を確定する必要があります。

## ひらがなの入力

簡単キーボードで、ひらがなを入力するには、[かな]キーを選択し、キー配列をひらがなモードにし、50音順に並んだひらがなキーから目的のキーをタッチします。

ひらがなの小文字(つ、や、ゆ、よ等)の入力は、[大文字]／[小文字] キーを[小文字]にして行います。

入力した文字を確認したら [確定] キーをタッチして入力を確定します。



簡単キーボード：ひらがなキー配列・大文字・全角



簡単キーボード：ひらがなキー配列・小文字・全角



- ひらがなキーマップでは半角は選択できません。

## カタカナの入力

簡単キーボードで、カタカナを入力するには、[カナ]キーを選択し、キー配列をカタカナモードにし、50音順に並んだカタカナキーから目的のキーをタッチします。

カタカナの小文字(っ、ゃ、ゅ、ょ等)の入力は、[大文字]／[小文字] キーを[小文字]にして行います。

入力した文字を確認したら [確定] キーをタッチして入力を確定します。



簡単キーボード: カタカナキー配列・大文字・全角



簡単キーボード: カタカナキー配列・小文字・全角



- カタカナキーマップでは半角は選択できません。半角カタカナを入力したい場合は、一度全角で入力した文字を [変換] キーで半角カタカナに変換してください。

## 漢字の入力

漢字を入力する場合は「ひらがな」または「カタカナ」キーマップで文字を入力し、[変換]キーを使用して漢字に変換した後、[確定] キーをタッチします。

### 9-2-6 「87 キーボード」を使用した文字の入力

「87 キーボード」はテンキー部分を除き、一般の 106 日本語キーボードとほぼ同じキー配列となっており、操作もほぼ同じです。ただし、いくつか異なる操作がありますのでご注意ください。



87 キーボード

#### [Shift]、[Ctrl]、[Alt]を使用した入力

本製品のタッチパネルは 2 点押しができないため、通常のキーボードと同様に、[Shift]をタッチしながら別のキーをタッチするといった操作はできません。ただし、本ソフトキーボードの[Shift]、[Ctrl]、[Alt] キーはタッチされるとその状態でロックされ、次にタッチされたキーと組み合わせられて入力されます。[Ctrl]+[Alt]+[Print Screen]などの、これらのキー同士の組み合わせも可能です。

#### Windows ショートカットキー

本ソフトキーボードでは一部の Windows ショートカットキーを無効にしています。これは、ショートカットキーやタスクマネージャーによるユーザーからのアプリケーションの強制終了などのトラブルを防止するためです。以下に無効になっているショートカットキーを示します。

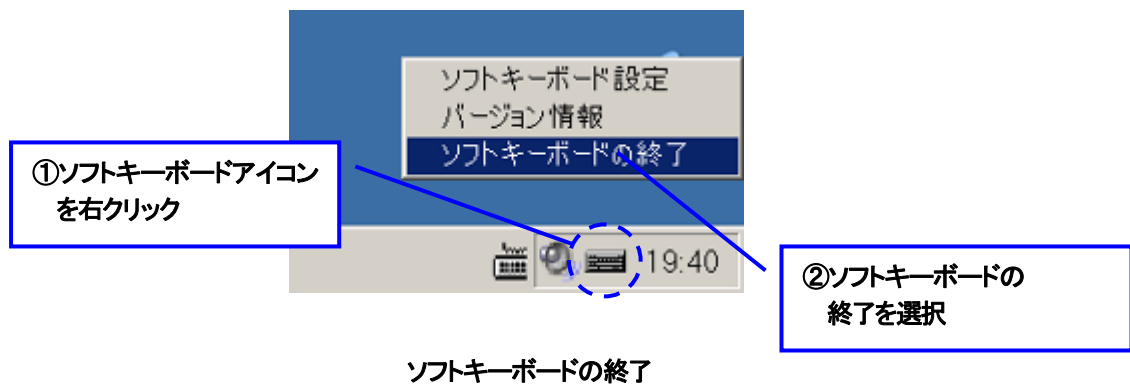
[Shift]+[Ctrl]+[Esc]	タスクマネージャーの表示
[Alt]+[F4]	アクティブプログラムの終了
[Alt]+[Space]	アクティブウィンドウのショートカットメニューを開く
[Ctrl]+[F4]	同時に複数のドキュメントを開けるプログラムでアクティブなドキュメントを閉じる
[Ctrl]+[Esc]	「スタート」メニューを表示する
[Alt]+[Tab]	開いているアイテムを順に切り替える
[Alt]+[Shift]+[Tab]	開いているアイテムを逆順に切り替える
[Ctrl]+[Alt]+[Del]	タスクマネージャーの表示
[Alt]+[Esc]	現在開いている項目が順に切り替わる
[Alt]+[Shift]+[Esc]	現在開いている項目が逆順に切り替わる
[Ctrl]+[P]	印刷
[Ctrl]+[Back Space]	文字列確定のアンドウ



- NumLock は有効の状態に固定されます。
- キーボードを 87 キーボードから簡単キーボードに切り替えた場合、「Alt」キー、「Caps」キーなどのトグル状態は解除されます。
- キーボードを非表示にしてから再度表示した場合、「Alt」キー、「Caps」キーなどのトグル状態は解除されます。
- 87 キーボードでは直接入力 IME の初期状態です。また、この状態から[半角/全角]キーなどをタッチして IME を ON にした場合は、ローマ字入力モードに初期化されます。

### 9-2-7 ソフトキーボードの終了

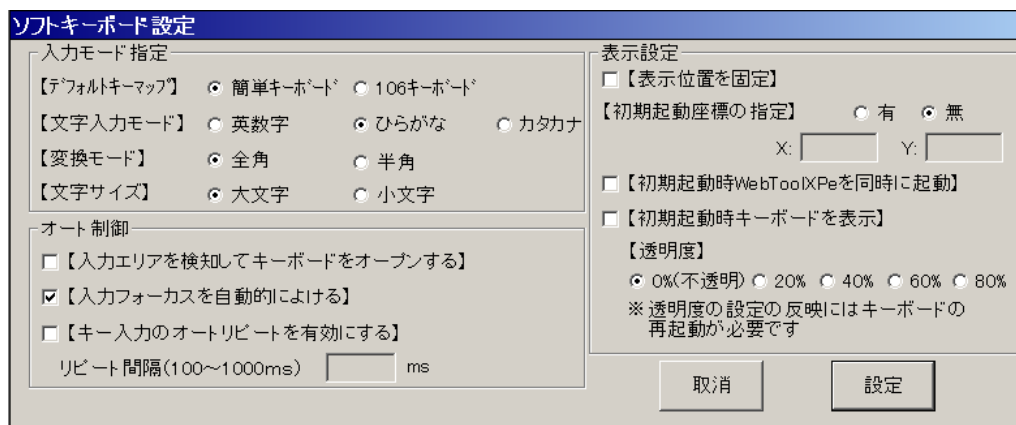
バックグラウンドで動作しているソフトキーボードを終了する場合には、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「ソフトキーボードの終了」を選択します。



## 9-2-8 ソフトキーボードの設定

ソフトキーボードの初期状態はソフトキーボード設定ツールを用いて変更することができます。

ソフトキーボード設定ツールは、コントロールパネルの「KTL ソフトキーボード設定」アイコンをダブルクリックするか、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「ソフトキーボード設定」を選択することで呼び出すことができます。



ソフトキーボード設定ツール

### 重要

- ソフトキーボードの変更を反映させるには、設定終了後にソフトキーボードの終了と再起動が必要です。
- ソフトキーボードの設定画面が表示されている場合、テンキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- 入力モードはソフトキーボードで初めてキー入力が行われた際に変更されます。

入力モード指定	
デフォルトキーマップ	キーボードが初めて起動する際に表示されるソフトキーボードのキー配列を設定します。
文字入力モード	「簡単キーボード」を最初に表示した時の、キーボードの文字キーマップを指定します。 ※「87 キーボード」の文字キーマップにはこの設定は反映されません。
変換モード	文字キーマップの設定を「英数字」にした場合の、「簡単キーボード」オープン時の全角/半角モードを指定します。  文字キーマップを「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定に関係なく全角入力となります。  ※「87 キーボード」の文字変換モードにはこの設定は反映されません。
文字サイズ	文字キーマップの設定を「英数字」にした場合の、「簡単キーボード」オープン時の大文字/小文字のキーマップを指定します。  文字キーマップを「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定に関係なく大文字入力となります。  ※「87 キーボード」の文字サイズにはこの設定は反映されません。

オート制御	
入力エリアを検知して キーボードをオープンする	この項目を有効にすると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にソフトキーボードを表示します。  また、カレットが表示された状態でソフトキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをタッチするとソフトキーボードが再表示されます。
入力フォーカスを 自動的によける	この項目を有効にすると、入力カレットの表示位置とソフトキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にソフトキーボードを移動します。
キー入力のオートリピートを 有効にする	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。  間隔は 100ms～1000ms の間で指定できます。

表示設定	
表示位置を固定	表示するソフトキーボードの位置を固定します。 表示位置は「初期表示座標の指定」にて設定します。
初期起動座標の指定	この項目を「有」に設定すると、ソフトキーボードを起動後はじめて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。デフォルトは画面左上である X 座標 0、Y 座標 0(ピクセル)に設定されています。  この項目を「無」に設定すると、ソフトキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はソフトキーボードの再起動後に有効になります。
初期起動時 WebToolXPe を同時に起動	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード(VT7SoftKeyboard.exe)の起動時に、WebToolXPe(キーボード呼出ボタン)も同時に起動します。
初期起動時キーボードを表示	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード(VT7SoftKeyboard.exe)の起動時にキーボードを表示します。
透明度	キーボードを半透明状態にすることができます。  透明度については5段階で設定を変更することができます。



- ソフトキーボードの設定画面が表示されている場合、テンキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- キーマップはソフトキーボードで初めてキー入力が行われた際に変更されます。
- 87 キーボードは必ず直接入力状態で表示され、IME を ON にした時はローマ字入力モードになります。
- 座標位置を指定する場合、ソフトキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。
- 透明度の設定にはソフトキーボードの終了と再起動が必要です。

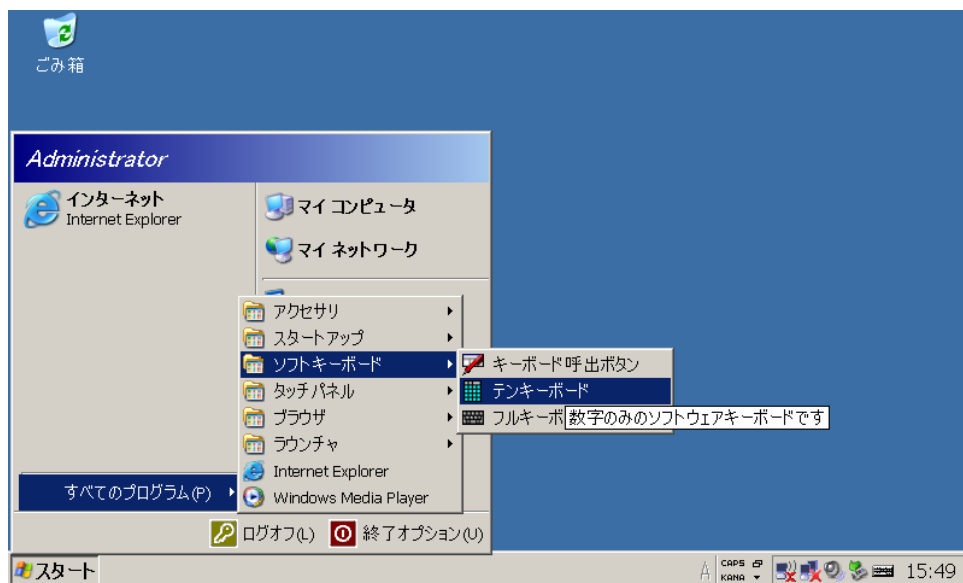


## 9-3 テンキーボード

### 9-3-1 テンキーボードの実行

テンキーボードは常駐型のアプリケーションです。テンキーボードを使用するにはあらかじめ起動しておく必要があります。

テンキーボードを起動する場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[ソフトキーボード]－[テンキーボード]メニューから実行します。



テンキーボードのスタートメニューからの実行

### 9-3-2 テンキーボードの表示

テンキーボードが実行されると、タスクトレイ上にテンキーボードアイコンが表示されます。



タスクトレイ上のテンキーボードアイコン

このアイコンをタッチすると、テンキーボードが表示されます。

### 9-3-3 テンキーボードの操作

テンキーボードでは、数字および記号の入力を行うことができます。

キーボード上部のバーを押さえながらドラッグすると自由に移動することができます。



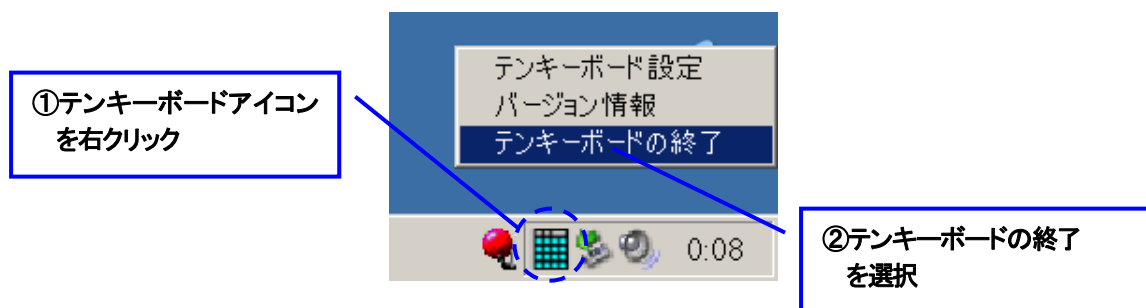
テンキーボード

## 各キーの機能

	テンキーボードの表示位置を画面左端に移動します。
	テンキーボードの表示位置を画面右端に移動します。
	全角と半角を交互に切り替えます。
	キーボードが非表示になります。
	Tab コードを入力します。
	カーソルの左側の1文字が削除されます。(Back Space キー)
数字キー群	数字・記号を入力します。
記号キー群	記号を入力します。

## 9-3-4 テンキーボードの終了

バックグラウンドで動作しているテンキーボードを終了する場合には、タスクトレイ上にあるテンキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「テンキーボードの終了」を選択します。

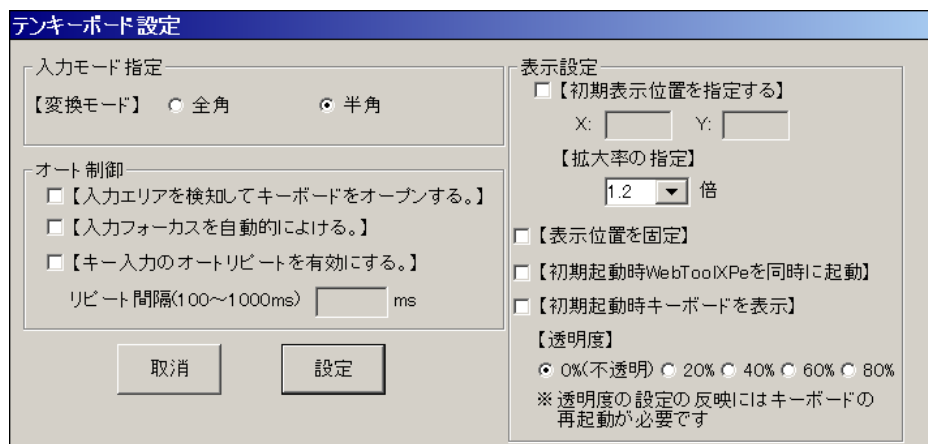


テンキーボードの終了

### 9-3-5 テンキーボードの設定

テンキーボードの初期状態はテンキーボード設定ツールを用いて変更することができます。

テンキーボード設定ツールは、コントロールパネルの「テンキーボード設定」アイコンをダブルクリックするか、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「テンキーボード設定」を選択することで呼び出すことができます。



テンキーボード設定ツール



- テンキーボードの変更を反映させるには設定終了後、テンキーボードの終了・再起動が必要です。
- テンキーボードの設定画面が表示されている場合、ソフトキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。

入力モード指定	
変換モード	テンキーボードオープン時の全角/半角モードを指定します。

オート制御	
入力エリアを検知して キーボードをオープンする	<p>この項目を有効にすると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にソフトキーボードを表示します。</p> <p>また、カレットが表示された状態でテンキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをタッチするとテンキーボードが再表示されます。</p>
入力フォーカスを 自動的によける	この項目を有効にすると、入力カレットの表示位置とテンキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にテンキーボードを移動します。
キー入力のオートリピートを 有効にする	<p>この項目にチェックを入れると、テンキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。</p> <p>間隔は 100ms～1000ms の間で指定できます。</p>

表示設定	
初期表示の位置を指定する	<p>この項目を「有」に設定すると、テンキーボードを起動後初めて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。デフォルトは画面左上である X 座標 0、Y 座標 0 (ピクセル) になっています。</p> <p>この項目を「無」に設定すると、テンキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はテンキーボード再起動後有効になります。</p>
拡大率の指定	<p>表示するテンキーボードの大きさの初期設定を指定します。</p> <p>デフォルトでは「1.2」倍サイズとなっています。</p>
表示位置を固定	<p>表示するソフトキーボードの位置を固定します。</p> <p>表示位置は「初期表示座標の指定」にて設定します。</p>
初期起動時 WebToolXPe を 同時に起動	この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時に、WebToolXPe(キーボード呼出ボタン)も同時に起動します。
初期起動時キーボードを 表示	この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時にキーボードを表示します。
透明度	<p>キーボードを半透明状態にすることができます。</p> <p>透明度については5段階で設定を変更することができます。</p>

## 9-4 キーボード呼出ボタン

ソフトキーボードまたはテンキーボードを呼び出すためのボタンツールです。指定キーボードの表示

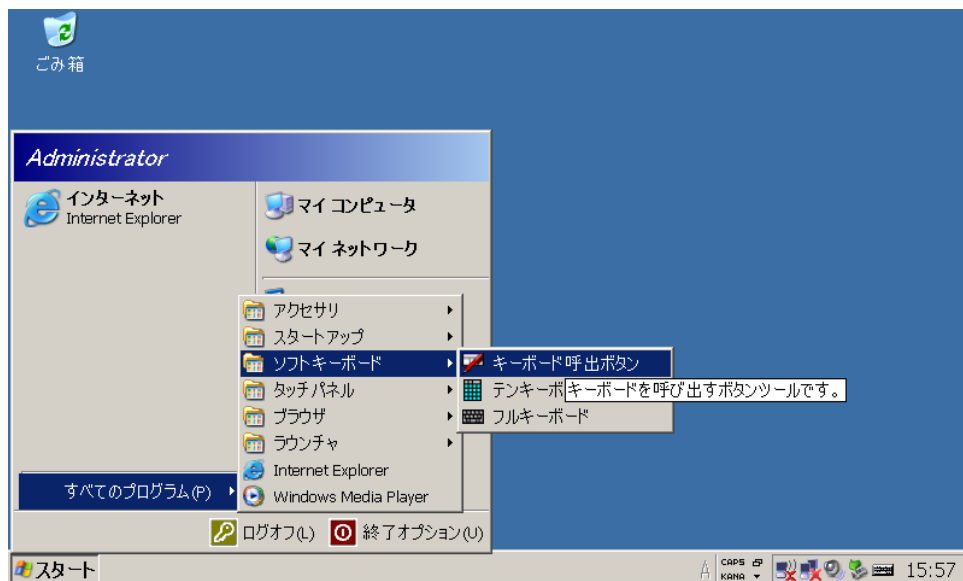
非表示をボタンの ON/OFF で制御することができます。すべてのウィンドウのトップに表示されるので、タスクバーを表示しない場合や、全画面表示のアプリケーションでソフトキーボードを呼び出すときなどに使用すると便利です。



キーボード  
呼出ボタン

### 9-4-1 キーボード呼出ボタンの起動

「スタートメニュー」―「全てのプログラム」―「ソフトキーボード」―「キーボード呼出ボタン」を選択します。





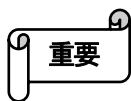
スタートメニューからのキーボード呼出ボタンの起動

### 9-4-2 キーボード呼出ボタンでのソフトウェアキーボードの表示

キーボード呼出ボタン(WebToolXPe.exe)にあるキーボードのイラストをタッチすることで指定キーボードの表示／非表示を切り替えることができます。

指定キーボードの表示状態とアイコン画像の関係

指定キーボード非表示	指定キーボード表示中
	



- デフォルトでは表示する指定キーボードはソフトキーボードになっています。
- 各ソフトウェアキーボードの「入力終了」、「Close」ボタンをタッチすることでソフトウェアキーボードを非表示にすることができます。
- 表示する指定キーボードが起動していない場合、キーボードボタンをタッチしてもキーボードは表示されません。

### 9-4-3 キーボード呼出ボタンの終了

キーボード呼出ボタンを終了するには、キーボード呼出ボタンを右クリック

して表示されるメニューで「WebToolXPe の終了」を選択します。



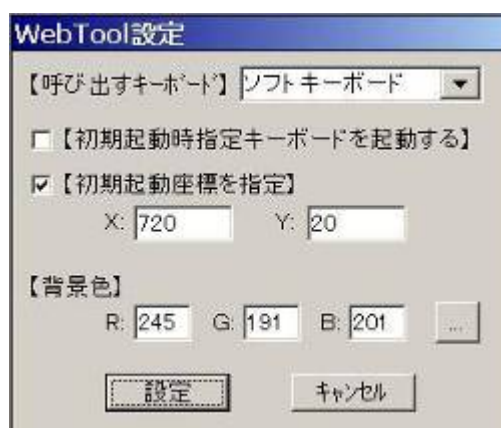
- タッチパネルでの右クリックについては、【4-2. イベントセレクタ】を参照してください。

#### 9-4-4 キーボード呼出ボタンの設定

キーボード呼出ボタンの設定を変更するには「WebTool 設定」ツールを使用します。


「WebTool 設定」ツールはコントロールパネルの「WebTool 設定」アイコンか、

キーボード呼出ボタンを右クリックして表示される「WebTool 設定」メニューから起動します。



WebTool 設定ツール

設定項目は以下のとおりです。

呼び出すキーボード	<p>キーボード呼出ボタンをタッチした際に呼び出すキーボードを選択します。 「ソフトキーボード」と「テンキーボード」のどちらかを選択できます。</p> <p>※ 工場出荷時は「ソフトキーボード」になっています。</p>
初期起動時指定キーボードを起動する	<p>この項目にチェックを入れると、WebToolXPe の起動時 (WebToolXPe.exe の実行時) に上記の「呼び出すキーボード」で指定したソフトウェアキーボード (ソフトキーボード or テンキーボード) を起動することができます。デフォルト設定では、この項目は無効となっています。</p>
初期起動座標を指定	<p>この項目にチェックを入れると、キーボード呼出ボタンを実行時に指定した座標に表示します。ここでの座標はキーボード呼出ボタンの左上角を表します。(画面外に表示されるような座標を指定しても、自動的に画面内に位置修正します。)</p>
背景色	<p>キーボード呼出ボタンの背景色を指定します。</p> <p> ボタンをタッチするとカラーパレットで色を指定することができます。</p>



- 設定の変更を次回端末起動時に反映させるには、システムドライブプロテクトを OFF の状態で設定変更する必要があります。

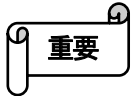
## 9-5 設定ファイルの参照

ソフトキーボード、テンキーボードの設定は、設定ファイル keyconfig.ini に保存されます。

また、キーボード呼出ボタンの設定は、設定ファイル Webtool.ini に保存されます。

それぞれの設定ファイルは以下のフォルダに保存されます。

- C:\Program Files\KTL\SOFTKB



- システムドライブプロテクトが ON の状態で設定ファイルを変更しても次回端末起動時には反映されません。デフォルトの設定ファイルの変更を保存する場合にはシステムドライブプロテクトを OFF の状態で設定をしてください。



## 9-6 KTL ブラウザとの連携

### 9-6-1 「キーボード呼び出し」ボタンの取り込み

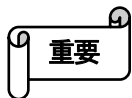
キーボード呼出ボタンは、KTL ブラウザの設定でソフトキーボードボタンを表示する設定になっている場合、KTL ブラウザが起動すると、KTL ブラウザのツールバーボタンとしてツールバー上に表示されます。



- KTL ブラウザ上でソフトウェアキーボードボタンを使用するには、キーボード呼出ボタン、使用するキーボードがあらかじめ実行されている必要があります。

### 9-6-2 <INPUT>タグを使用したコンテンツ上でソフトウェアキーボードの自動起動

ソフトキーボード/テンキーボードの設定で「入力エリアを検知してキーボードをオープンする」が有効な状態で、KTL ブラウザが<INPUT>で作成されて入力フィールドを持つコンテンツを表示している場合、その入力エリアをタッチすると自動起動モードになっているキーボードが表示されます。



- この機能は INPUT タグの属性が text, password である場合のみ対応しています。
- Flash コンテンツの入力フィールドや、INPUT ( text, password 属性 ) タグで作成されていない入力エリアには対応しておりません。

#### <INPUT>タグを使用したコンテンツの例: InputTagSample.html

```
<html>
<body>
Text 属性
  <input type=text onfocus=""><BR>
Password 属性
  <input type=password onfocus=""><BR>
</body>
</html>
```

## 10 ブラウザ

本製品には Internet Explorer の他に、タッチパネルでの操作に適した「KTL ブラウザ」が組み込まれています。「KTL ブラウザ」はパソコンに不慣れなエンドユーザーでも簡単にインターネットを楽しめる、簡単操作のブラウザです。また、全画面表示や自動スタートページジャンプなどキオスク端末として使用するのに便利な機能が数多く用意されています。



- ホームページの閲覧に使用するブラウザはエンドユーザーの個人情報を記録しています。特に不特定多数のエンドユーザーが1台の端末を利用する環境では、次のような問題の発生が予想されますので、個人情報の管理に関する対策を盛り込んだシステム運用を行ってください。
  - ◆ 閲覧履歴を第三者に見られることによるプライバシーの侵害。
  - ◆ 登録した ID やパスワードを第三者に盗まれ、悪用される恐れ。
- コンピュータウィルスに対しても十分な予防策を講じたシステム運用を行ってください。
- 本マニュアルリリース時点での KTL ブラウザの最新バージョンは以下のようになっています。
 

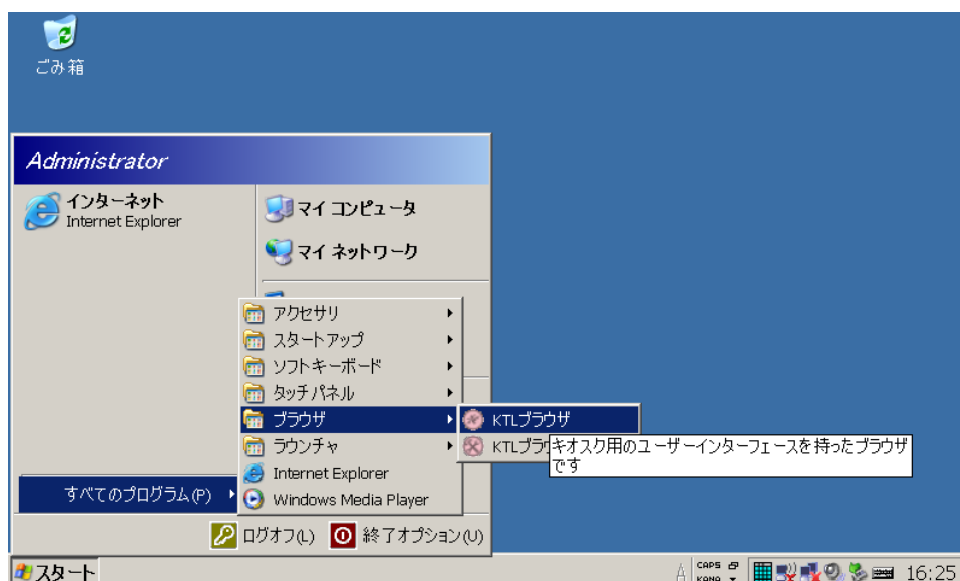
◆ KTL ブラウザ(ブラウザ本体)	Version 1.21
◆ KTL ブラウザ設定	Version 1.21
- 本マニュアルには上記バージョンからご利用になれる機能についても記載されています。本マニュアル参照の際には、ご利用になる KTL ブラウザのバージョンを確認の上ご利用ください。

### 10-1 KTL ブラウザの起動

KTL ブラウザは以下の方法で起動することができます。

#### 【起動手順】

1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[ブラウザ]-[KTL ブラウザ]をタッチします。



スタートメニューからの起動

## 2. [KTL ブラウザ]画面が表示されます。



KTL ブラウザの初期画面



- 最初のスタートページは「about:blank」になっています。実際のインターネットの閲覧はアドレスバーに具体的な URL を入力するか、「KTL ブラウザ設定」でスタートページを変更してください。

以上で起動手順は終了です。

## 10-2 KTL ブラウザの画面構成

KTL ブラウザはメインブラウザとサブブラウザの画面があります。

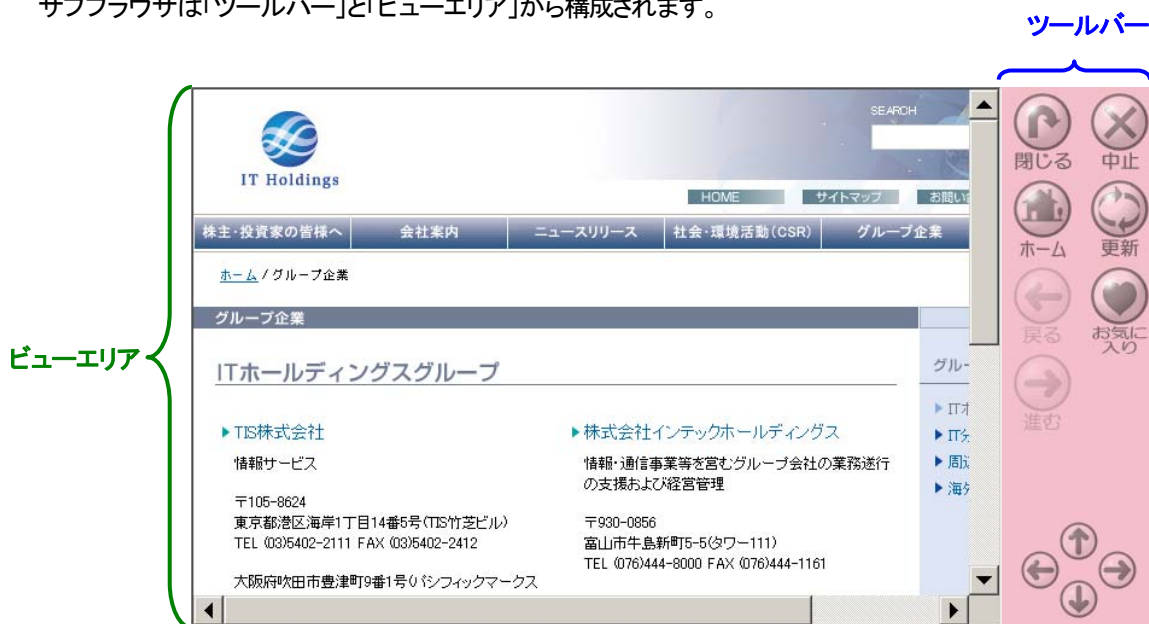
サブブラウザはメインブラウザから呼び出される 2 目以降の画面です。

メインブラウザは、「ツールバー」、「アドレスバー」、「ビューエリア」によって構成されています。



KTL ブラウザ:メインブラウザの画面

サブブラウザは「ツールバー」と「ビューエリア」から構成されます。



KTL ブラウザ: サブブラウザの画面

### 10-2-1 ツールバー

主にブラウザを操作するための「ボタン」、「十字キー」、「ロゴマーク」を表示します。



「終了」ボタンです。メインブラウザでのみ表示されます。  
「KTL ブラウザ」を終了します。



「ホーム」ボタンです。  
KTL ブラウザ設定の”ホームページ”に登録されている URL を表示します。  
サブブラウザ上のホームボタンをタッチすると、表示されている全てのサブブラウザが閉じられ、メインブラウザ上で”ホームページ”に登録した URL を表示します。



「戻る」ボタンです。  
直前に表示したページに戻ります。



「進む」ボタンです。  
「戻る」ボタンをタッチする前に表示したページを再度表示します。



「中止」ボタンです。  
ページの読み込み・表示を停止します。



「更新」ボタンです。  
現在表示されているページを更新します。



「お気に入り」ボタンです。よく利用するページの登録・呼び出しができます。  
お気に入り機能については【10-7. 「お気に入り」の利用】で詳しく説明しています。



「印刷」ボタンです。  
表示中のページをプリンタに出力します。



「文字小」ボタンです。表示中のページの文字を小さくします。  
ページによっては文字の大きさが変化しないものもあります。



「文字大」ボタンです。表示中のページの文字を大きくします。  
ページによっては文字の大きさが変化しないものもあります。



「文字入力」ボタンです。ソフトウェアキーボードを呼び出します。  
本ボタンは「キーボード呼び出しボタン」ツールと連動しており、本ボタンを使用するには「キーボード呼び出しボタン」ツールが起動中である必要があります。  
「キーボード呼び出しボタン」ツールについては【9-4 キーボード呼出ボタン】を参照してください。



「外部アプリケーション」ボタンです。登録された外部アプリケーションを呼び出します。



外部アプリケーションの登録方法については【10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定】で詳しく説明しています。



「閉じる」ボタンです。サブブラウザでのみ使用します。  
現在表示中のサブブラウザ画面を閉じます。



「十字キー」ボタンです。  
矢印をタッチするとその方向に画面に表示中のコンテンツがスクロールします。



ロゴマークです。  
リンク先に接続中はアニメーションを再生します。

## 10-2-2 アドレスバー

「アドレスバー」と「移動」ボタンを表示します。現在表示中のコンテンツのアドレス(URL)の表示や、移動先のアドレスを指定するのに使用します。



「アドレスバー」はページのアドレスの表示・入力を行います。

右側の▼ボタンをタッチすると、入力したアドレス(URL)の履歴が表示されます。



「移動」ボタンです。

アドレスバーに入力したアドレスに移動し、ページの表示を行います。

## 10-2-3 ビューエリア

現在アクセス中のページを表示するエリアです。

ビューエリアを全画面で表示する事もできます。(コンテンツを全画面で表示できます。)

## 10-3 KTL ブラウザの終了

「KTL ブラウザ」は通常、「終了」ボタンをタッチすると終了しますが、「終了」ボタンを非表示にしている場合や、全画面表示している場合などは以下の方法で終了することができます。

1. KTL ブラウザの画面(ツールバー、アドレスバー、ビューエリア)を右クリックします。
2. 表示されるポップアップメニューで「ブラウザ終了」を選択します。



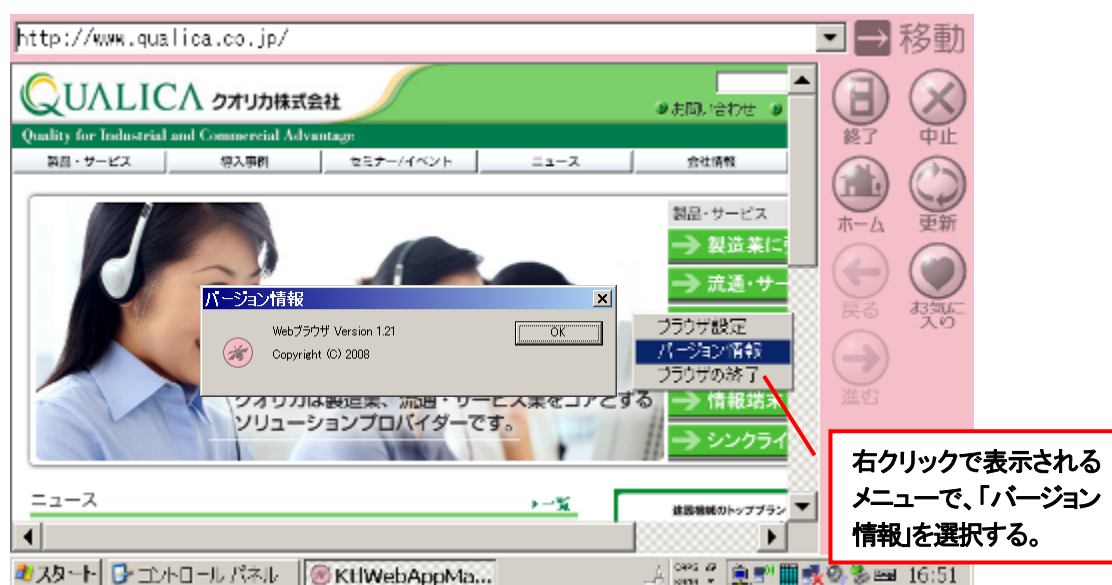
右クリックによる KTL ブラウザの終了

## 10-4 ブラウザのバージョンの確認

「KTL ブラウザ」のバージョンは以下の方法で確認することができます。

### 【確認手順】

1. KTL ブラウザの画面(ツールバー、アドレスバー)、ビューエリア)を右クリックします。
2. 表示されるポップアップメニューで「バージョン情報」をタッチします。
3. 「バージョン情報」ダイアログが表示されます。



KTL ブラウザのバージョンの確認

以上で操作手順は終了です。

## 10-5 ページの閲覧

ページの指定は次のいずれかの方法で行います。

- ビュー画面に表示されているページのリンクをタッチする
- 「アドレスバー」に目的のページのアドレス(URL)を入力し、「移動」ボタンをタッチする
- 「お気に入り」に登録したページのリストから目的のページを選択し、ダブルクリックする
- 「お気に入り」に登録したページのリストから目的のページを選択し、「表示」ボタンをタッチする

## 10-6 KTL ブラウザ上の文字の入力

アドレスの入力やその他の文字入力はソフトウェアキーボードと外付けキーボードのいずれから行うことができます。

ソフトウェアキーボードが自動起動設定になっている場合は、コンテンツ内にある<INPUT>タグ(text, password属性)で作成されている入力エリアをタッチするとソフトウェアキーボードが表示されます。(【9-6 KTLブラウザとの連携】参照)

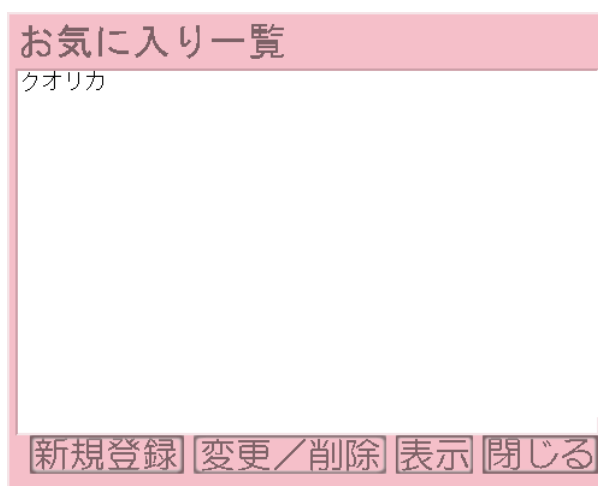
また、ツールバー上にある「文字入力」ボタンをタッチしてもソフトキーボードが表示されます。



- 「文字入力」ボタンは、ソフトウェアキーボードの「キーボード呼び出しボタン」と同一であるため、呼び出すキーボードなどの設定はWebTool設定ツールで行います。(【9-4-4. キーボード呼出ボタンの設定】参照)

## 10-7 「お気に入り」の利用

よく利用するページを、「お気に入り」ボタンで表示される「お気に入り一覧」に登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。



お気に入り一覧



### 10-7-1 お気に入り登録

1. 登録したいページを表示します。
2. 「お気に入り」ボタンをタッチします。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
3. 「お気に入り一覧」ウィンドウにある「新規登録」ボタンをタッチします。「お気に入り編集」ウィンドウが表示されます。

#### お気に入り編集

4. 登録名を名前欄に入力します。名前欄には現在表示中のコンテンツの名前(タイトル)が表示されていますので、変更する場合は新しい名前を入力します。ここで入力された名前が「お気に入り一覧」に表示されます。
5. アドレスを入力します。「アドレス」部分には現在表示中のアドレス(URL)が表示されています。通常は変更の必要はありません。この部分に別のアドレス(URL)を入力することで、表示中のものとは別のアドレスを登録することもできます。
6. 「登録」ボタンをタッチして「お気に入り一覧」にページを登録します。  
変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンをタッチします。
7. 「閉じる」ボタンをタッチして、「お気に入り一覧」を閉じます。



- Windows 禁止文字（半角文字「¥」・「/」・「:」・「?」・「"」・「<」・「>」・「|」）を使用した名前の登録はできません。

### 10-7-2 お気に入りの変更

1. 「お気に入り」ボタンをタッチします。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
2. 「お気に入り一覧」の中から変更したい項目の名前をタッチして選択します。
3. 「変更/削除」ボタンをタッチします。
4. 「お気に入り編集」に表示されている情報を変更します。
5. 「登録」ボタンをタッチします。  
変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンをタッチします。
6. 「閉じる」ボタンをタッチして、「お気に入り一覧」を閉じます。

### 10-7-3 お気に入り削除

1. 「お気に入り」ボタンをタッチします。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
2. 「お気に入り一覧」の中から削除したい項目の名前をタッチして選択します。
3. 「変更/削除」ボタンをタッチします。
4. 「お気に入り編集」に表示されている情報が、削除したい項目のものか確認します。間違って別の項目を選択していた場合は「キャンセル」ボタンをタッチし再度削除したい項目を選択します。
5. 「削除」ボタンをタッチします。「お気に入り一覧」の中から選択した項目が削除されます。
6. 「閉じる」ボタンをタッチして、「お気に入り一覧」を閉じます。

### 10-7-4 お気に入りの呼び出し

1. 「お気に入り」ボタンをタッチします。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
2. 「お気に入り一覧」の中から、目的の名前を選択します。
3. 「お気に入り一覧」で「表示」ボタンをタッチします。目的のページがブラウザに表示されます。



- 使用者に「お気に入り」を編集させたくない場合、「KTLブラウザ設定」の「お気に入り編集」設定を無効にすることにより、「新規登録」、「変更／削除」ボタンを非表示にすることができます。（【10-8-2 全体の設定 [表示機能設定]】を参照）

### 10-7-5 お気に入り情報の参照

お気に入り一覧の情報は以下のフォルダに保存されます。

- C:\Program Files\KTL\KTLWEB\Favorites



- 「お気に入り情報」の登録はシステムドライブプロテクトを OFF の状態で登録してください。

## 10-8 KTL ブラウザの設定

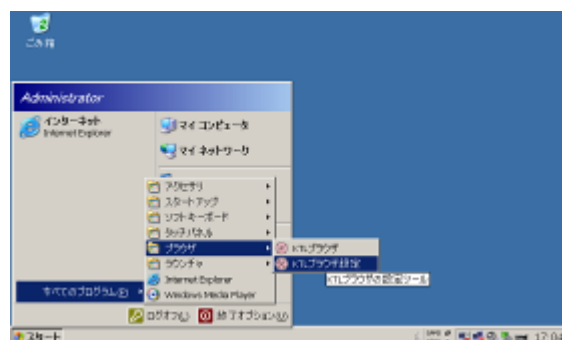
KTL ブラウザの設定は「KTL ブラウザ設定」から行います。

### 10-8-1 KTL ブラウザ設定の起動

KTL ブラウザ設定は「スタートメニュー」-「すべてのプログラム」-「ブラウザ」-「KTL ブラウザ設定」を実行す

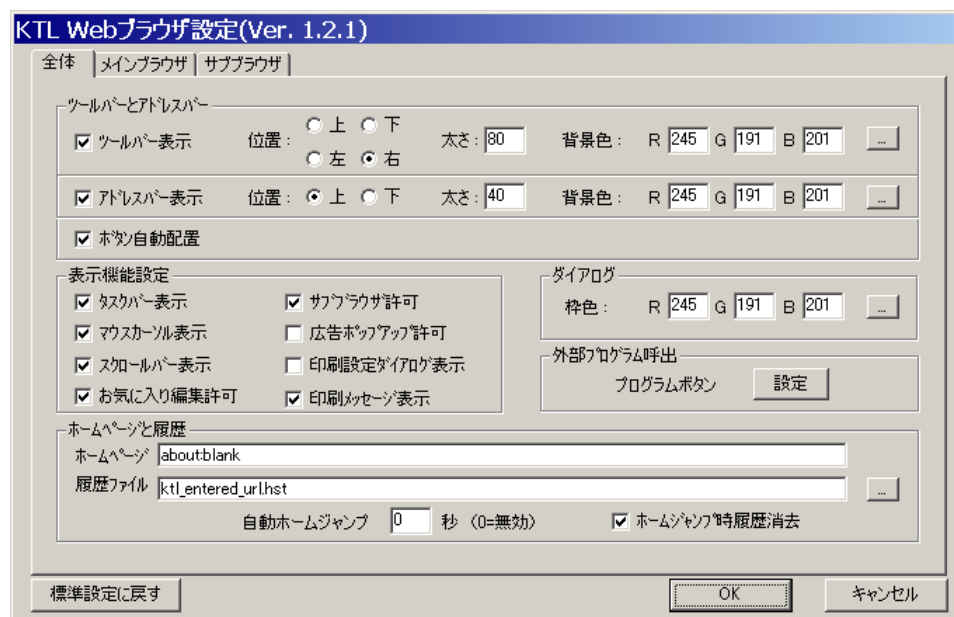
るか、コントロールパネル内の「KTL ブラウザ設定」から起動することができます。

また、ブラウザを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



スタートメニュー:KTLWeb ブラウザ設定

### 10-8-2 全体の設定



KTL ブラウザ設定:全体

## ツールバーとアドレスバー

**ツールバー表示** ツールバーの表示/非表示を設定します。

**位置** 「上下左右」のいずれか一つの方向にツールバーの表示位置を指定する事ができます。



ツールバー:上



ツールバー:下

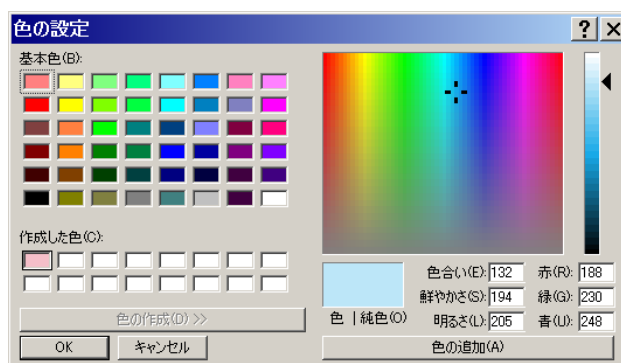


ツールバー:左



ツールバー:右

**太さ** ツールバーの太さ(幅)を Pixel 単位で指定する事ができます。  
**背景色** ツールバーの背景色を指定することが出来ます。色ボタンをタッチすればカラーパレットを使用して色を指定することができます。



カラーパレット

**アドレスバー表示** アドレスバーの表示/非表示を設定します。

**位置** 「上下」のいずれか1つの方向にアドレスバーの表示位置を指定する事ができます。



アドレスバー:上




アドレスバー:下

**太さ**

アドレスバーの太さを指定する事ができます。

**背景色**

アドレスバーの背景色を指定することが出来ます。  ボタンをタッチするとカラーパレットを使用して色を指定することができます。

**ボタン自動配置**

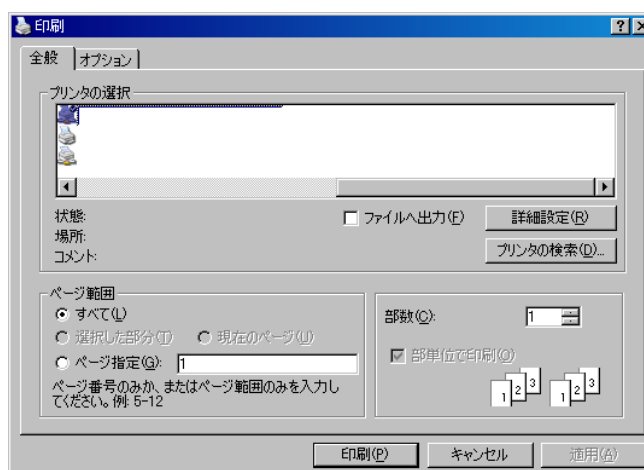
各バーに表示するボタン及びコントロールを自動的に配置します。チェックを外せば、「アドレスバー」、「ツールバー」上のボタン等の各コントロールを任意に配置することができます。

## 表示機能設定

<b>タスクバー表示</b>	Windows タスクバーを表示する場合にチェックを付けます。
<b>マウスカーソル表示</b>	画面上にマウスカーソルを表示にしたい場合はチェックを付けます。表示させない場合はチェックをはずします。
<b>スクロールバー表示</b>	画面上にスクロールバーを表示にしたい場合はチェックを付けます。表示させない場合はチェックをはずします。
<b>お気に入り編集許可</b>	「お気に入り一覧」画面に「新規登録」・「変更/削除」ボタンを表示し、お気に入り情報の編集を可能にします。
<b>サブブラウザ許可</b>	サブブラウザ許可を設定した場合、コンテンツ上のリンクが別ウィンドウを起動するように指定している場合に、メインブラウザ上でリンク先のコンテンツを表示し、サブブラウザも表示します。
<b>広告ポップアップ許可</b>	<p>広告ポップアップの表示を許可します。</p> <p>サブブラウザはリンクをタッチするなどのユーザーの操作によって新しいウィンドウが開きますが、この設定を有効にするとコンテンツ内から自動的に呼ばれるポップアップウィンドウの表示を許可します。</p>

## 印刷設定ダイアログ表示

印刷前にプリンタのセットアップ画面を表示します。

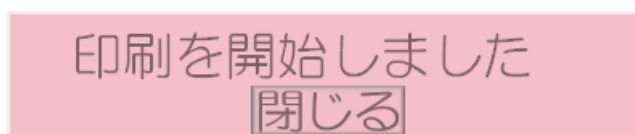


### 印刷ダイアログ

※ この設定が有効な場合、印刷メッセージ表示設定が有効であっても、印刷メッセージは表示されません。

## 印刷メッセージ表示

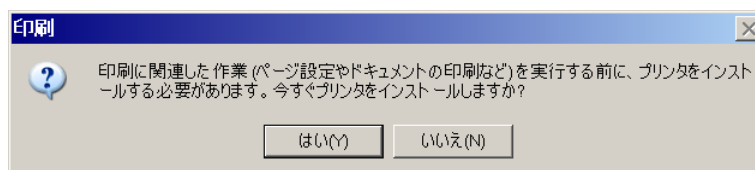
印刷時のステータス情報を画面に表示します。



### 印刷メッセージ

※ プリンタドライバからステータス情報を取得できない場合、エラーメッセージ等は表示されません。

※ プリンタのセットアップが行われていない場合、印刷を行うと以下のようなメッセージが表示されます。この際表示されるプリンタセットアップ画面で設定を行い、印刷を再度実行してください。



## ダイアログ

### 枠色

ブラウザから起動されるお気に入り設定や印刷ダイアログなどの枠の色を RGB カラーで指定します。カラーパレットを使用しても色を指定することができます。

## 外部プログラム呼出

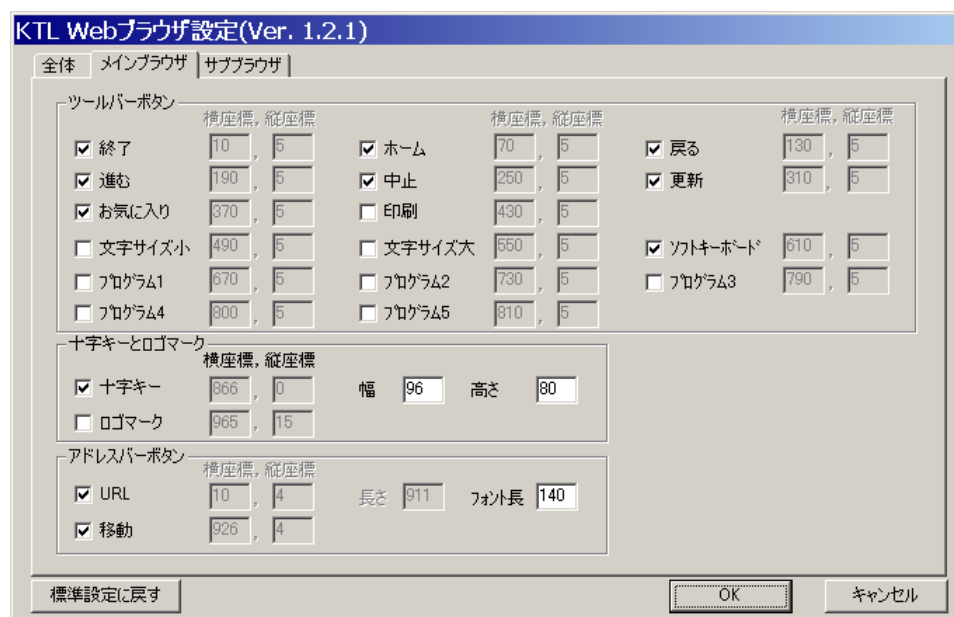
### プログラムボタン

「KTL ブラウザ」の外部ボタン 1～5 で呼び出す外部アプリケーションを登録します。  
詳細は【10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定】をご覧ください。

## ホームページと履歴

- ホームページ** 「KTL ブラウザ」を起動したとき、最初に表示されるページのアドレス(URL)を指定します。
- 履歴ファイル** URL 履歴一覧の情報を保存するファイル(テキスト形式、拡張子 hst)を指定します。
- ※ エンドユーザーが「履歴」機能を継続的に利用するには、URL 履歴一覧ファイルの保存場所を拡張ドライブに設定する必要があります。
- 自動ホームジャンプ** 「KTL ブラウザ」を操作しない状態が一定時間以上続くと、自動的に“ホームページ”に登録したページに移動します。
- 自動ホームジャンプが実行されると、開いているサブブラウザはすべて閉じられます。また、戻るまでの時間は 1 秒単位で設定し、無効にする場合は 0 を指定します。
- ホームジャンプ時履歴消去** 「ホーム」ボタンがタッチされたとき、履歴情報を削除します。履歴情報を削除する場合はチェックを付けます。
- ここで言う履歴情報は、現在表示中の画面遷移履歴を削除することであり、「履歴ファイル名」設定で指定した履歴ファイル情報を削除するものではありません。

### 10-8-3 メインブラウザの設定



KTL ブラウザ設定:メインブラウザ

#### ツールバーボタン

ツールバーに表示可能な各ボタンについて表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でロゴマークの表示位置を指定します。

ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。



## 十字キーとロゴマーク

### 十字キー

十字キーの表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「幅」、「高さ」では十字キーの幅と高さを Pixel 単位で指定できます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」で十字キーの表示位置を指定します。ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

### ロゴマーク

ロゴマークの表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でロゴマークの表示位置を指定します。ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。



- 「ボタン自動配置」設定が有効な場合、十字キーの「幅」に対する「高さ」の比が「0.73」以下の値を設定することはできません。この場合、「幅」:「高さ」の比が「0.73」の大きさの十字キーが表示されます。(例:幅 96, 高さ 40 → 幅 96 高さ 67 の十字キーを表示)

## アドレスバーボタン

### URL

アドレスバーに URL を入力するためのテキストボックスを表示します。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でテキストボックスの表示位置を指定します。ここではアドレスバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

「長さ」ではこのテキストボックスの長さを変更することができます。

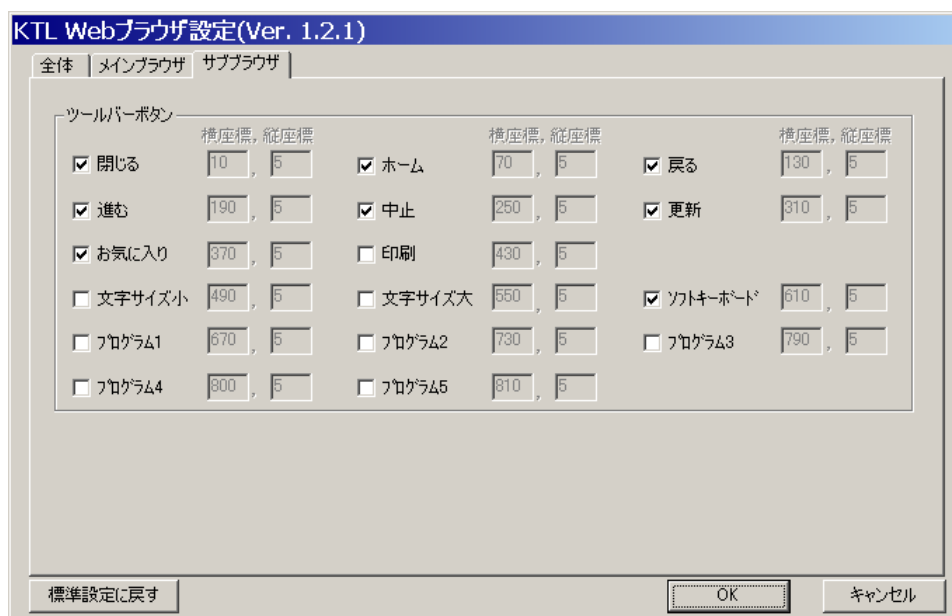
「フォント長」ではこのテキストボックスに表示する文字のフォントサイズを変更することができます。このとき、このテキストボックスの高さも同時に大きくなります。

### 移動

アドレスバーに「移動」ボタンを表示します。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」で移動ボタンの表示位置を指定します。ここではアドレスバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

## 10-8-4 サブブラウザの設定



KTL ブラウザ設定: サブブラウザ

## ツールバーボタン

各操作ボタンの表示/非表示を設定します。表示させたいときはチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は、「横座標」「縦座標」欄でボタンの表示位置を指定します。

ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

これらの設定はメインブラウザでの設定とは独立に行うことができます。



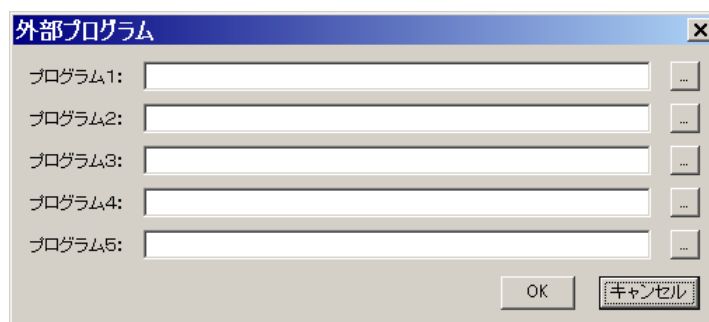
- ツールバーの設定はメインブラウザでの設定に従います。
- ロゴマーク、十字キーの設定はメインブラウザでの設定に従います。
- サブブラウザではアドレスバーの設定はできません。

### 10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定


ブラウザから別のアプリケーションを呼び出したい場合、プログラムボタン 1～5 にそのアプリケーションを登録することができます。

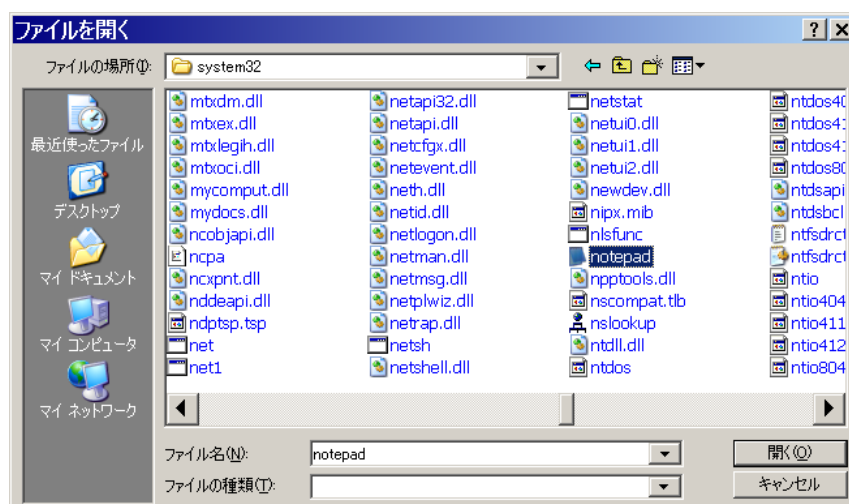
#### 外部プログラムを登録する

1. 「KTL ブラウザ設定」を起動し、プログラムボタンの「設定」ボタンをタッチして、「外部プログラム」画面を表示します。



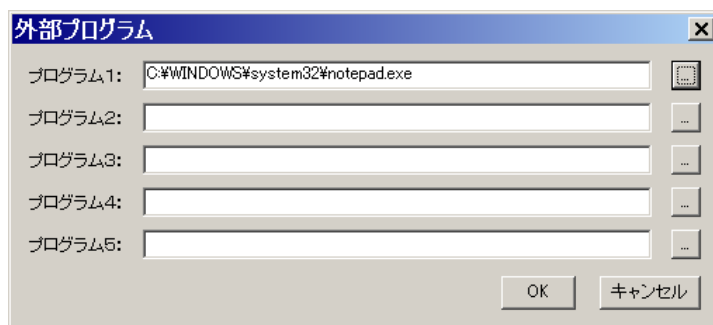
外部プログラムダイアログ

2.  ボタンをタッチして「ファイルを開く」画面を起動します。ここで呼び出すプログラムを選択し、「開く」ボタンをタッチします。(この例では Notepad が選択されています。)



ファイルを開く

3. 選択したプログラムのへの絶対パスが表示されていることを確認し、「OK」ボタンをタッチします。

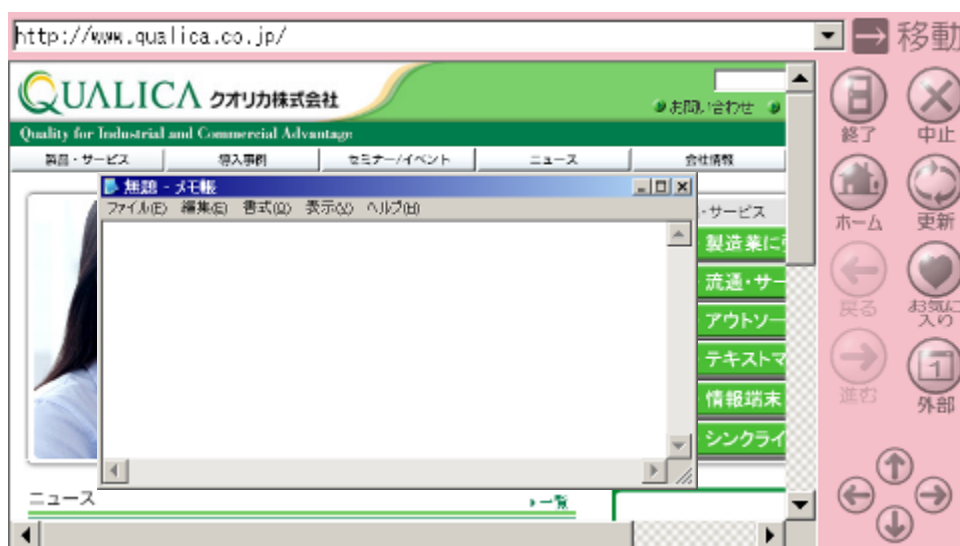


外部プログラム: Notepad の追加



- リストに追加できるプログラムは最大5つまでです。
- 「プログラム 1～5」ボタンに登録するアプリケーションの順序は、外部プログラム画面に表示されているリスト順に従います。
- 「ファイルを開く」画面を使用しなくても、直接実行ファイルの絶対パスを入力することもできます。

4. ツールバーに「外部1」ボタンを表示している状態で「外部1」ボタンをタッチすると、登録した Notepad が呼び出されます。



外部アプリケーションボタン: Notepad の呼び出し

5. 外部プログラムボタンの割付を変更する場合には、【外部プログラムを登録する】1 より設定し直してください。

## 外部プログラムの削除

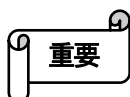
1. 削除するプログラムをリスト上から削除します。
2. 「OK」ボタンをタッチします。

### 10-8-6 設定ファイルの参照

KTL ブラウザの設定は、設定ファイル ktl\_web\_app.ini に保存されます。

KTL ブラウザは起動時に以下のような順序で設定ファイル検索し、最初に見つけた設定ファイルを読み込みます。

1. コマンドライン引数で指定された設定ファイル
2. C:\Program Files\KTL\KTLWEB\ ktl\_web\_app.ini (デフォルト)



- KTL ブラウザ設定ツールで変更した設定値は必ず C:\Program Files\KTL\KTLWEB\ ktl\_web\_app.ini に保存されます。
- システムドライブプロテクトが ON の状態で KTL ブラウザの設定を変更しても、次回端末起動時には反映されません。システムドライブプロテクトを OFF の状態で設定を変更してください。

## 10-9 コマンドラインからの実行

本ブラウザはコマンドラインから起動される場合、次のコマンドオプション(引数)をサポートしています。

- I 設定ファイルのパスを指定します。  
(この引数識別子は必ず大文字で記述してください。)
- S 起動時に表示するページ(ホームページ)の URL を指定します。  
(この引数識別子は必ず大文字で記述してください。)

例) “C:\Program Files\KTL\KTLWeb\KtlWebApp.exe” -I C:\data.ini -S <http://www.qualica.co.jp>



- 端末起動時にKTLブラウザを自動起動する場合の方法は【7 アプリケーションの自動起動】をご参照ください。

## 10-10 サポートしているブラウザ機能

「KTL ブラウザ」は Internet Explorer をベースに開発されています。本製品にインストールされている Internet Explorer は最小構成版のため、一部サポートされていない機能があります。

サポートしている機能は以下のとおりです。

- The Internet Explorer DHTML プラットフォーム
- Full CSS Level 1 サポート
- Full DCOM Level 1 サポート
- Microsoft XML (MSXML) 3.0
- HTML4.0
- Jscript(JavaScript 互換)
- Visual Basic Script
- Microsoft Shockwave Flash

## 10-11 使用上の制限事項



- コンテンツ内にスクリプトエラーがあっても、エラーメッセージは表示されません。
- JavaScript の window.open を使用して同じウィンドウクラス名で連続的にウィンドウを開くようなコンテンツには対応しておりません。
- 本ブラウザはウィンドウのサイズを変更できません。
- 本ブラウザはポップアップブロック等 Windows XP SP2 の新機能には対応しておりません。

# 11 ラウンチャ

アプリケーションを簡単に起動するためのツールです。

例えば、Windows のデスクトップ画面を表示せず、指定のアプリケーションのみを起動・運用したい場合や、必要なアプリケーションを起動するためのボタンを常時画面上に表示しておきたい場合などに使用します。

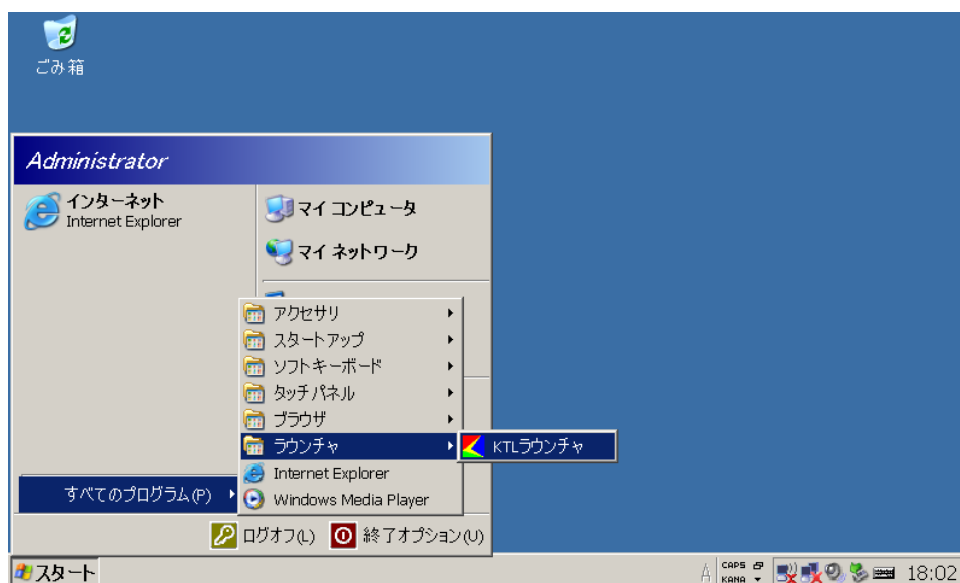
本端末に組み込まれている“KTL ラウンチャ”は、背景・ボタンのレイアウト、ボタンへの起動アプリケーションの割付など、設定ファイルで指定できるため、ご利用の目的に合った自由なデザインでラウンチャの画面を構成できます。

## 11-1 基本的な使用方法

本端末には設定ファイル・イメージファイルのサンプルが既に組み込まれています。これを例に基本的な使用方法を説明します。

### 11-1-1 起動

[スタート]メニューの[すべてのプログラム]で[ラウンチャ]→[KTL ラウンチャ]を選択すると、KTL ラウンチャがサンプルデザインで起動します。



スタートメニューからのラウンチャの起動

## 11-1-2 画面の説明

サンプルデザインは以下のような構成になっています。

- 全画面にウィンドウ・背景を表示
- 起動アプリケーションが割り付けられていないボタンが3つ、アプリケーション(KTL ブラウザ)の起動を行うボタンを4つ配置
- 一定時間(30 秒)で切り替わるサイクル画像を配置





### 11-1-3 ボタンをタッチする

画面下側に配置されている3つのボタン、「アプリケーション」「アプリケーション2」、「アプリケーション3」ボタンをタッチするとボタンの画像が変化することが確認できます。



ボタン(通常)



ボタン(タッチ時)



- 初期状態ではこれらのボタンにはアプリケーションが設定されていないため、何も起動しません。

### 11-1-4 ボタンからのアプリケーションの起動

本端末をインターネットに接続した状態でKTL ラウンチャを起動し、画面右側に配置されている4つのボタンをタッチしてください。KTLブラウザが起動し、各ボタンに関連したホームページが閲覧できます。ブラウザを終了すると、ラウンチャ画面に戻ります。



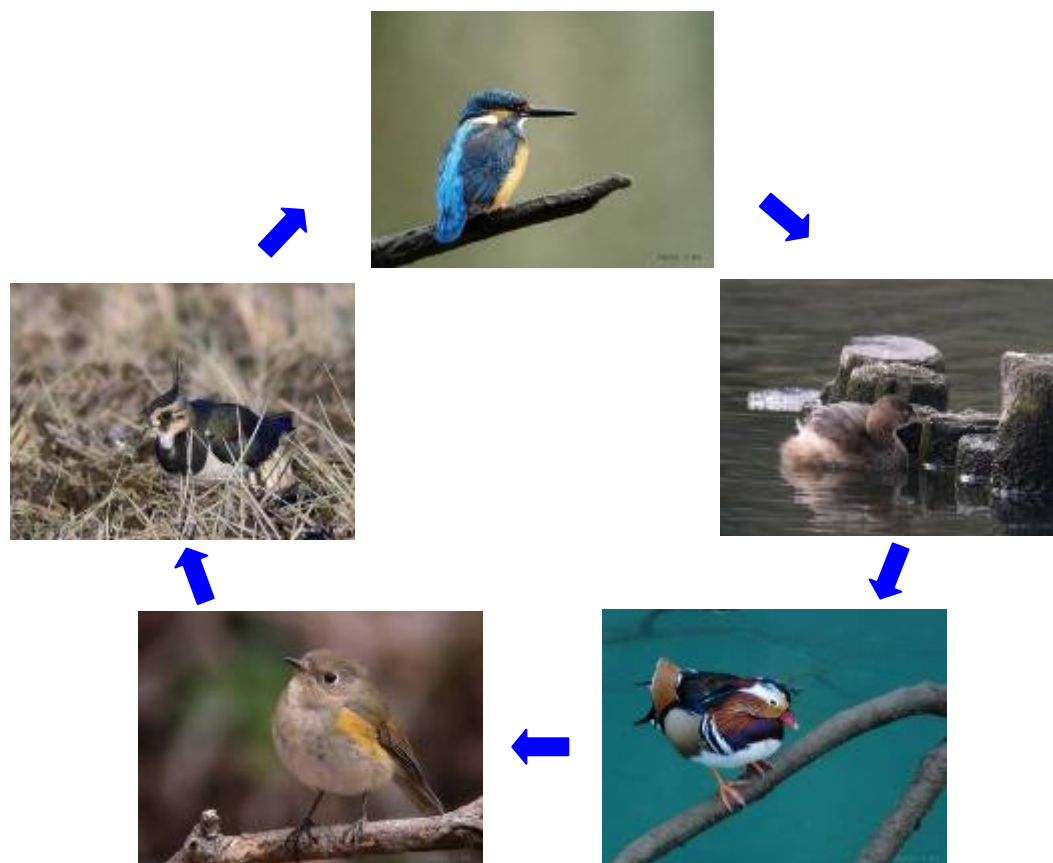
ボタン:ニュース



KTL ブラウザの起動

### 11-1-5 サイクル画像

サンプルデザインの左上にはサイクル画像が配置されています。約30秒間隔で5種類の写真イメージを繰り返し表示します。



サイクルイメージ

### 11-1-6 終了



## 11-2 KTL ラウンチャの設定

### 11-2-1 使用できる画像形式

KTL ラウンチャで表示できる画像は、ビットマップ画像(\*.bmp)、JPEG 画像(\*.jpg)、GIF 画像(\*.gif)、PNG 画像(\*.png)の4種類です。それぞれ以下の表に示したような特徴があります。状況に合わせてお使いください。

画像	特徴	透過	使用例
BMP	Windows の標準的な画像形式。無圧縮なため劣化はないが、ファイル容量が大きい。	×	ロゴ等
GIF	主に Web ページのボタンなどに用いられている。色数が限定されるが、容量が小さい	○	ボタン、イラスト
JPEG	デジカメ写真などで標準的な画像形式。 色数も多く、ファイルも小さくできるが、圧縮により画像の劣化が起こる場合がある。	×	背景、写真
PNG	GIF に似ているが、色数・機能とも非常に高く、透過処理などさまざまな効果を持ったイメージを作成・表示できる。	○	ボタン、ロゴ

### 11-2-2 設定ファイル

KTL ラウンチャの各種設定と画面のデザインは CSV 形式の設定ファイルで記述します。

設定項目として、“メニュー”、“タイトル”、“トップ表示”、“終了スイッチ”、“ウィンドウ座標”、“背景”、“ボタン”、“サイクル”、“サウンド”があります。

#### ラウンチャ設定 CSV ファイル例: OneButtonSample.csv

#表示設定, ON/OFF

メニュー, ON,

タイトル, Sample,

トップ 表示, ON,

ウィンドウ座標, 10, 10, 160, 190

背景, 0, 0, 160, 160, . %res%WBall\_B.png

ボタン, 0, 0, 160, 160, . %res%Application1\_160x160.png, . %res%Application1\_160x160\_on.png, www.msn.co.jp, , ,



OneButtonSample の実行例



- カタカナ、数字、記号はすべて半角文字で記述してください。
- 行の先頭にコメントアウト記号の '#' をつけるとその行は読み込み時に無視されます。
- 空白行は無視されます。

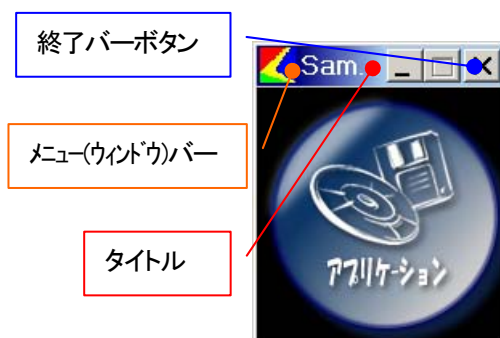
**メニュー**      メニュー(ウィンドウ)バーの表示/非表示を設定します。  
ただし、ウィンドウ設定で全画面表示を指定している場合、ウィンドウバーは非表示になります。

【書式】メニュー, [ON/OFF],

メニューバーが表示されている場合は終了バーボタンでラウンチャを終了してください。  
表示されていない場合は、【11-1-6 終了】で説明している方法で終了します。

**タイトル**      バーに表示するタイトル名を設定します。  
メニュー設定がOFFの場合は無視されます。

【書式】タイトル, [タイトル文字列],



**トップ表示**      他のウィンドウの上に常時表示するかどうかを設定します。  
ただし、ウィンドウ座標の設定で全画面表示を指定している場合、トップ表示はできません。  
(強制的にOFFになります。)

【書式】トップ表示, [ON/OFF],

**終了スイッチ**      メニューバー表示されていない設定時に「10-1-6 終了」のコマンドを受け付けるかどうかを設定します。

ウィンドウ表示が全画面で無いときは無視されます。

【書式】終了スイッチ [ON/OFF],

**ウィンドウ座標**      ラウンチャのウィンドウの表示位置とサイズを設定します。各値は Pixel 単位で指定します。

【書式】ウィンドウ座標 (X 座標 ), (Y 座標 ), (X サイズ ), (Y サイズ )



## 背景

背景として表示する画像イメージの座標、サイズ、ファイル指定をします。

最大 40 個まで登録可能で、記述されている順に描画していきます。  
(画像が重なった場合、後で記述されている方が上に描画されます。)

**【書式】 背景 ( X 座標 ), ( Y 座標 ), ( X サイズ ), ( Y サイズ ), ( ファイルパス )**

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。



## ボタン

ボタンとして表示する画像イメージの座標、サイズ、通常時とタッチされたときの画像ファイル、タッチされたときのコマンド等を指定します。

最大 40 個まで登録可能で、記述されている順に描画していきます。  
(画像が重なった場合、後で記述されている方が上に描画されます。)

**【書式】 ボタン ( X 座標 ), ( Y 座標 ), ( X サイズ ), ( Y サイズ ), ( 画像ファイルパス:押下時 ),  
( 画像ファイルパス:通常時 ), ( コマンド ), ( 引数 ), ( 作業フォルダ ),**

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。

ボタンがタッチされたときに実行するアクションはコマンド、引数、作業フォルダで指定します。

## サイクル

設定された時間で順番に切り替えて表示されるサイクル画像を指定します。  
一度に表示される画像は1つだけです。  
最大 40 個まで登録可能で、記述されている順番で表示されます。

**【書式】** サイクル,(X座標),(Y座標),(Xサイズ),(Yサイズ),  
(表示時間),(画像ファイルパス),

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

表示時間は ms 単位で指定します。あまり短くすると動作が不安定になる可能性があるので 1000ms 以上の値を設定してください。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。

各パラメータは画像ごとに独立に設定できます。

## サウンド

KTL ラウンチャがアクティブのときに再生する音楽データ(wave)を設定します。

登録できるのは 1 つだけです。

**【書式】** サウンド,(ファイルパス),(周期)

再生できる音楽ファイルは wave 形式のものだけです。

周期は ms 単位で指定します。

0 を指定すると連続再生(リピート再生)になります。



- OneButtonSample の様にウィンドウと同じ大きさのボタンを使用したデザインの場合、メニューを OFF にすると通常の方法では終了できなくなります。この状態でラウンチャを終了したい場合はタスクマネージャから終了してください。

### 11-2-3 設定ファイルの参照

KTL ラウンチャは起動時に以下の順番で指定された設定ファイルを検索します。

- コマンドライン引数による指定
- レジストリによる指定
- デフォルト設定ファイル

#### コマンドラインによる指定

コマンドライン引数で指定します。スクリプトで実行するときなどに使用できます。

例) `C:\Program Files\KTL\Launcher> Launcher D:\OneButtonSample.csv`

#### レジストリによる指定

[HKEY\_CURRENT\_USER\Software\KTL] キーの "LauncherIni" で設定します。

例) [HKEY\_CURRENT\_USER\Software\KTL]  
"LauncherIni"="D:\OneButtonSample.csv"

値が設定されていないときは、デフォルト設定ファイルを参照します。

#### デフォルト設定ファイル

デフォルトの設定ファイルは

`C:\Program Files\KTL\Launcher\Launcher.csv`

です。



- レジストリおよびデフォルト設定ファイルの変更を次回端末起動時にも反映させる場合は、システムドライブプロテクトを OFF の状態で編集を行う必要があります。
- 端末起動時にラウンチャを自動起動する場合の方法は【7アプリケーションの自動起動】をご参照ください。



## 12 リカバリ(再セットアップ)

予想外のトラブルやコンピュータウイルスに感染したなど動作が不安定になった場合には、本製品のオプション商品である「リカバリキット」を使用して、本製品のシステムドライブの状態を購入時の状態に戻すことができます。

また、「リカバリキット」を使用して、バックアップをとることも可能なので、後述するアプリケーションのインストールなどシステムドライブに影響する作業を行う際には「リカバリキット」があると安心です。

また、本製品のファームウェアのバージョンアップされた場合でも、「リカバリキット」を使用して本製品に新ファームウェアを適応することができます。

操作方法については別途リカバリキットのマニュアルをご参照ください。

「リカバリキット」購入については弊社営業までお問い合わせください。

## 13 アプリケーションの追加

オリジナルアプリケーションや市販のパッケージソフトを追加することで、本製品をより多機能な端末として使用することが可能になります。また、標準対応以外の周辺機器との接続には、その機器に対応したデバイスドライバ(以下ドライバと略す)の追加が必要になります。

本製品へアプリケーションやドライバを追加する場合には、以下の点に注意して実行してください。

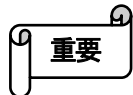
### 13-1 インストール前の準備

本製品には CD-ROM ドライブや FD ドライブ等が装備されていないため、別のインストール手段を準備する必要があります。

- ◆ USB CD/DVD ドライブを用意
- ◆ ネットワークドライブを利用
- ◆ 拡張 SD カードや USB メモリを利用

アプリケーションによっては実行できない方法もありますので、状況に応じて適切な方法を選択してください。

### 13-2 インストール時の注意事項



- 拡張 CF ドライブを用意し、C ドライブ以外のドライブへのインストールを行うことを強く推奨します。
- 単体で動作するアプリケーションなどは runproc.vbs を利用するなどして、なるべくシステムドライブプロテクトを OFF にしないで運用するようにしてください。
- アプリケーションによっては、本製品に標準搭載されているライブラリファイル以外のもが必要となる場合があります。そのときは必要なライブラリファイルを別途ご用意ください。
- インストール時に実際にインストールされるファイル容量よりも大きい空き容量が必要な場合があります。C ドライブの空き容量を超える容量を要求された場合、インストールは実行できません。
- アプリケーションによっては、システムドライブプロテクトを OFF の状態でインストールする必要があります。



- 必ずシステムドライブプロテクトが ON の状態でインストールの事前確認を行ってください。
- インストールが終了した後は十分動作確認を行ってください。
- お客様がシステムドライブプロテクトを解除した状態でインストール作業を行った場合は、システムドライブの内容が変更される可能性があります。システムドライブの内容の変更された状況における問題については弊社保証の対象外となりますのでご了承ください。

## 14 QFE インストーラ

本製品には Microsoft 社より提供されている QFE インストーラが組み込まれています。

これは Windows XP Embedded OS に Microsoft 社より発行された QFE (パッチ) を適用するためのプログラムです。緊急度が高く早急に対応する必要がある場合にご使用ください。

以下に QFE インストーラを使用する場合の手順を説明します。

### 【QFE インストール手順】

---

1. 弊社のホームページ (URL: <http://www.qualica.co.jp>) より QFE インストーラ関連ファイルをダウンロードします。
2. システムドライブプロテクトを OFF の状態にします。
3. ダウンロードしたファイル (圧縮ファイル) を USB メモリなどに保存し、本製品に装着します。
4. 圧縮ファイルを解凍し、Readme を参照して QFE インストーラを実行する。
5. インストールウィザードの指示に従い、インストールを実行する。
6. 全てのインストールが終了したら、システムドライブプロテクトを ON の状態にする。



- 本製品本体にあらかじめ組み込まれていない機能についての QFE はインストールすることはできません。また、システムドライブの空き容量などの条件からインストールが実行できない場合もあります。
  - 弊社が提供する以外の QFE を本システムに適用しないでください。システムに重大な影響を与える可能性があります。
  - 詳細に関しては弊社サポートセンターへお問い合わせください。
-

## 15 FeliCa

### 15-1 FeliCa とは

FeliCa とは、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カード技術方式のことで、本製品には出荷時オプションで FeliCa モジュールが装備できます。

### 15-2 FeliCa 利用上の注意

FeliCa を利用するためには以下の注意事項を守ってご使用ください。



- 複数のカードを同時に認識することはできません。
- 本製品の FeliCa モジュールで使用している COM ポートは「COM2」です。
- 本製品の FeliCa モジュールで使用しているボーレートは「19200」です。

### 15-3 FeliCa サンプルアプリケーション

本製品には FeliCa 機能を使用することのできるサンプルアプリケーションが2種類インストールされています。

2 種類の概要は以下のとおりです。

サンプルプログラム	ファイルパス	説明
UF_S920B_Sample_Polling.exe	C:\Program Files\QUALICA\Felica sensor	本製品に装備している FeliCa モジュールを使用して、IC カードをポーリング（検索）することができるアプリケーションです。
UF_920B_Sample_RW.exe	C:\Program Files\QUALICA\Felica sensor	本製品に装備している FeliCa モジュールを使用して、IC カードのポーリングや読み書きなどができるアプリケーションです。

## 15-4 FeliCa サンプルアプリケーションの使用

【15-3 FeliCaサンプルアプリケーション】にて説明した 2 種類のサンプルアプリケーションの具体的な使用方法について説明します。

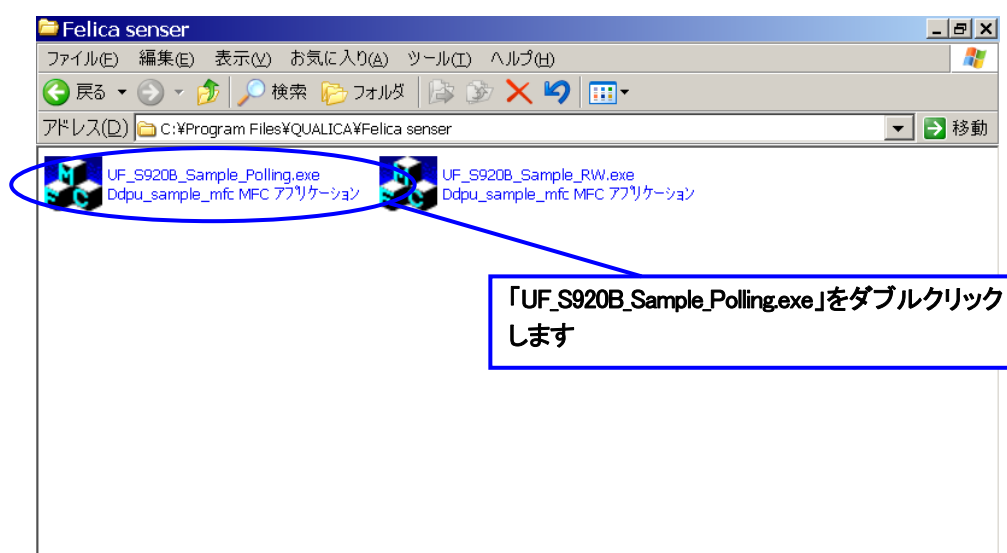
UF\_S920B\_Sample\_Polling.exe、UF\_S920B\_Sample\_RW.exe は本製品に装備している FeliCa モジュールを使用して、IC カードをポーリングすることができるかどうかを確認するアプリケーションです。

本製品に装備されている FeliCa モジュールの動作確認にご使用ください。

本アプリケーションは以下の要領で 사용할 수 있습니다。

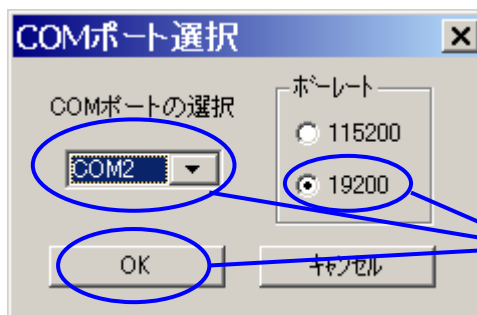
### 【操作手順】

1. [エクスプローラ]を起動し、[C:\Program Files\QUALICA\Felica sensor]フォルダを表示します。
2. 「UF\_S920B\_Sample\_Polling.exe」をダブルクリックします。



UF\_S920B\_Sample\_Polling.exe

3. 「COM ポートの選択」が表示されますので、「COM ポートの選択」で「COM2」、  
「ボーレート」で「19200」を選択して「OK」ボタンをタッチします。

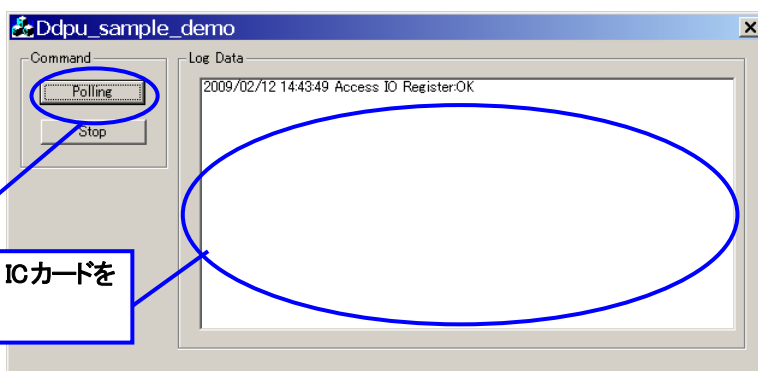


各ラジオボタンにチェックを入れて、  
「OK」ボタンをタッチします。

COM ポートの選択

4. 「Ddpu\_sample\_demo」が表示されますので「Polling」ボタンをタッチして、「Log Data」のメッセージ表示  
部分に「Access IO Register:OK」と表示されることを確認してください。

5. 本製品に IC カードを近づけると「Log Data」のメッセージ表示部分に IC カードが認識できたことを示  
すメッセージが表示されます。



「Polling」ボタンを押し、ICカードを  
近づけてください。

Ddpu\_sample\_demo

以上で操作手順は終了です。

### 15-4-1 UF\_S920B\_Sample\_RW.exe

UF\_S920B\_Sample\_RW.exe は本製品に装備している FeliCa モジュールを使用した以下の 6 つの機能を以下の要領で確認することができます。

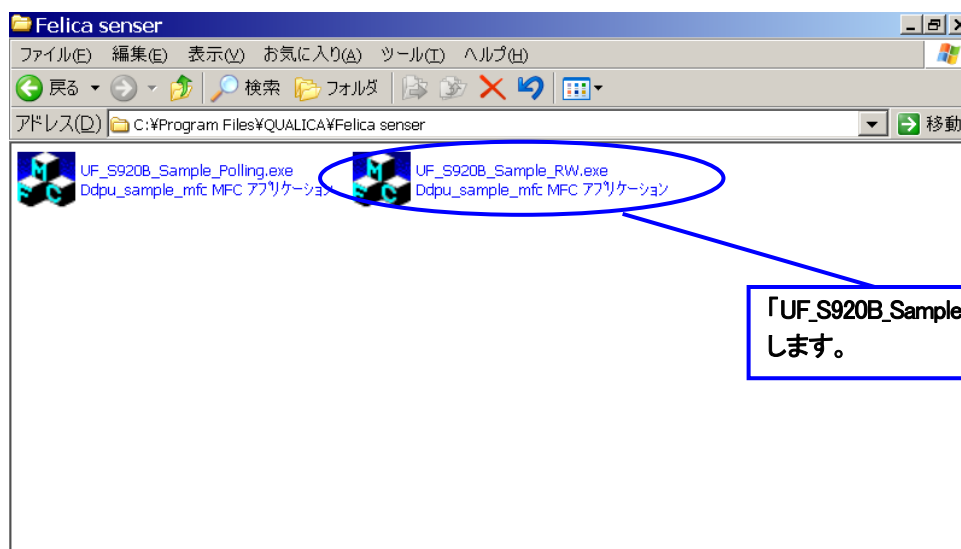
- ポーリング
- ID カードの読み込み
- ID カードへの書き込み
- FeliCa モジュールの自己診断
- FeliCa モジュールのファームウェアバージョンの確認
- FeliCa モジュールの RF 出力の OFF

#### 重要

- 本アプリケーションでは上記の 6 つの機能を使うために初期設定が必要です。  
以下の手順説明では初期設定、各機能の使用方法の 2 段階に分けて説明しています。  
必ず、初期設定を行ってから 5 つの機能を使用してください。

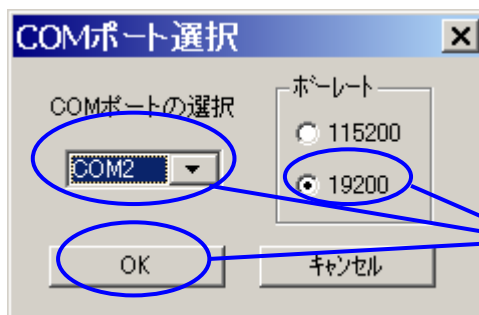
#### 【初期設定手順】

1. [エクスプローラ]を起動し、[C:\Program Files\QUALICA\Felica sensor]フォルダを表示します。
2. 「UF\_S920B\_Sample\_RW.exe」をダブルクリックします。



UF\_S920B\_Sample\_Polling.exe

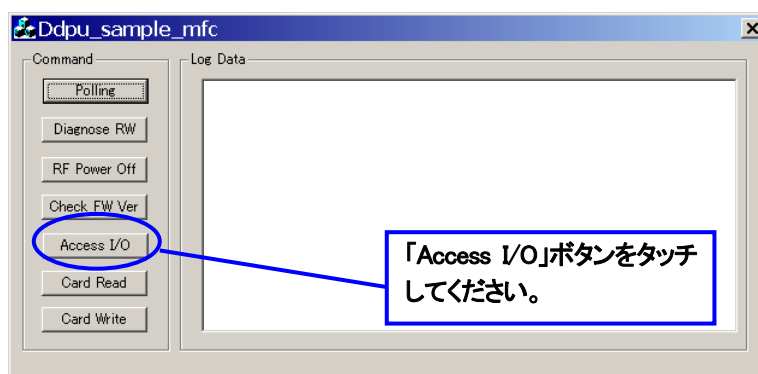
3. 「COM ポートの選択」が表示されますので、「COM ポートの選択」で「COM2」、  
「ボーレート」で「19200」を選択して「OK」ボタンをタッチします。



各ラジオボタンにチェックを入れて、  
「OK」ボタンをタッチします。

COM ポートの選択

4. 「Ddpu\_sample\_mfc」が表示されますので「Access I/O」ボタンをタッチして、「Log Data」のメッセージ表示  
部分に「Access IO Register:OK」と表示されることを確認してください。



「Access I/O」ボタンをタッチ  
してください。

Ddpu\_sample\_mfc

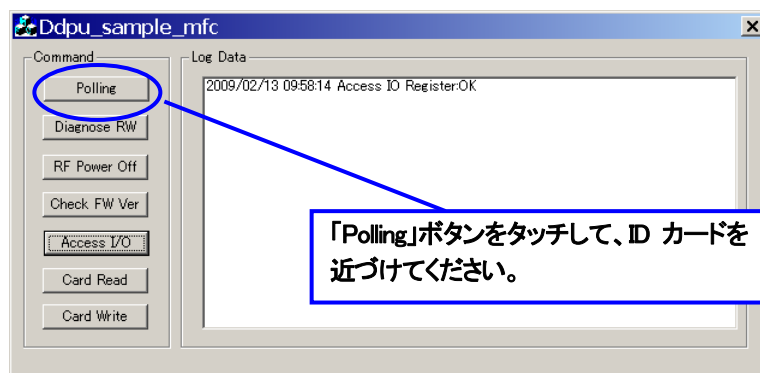
以上で初期設定手順は終了です。



## 【ポーリング手順】

---

1. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「Polling」ボタンをタッチしてください。
2. 本製品に IC カードを近づけると「Log Data」のメッセージ表示部分に IC カードが認識できたことを示すメッセージが表示されます。



Ddpu\_sample\_mfc::ポーリング

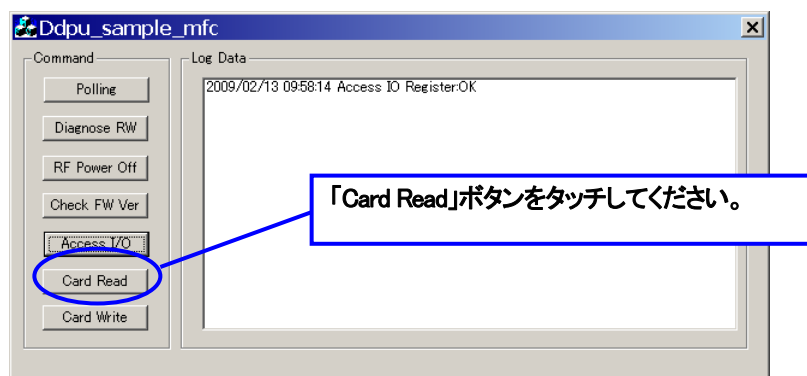
以上でポーリング手順は終了です。

---

### 【ID カードの読み込み手順】

---

1. 前述の手順でポーリングを実施してください。
2. 本製品に ID カードを近づけた状態で「Ddpu\_sample\_mfc」の「Card Read」ボタンをタッチしてください。  
「Log Data」のメッセージ表示部分に ID カードのデータが表示されます。



Ddpu\_sample\_mfc:: Card Read

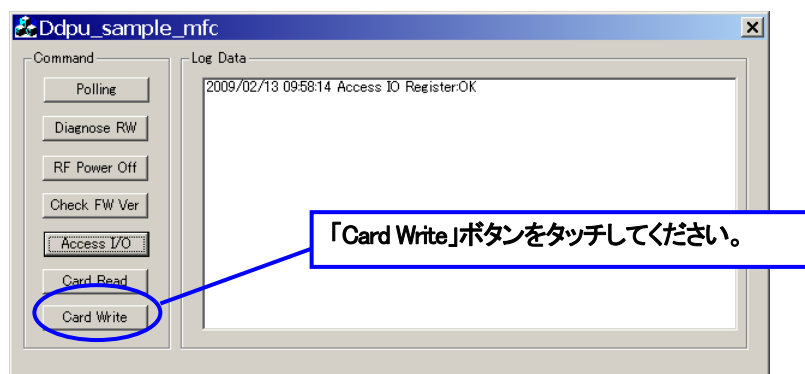
以上で ID カードの読み込み手順は終了です。

---

## 【ID カードの書き込み手順】

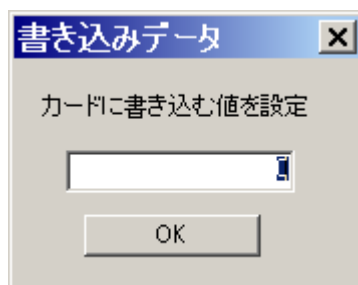
---

1. 前述の手順でポーリングを実施してください。
2. 本製品にIDカードを近づけた状態で「Ddpu\_sample\_mfc」の「Card Write」ボタンをタッチしてください。



Ddpu\_sample\_mfc:: Card Read

3. 「書き込みデータ」が表示されますので書き込む数字を入力して「OK」ボタンをタッチしてください。



書き込みデータ

4. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「Log Data」のメッセージ表示部分に「Card Write:Card Write Success!」と表示されていれば、IDカードにデータの書き込みが行われています。

以上でIDカードの書き込み手順は終了です。

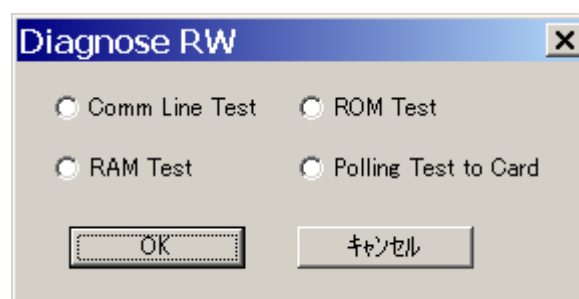
---

## 【FeliCa モジュールの自己診断実施手順】

1. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「Diagnose RW」ボタンをタッチしてください。
2. 「Diagnose RW」が表示されますので4つのメニューから実施したい項目を選択して「OK」ボタンをタッチします。

ただし、「Polling Test to Card」の項目を選択した時は ID カードを近づけた状態で「OK」ボタンをタッチするようにして下さい。

項目名	説明
Comm Line Test	本製品と本製品に装備している FeliCa モジュールとが正常に通信できているかどうかを確認できます。
ROM Test	本製品に装備している FeliCa モジュールの ROM が正常に動作しているかどうかを確認できます。
RAM Test	本製品に装備している FeliCa モジュールの RAM が正常に動作しているかどうかを確認できます。
Polling Test To Card	ID カードに対してポーリングを 128 回繰り返し実行します。



Diagnose RW

3. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「Log Data」のメッセージ表示部分に「自己診断結果:OK」と表示されていれば、成功しています。
- ただし、「Polling Test To Card」は『自己診断結果:[ポーリングに失敗した回数]』をメッセージとして表示します。

以上で FeliCa モジュールの自己診断実施手順は終了です。

### 【FeliCa モジュールのファームウェアのバージョンの確認手順】

---

1. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「Check FW Ver」ボタンをタッチしてください。
2. 「Log Data」のメッセージ表示部分に本製品に装備している FeliCa モジュールのファームウェアバージョンが表示されます。

以上で FeliCa モジュールの自己診断実施手順は終了です。

---

### 【FeliCa モジュールのファームウェアの RF 出力の OFF 設定手順】

---

1. 「Ddpu\_sample\_mfc」の「RF Power Off」ボタンをタッチしてください。
2. 「Log Data」のメッセージ表示部分に「RF Power PFF:OK」と表示されれば、本製品に装備している FeliCa モジュールの RF 出力が OFF となります。

以上で FeliCa モジュールの自己診断実施手順は終了です。

---

## 15-5 FeliCa 機能使用のために

FeliCa を実際に使用するには別途アプリケーションが必要です。

FeliCa を使用するためのアプリケーション開発を行う場合は弊社営業までお問い合わせください。

お問い合わせ先

クオリカ株式会社 ソリューション事業部 WebLight 室

TEL 03-5857-8165 FAX 03-5857-8187

2009 年 4 月 1 日 初版 発行



クオリカ株式会社

<http://www.qualica.co.jp/>

WebLight 室

〒135-0016 東京都江東区東陽 5-29-15

サポートセンタ

〒135-0002 東京都江東区住吉 2-7-14 國谷ビル 2F

TEL: 03-5625-8174 FAX: 03-5625-8230

Mail [weblight@qualica.co.jp](mailto:weblight@qualica.co.jp)